

## 審査意見への対応を記載した書類（3月）

### 目次

現代システム科学域（共通）

| No.                                                                                                                                                                                                                                             | 審査意見                                                                                                                                                                                                                        | ページ |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 【設置の趣旨・目的等】                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                             |     |
| 1.                                                                                                                                                                                                                                              | 現代システム科学域が、異なる4つの専攻分野の学類で構成されることの妥当性が不明確であるため、別途指摘している「現代システム」や「現代社会システム」の定義を示して、妥当性を明確にすること。<br><br>(是正事項)                                                                                                                 | 10  |
| 2.                                                                                                                                                                                                                                              | 養成する人材像において「(略) サステイナブルな社会を創造するという高い倫理観と使命感を持った人材」とされているが、別途指摘しているとおり、「サステイナビリティ」や「SDGs」を冠した演習が設定されているものの、「SDGs」の理念を共有するにとどまり、具体的な目標まで学修するような教育課程ではなく、設置の趣旨の説明と教育課程の内容に差異があると考えられるため、妥当性を明確にするか、必要に応じて修正すること。<br><br>(是正事項) | 22  |
| 3.                                                                                                                                                                                                                                              | 「領域横断的知識・技能とシステムの思考を発揮し、課題解決を図ることによって、サステイナブルな社会の実現に貢献できる人材」が掲げられているが、4つの学類がどう関係して「領域横断的」となっているのか不明確であるため、明確にすること。<br><br>(是正事項)                                                                                            | 34  |
| 4.                                                                                                                                                                                                                                              | 設置の趣旨等の以下の点について、明確にするか、適切に修正すること。<br><br>(是正事項)                                                                                                                                                                             | 35  |
| (1) 「現代システム」、「現代社会システム」、「環境社会システム」、「システムの志向思考力」、「システム系科目」、府立大学の「環境システム」など、「システム」を含む複数の用語について、その定義が明らかでなく、適切に使用されているのか判然としない。また、「サステイナビリティ」や「サステイナビリティ志向性」についても同様である。このため、それぞれについて、学問的な定義を明らかにした上で、3つのポリシーや教育課程、教員組織などを含め、全体として整合性のある設置計画に改めること。 |                                                                                                                                                                                                                             |     |
| (2) 設置の必要性において、「領域横断的応用力」が掲げられている一                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                             |     |

方で、1つの学類において、2つの異なる専攻分野の課程を設けることの妥当性が不明確であるため、その意義や必要性を示して妥当性を明確にすること。

5. 各学類のディプロマ・ポリシーについて、「知識・技能」の項においては「自然科学、社会科学、人間科学（に関する統合的知識・技能を持つ）」と説明されている一方で、「思考力・判断力・表現力」の項では、例えば、「環境学、政策科学、社会科学、人文科学など（複数領域の知識を横断的に用いて）」等と説明がされており、学類のディプロマ・ポリシーの学問分野の説明として一貫性や妥当性が不明確である。また、自然科学と社会科学の融合のメリットが教育課程においてどのように担保されているのかを含め、明確にすること。

(是正事項)

58

6. 学域のディプロマ・ポリシーにおいて、「データサイエンス」が「知識・技能」に位置付けられているが、昨今は、単に知識・技能のみならず思考力等につなげるものとして展開されていることから、当該ポリシーにおける位置付けを再検討することが望ましい。

(改善事項)

62

7. ディプロマ・ポリシーの説明において、「領域横断的応用力」とされている箇所と、「領域横断的知識・技能」とされている箇所があるため、妥当性を明確にするか、修正すること。

(是正事項)

63

8. 「サステナビリティ」に関する教育を重視しているが、学修した成果と想定される就職先との関係性について、教育課程の内容を踏まえ説明すること。

(改善事項)

64

#### 【名称等】

9. 現代システム科学域の英語名称が、「College of SustainableSystem Sciences」となっており、日本語表記と対応していないと考えられる。また、学部を School、学科を Department としている一方で、学域を College、学類が Department としているが国際的通用性が不明確である。このため、学域、学類及び学位の名称に用いられている言葉の定義を明確にした上で、国際的な用例や通用性を示して、妥当性を明確にするか、修正すること。なお、環境社会システム学類の英語名称が、「Department

of Environmental and Social

System Sciences」とあるが、「Systems」が適切ではないかと考えられるため、検討すること。

(是正事項)

66

【教育課程等】

10. 「未来デザインコース (FDC)」について、以下の点を明確にすること。

(是正事項)

70

(1) 「FDC の学生は、文理を問わず、数学や統計学、語学などの現代人に必須の学問的スキルを学修した後、メンター教員との履修相談を通して、自らが解決したい課題・目的に応じた未来デザイン学修プログラムを作成し、4年間の学修を行う」として、各学類とは別に「未来デザインコース (FDC)」が設置されているが、他の4つの学類では、養成する人材像や教育方法論がそれぞれ学問領域を指定し区別されているのに対し、FDCについては、各学類を超えた学修範囲を履修するだけで、基本的な教育研究のアプローチが同じであり、FDC 固有の特別な授業科目を配置するわけではなく、また、所属する学類の専攻分野を踏まえた必修科目の設定もなく、通常のエデュケーション課程に埋め込まれた設計となっている。これらのことから、この教育課程により、なぜ、他の学類とは異なる「FDC」が掲げる人材の養成につながるのか不明確であるため、FDC について、他の学類とは別に設けることの趣旨について、養成する人材像やディプロマ・ポリシーを踏まえながら、妥当性を明確にするとともに、想定される就職先ごとに履修モデルを示すこと。

70

(2) 学域単位入学生には入学当初に、学類単位入学生には1年次終了後に FDC 希望調査をし、また、途中段階で他の学類との行き来ができるなどの説明があり、当該コースの入学から卒業までの履修の流れ、各学類に係る専門科目の履修に必要な知識等の担保、各学類の定員管理の方策が適切に行われるのか不明確であるため、明確にすること。また、FDC の学生について、上述のように入学段階と1年次終了後の2つの機会が設定されているが、その意義が不明確であり、かつ、学類の専攻分野によっては、1年次から一定の専門的な学修が始まると考えられることから、履修の体系性に影響がないのか明確にすること。なお、説明に当たっては、「学類単位入学生」と FDC の卒業要件単位数が異なることの考え方や所属学類が変更となった場合の卒業要件単位数の取扱いを明確にすること。

|                                                                                                                                                                                                                                                               |           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| と。                                                                                                                                                                                                                                                            | 72        |
| (3) 卒業要件において、学類所属の通常の学生と未来デザインコース（FDC）の学生では、卒業要件単位数が違っているが、どのような考え方に基いているのか不明確である。「SDGs 演習」の位置付けを示した上で、履修の単位設定の妥当性を明確にすること。                                                                                                                                   | 74        |
| (4) FDC の学生については、4 学類の枠を超え、かつ、履修モデルもなく学生ごとに個別の教育課程を履修し、卒業要件も他の学類よりも多くハードルが高い設定となっており、学修を継続できるインセンティブが重要となるが、例えば、メンター教員の選定方法、教員間の協力、教務職員のサポート体制など、教員指導体制の具体的な内容が不明確であるため、明確にすること。                                                                              | 74        |
| 11. 「最終的にその課題解決のための実践型科目『SDGs 演習』を履修する PBL (Project Based Learning) コースを卒業要件に課す」とあるが、「未来デザインコース」でもコースという文言が使用されており、各コースの定義や位置付けを明確にすること。また、卒業要件において、学類所属の通常の学生と未来デザインコースの学生では、卒業要件単位数が違っているが、どのような考え方に基いているのか不明確である。「SDGs 演習」の位置付けを示した上で、履修の単位設定の妥当性を明確にすること。 | (是正事項) 81 |
| 12. 「現代システム科学」や「環境社会システム学」に係る概論的科目が学域共通科目や学類共通科目には見受けられないため、別に求めたそれらの定義に係る説明と合わせて、妥当性を明確にするか、修正すること。                                                                                                                                                          | (是正事項) 83 |
| 13. ディプロマ・ポリシーについて、以下の点を明確にすること。                                                                                                                                                                                                                              | (是正事項) 85 |
| (1) 学域のディプロマ・ポリシーに「複数領域の知識を横断的に用いて、現代システムに内在する課題の解決を目指すことができる力（領域横断的応用力）を養うために、学域共通科目（各学類導入科目など）を配置する」とあるが、他の学類の科目を履修するだけでは「領域横断的応用力」が身に付くとは考えにくく、そもそも、なぜ、この 4 学類の各科目を履修すると、そのような能力につながる                                                                      |           |

のかが判然としない。また、一般的に、異なる専攻分野の知識等を体系的に修得するためには、当該知識等を融合させる科目が必要と考えられるところ、そのような科目も見受けられないため、これらの点の妥当性を明確にするか、必要に応じて修正すること。

85

(2) 学域としてのディプロマ・ポリシーにおいて、「(データ活用力) データサイエンスの知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる」と示されているが、工学分野の人材養成ではない学類もある中で、当該ポリシーを共通的に設定する意義、必要性が不明確であるため、養成する人材像との関係で明確にすること。

86

14. カリキュラム・ポリシーの説明において、ディプロマ・ポリシーに対応する科目が例示されているが、専門科目の多くは選択科目となっており、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の修得が担保される教育課程になっていないと考えられるため、履修設定の考え方を明確にした上で、妥当性を明確にするか、修正すること。

(是正事項)

88

15. カリキュラム・ポリシーの説明において、「システムの思考力」に対応する科目は、知識情報システム学類では、例えば、「『生産システム科学』、『空間情報システム』など」とされ、当該学類の学問分野を踏まえた「システムの思考力」と対応すると考えられる科目が示されている一方で、環境社会システム学類では、「『地球環境学』、『言語の社会システム』」など」とされてはいても、いずれも当該学類の学問分野を踏まえた「システムの思考力」と関連する科目なのか不明確であるため、明確にするか修正すること。

(是正事項)

89

16. カリキュラム・ポリシーによると、ディプロマ・ポリシーに掲げる「思考力・判断力・表現力」を身に付けるために、専門科目の学域共通科目や「初年次ゼミナール」を配置するとされているが、専門科目の学域共通科目の多くはオムニバス形式で、かつ、講義形式であり、「初年次ゼミナール」は授業内容に係る説明がなく、演習科目について「50 人を超えないように配慮する」とあり、比較的大人数で行われるような説明があることも踏まえると、ディプロマ・ポリシーに掲げる思考力・判断力・表現力を身に付けることができるのか不明確であるため、当該科目のシラバスを示して妥当性を明確にするか、修正すること。

(是正事項)

90

17. 学域共通科目の授業科目において、オムニバス形式の授業が配置されているが、各教員がそれぞれの授業回を担当するだけで、いわゆるイントロダクションや総括的な授業回が設定されていないものがあり、学域の目的である「サステイナブルな社会の実現に貢献する」人材を育成するだけの教育効果が得られるのか不明確である。このため、オムニバス形式の授業科目の教育効果について、妥当性を明確にするか適切に修正すること。

(是正事項)

94

18. 「学域共通科目」の必修科目である「サステイナビリティ」や「PBL 科目」の「SDGs 演習」については、学域の設置の必要性にも示されている重要な要素で、学域の基盤であると考えられるが、体系性が不十分である。例えば、「サステイナビリティ」は講義形式で、かつ、オムニバス形式で各教員の担当分野を個別に教授する方式で、いわゆるイントロダクションや総括的な授業回が設定されておらず、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力が体系的に学修できるとは考えられず、授業内容においても、例えば、サステイナビリティの考え方や環境、社会、経済の関係性を踏まえた SDGs の成り立ちなどの内容が体系的に教授されるものとは言えない。「SDGs 演習」についても、シラバスが統一的な方針ののちとして体系的な学修内容が示されているとはいい（がた）難い。これらについて、同分野における内外の研究動向も踏まえて適切に修正すること。

(是正事項)

96

19. 「SDGs 演習」は「達成度で成績評価を行う」とされているが、質疑応答など主観的な評価になってしまう可能性のある項目もあることから、教育課程における重要性を踏まえると、例えば、ルーブリックを明示するなどして、評価基準をより具体的に明示することを検討すること。

(是正事項)

98

20. 「主専攻とは別に、課題解決能力をプロジェクト型で学ぶ PBL (Project Based Learning) コースを修得することを卒業要件に課す。」、「PBL コースはいわば学域内副専攻のような履修プログラムとなっており、領域横断型かつ課題解決型の学びによりサステイナビリティ志向性を醸成する。」とあるが、どのように「サステイナビリティ志向性」が醸成されるのか不明確であることから、課題設定のプロセスや指導体制、実践性の担保の方策などを含め、具体的な内容について、明確にすること。

|                                                                                                                                                                                                                                                      |        |     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-----|
|                                                                                                                                                                                                                                                      | (是正事項) | 99  |
| 21. 設置の趣旨において、「各テーマの PBL コースではそのテーマに沿った科目群が指定されており、その中の科目を履修したのち、3 年次に PBL コースの最終科目である『SDGs 演習』を履修する」とあり、学類の通常の学生は 1 つ、PBL コースは 2 つの「SDGs 演習」を履修するとある。多様な演習が設定されているため、学生が「SDGs 演習」を履修するに当たって、どのような科目を履修する必要があるのか理解できるよう、想定される就職先を示した上で履修モデルを充実させること。 | (是正事項) | 101 |
| 22. シラバスについて、授業内容や成績評価方法が不明確なものや、シラバス上、「半期開講科目は第 16 回まで、通年開講科目は第 31 回まで（試験を含む）」とシラバス上で指示されているが、そのような記載になっていないなど、不整合があるため、シラバスのチェック体制や作成方針を明らかにしてシラバス全体を検証の上、適切に修正すること。なお、1 年次に履修する科目のシラバスについては、新入生であることに留意し、わかりやすい記載となるよう留意すること。                     | (是正事項) | 108 |
| 23. 唯一の学域で、かつ、「融合領域での学び」を目指すこととしている本学域の教育課程について、幅広い学修を提供する観点から、他の学部所属の学生の履修を認めるのか説明すること。                                                                                                                                                             | (改善事項) | 109 |
| 24. インターンシップについて、以下の点を説明すること。                                                                                                                                                                                                                        | (改善事項) | 110 |
| (1) 「海外インターンシップ」について、海外渡航するに当たって、例えば、文化適応など、共通的に留意しなければならない内容をシラバス等に分かりやすく記載すること。また、当該科目の指導体制について、教員及び事務局の組織的な運営や支援方策について説明すること。さらに、海外インターンシップ先との調整方法をどのように行うのかについて説明すること。                                                                           |        | 110 |
| (2) 「国内企業インターンシップ」について、具体的な内容や、インターンシップ先を確定するまでの手続、単位を与えるための評価方法などについて、説明すること。                                                                                                                                                                       |        | 110 |

25. 学域の「教育課程の概要及び特色」において、「入学時の文理を問わず、数学、統計学、化学、生物学、英語、初修外国語にそれぞれ必修科目」を設けるとあるが、教育課程の概要等の卒業要件及び履修方法の項の説明では、例えば、社会共生科学課程においては、数学が必修となっておらず、整合していないと見受けられるため、どのようにこれらの科目の履修が担保されているのか、明確にすること。

(是正事項)

114

#### 【入学者選抜】

26. 入学者選抜の方法や試験科目が多様な設定となっているが、各学類の科目の履修の前提となる基礎学力としてどのようなものを設定しているのか不明確である。また、異なる学力の学生に対して、多様な教育課程の履修を行うことができるのか不明確であるため、学修支援の方策を含め、明確にすること。なお、「学校推薦型」では一定規模の定員が設定されている学類もあり、「一般前期」などの基礎学力を問う方式と比べ、入学者選抜が適切に機能するのか不明確であるため、「小論文・面接」の方法で基礎学力の確認をどのように行えるのか明確にすること。

(是正事項)

123

27. アドミッション・ポリシーにおいて、「サステナビリティ志向性」が示されているが、入学前の時点において、どのようにして客観的な評価が可能なのかを明確にすること。

(是正事項)

129

#### 【教員組織】

28. 学外実習や演習の指導体制について、助手の配置もないため適切な指導が行えるのか不明確であるため、明確にすること。

(是正事項)

134

29. 「留学生アドバイザー教員」について、例えば、全学的に整備されるのかどうか、又は学域として整備されるのかなど、組織的な支援体制について説明すること。

(改善事項)

137

#### 【施設・設備等】

30. ディプロマ・ポリシーに「データサイエンスの知識・技能を養うために、基幹教育科目の情報リテラシー科目および基礎教育科目（「統計学基



礎」、「プログラミング入門」など）および学類専門科目（「AI プログラミング」など）を配置する」とあるが、これらの科目を履修するための施設や設備が整備されているのか説明すること。

(改善事項) 139

【その他】

31. 設置の趣旨において、「専門演習科目」と「学類演習科目」、「学理専門科目」という文言が使用されており、整合性のある説明となっていないと考えられるため、改めること。

(改善事項) 141

【人材需要の社会的動向・学生確保の見通し】

32. 「企業担当者向け出口需要調査（アンケート）」について、回答のあった69 件のうち、「必要性の高い学部／学域」としては一定の評価を得られているものの、「採用したい学部／学域の人数」の回答では、42 件が未定となっており、融合的な教育を行う本学域の社会的なニーズが十分であるか懸念されるため、「サステイナビリティ」に関する教育を受けた学生の就職が想定される産業分野を具体的に示すとともに、就職支援の方策や採用見込みなどを明確にすること。

(是正事項) 142

## 審査意見への対応を記載した書類（3月）

複数の審査意見に、「サステナビリティ」「現代システム」「領域横断的応用力」「システムの思考力」などの言葉の定義について指摘があった。そこで、資料1（現代システム科学域に関するキーワードについての説明）において、現代システム科学域に関連する主要なキーワードの定義を行うとともに、学類の構成について整理したので、以下の審査意見への対応の参考としていただきたい。

### （是正事項）現代システム科学域

1.現代システム科学域が、異なる4つの専攻分野の学類で構成されることの妥当性が不明確であるため、別途指摘している「現代システム」や「現代社会システム」の定義を示して、妥当性を明確にすること。

### （対応）

定義があいまいであった「現代社会システム」という言葉は使用せず、一般的な言葉である「現代社会」と、定義を明確にした「社会システム」や「持続可能システム」「現代システム科学」を明確に使い分けることとした。

資料1（現代システム科学域に関するキーワードについての説明）に示すように、「持続可能システム」を、「大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などから成る自然システム（natural system）、ガバナンス、異・多文化共生、ジェンダー、万人・生涯支援、社会保障などから成る社会システム（social system）、哲学・倫理、自・異文化理解、万人・生涯教育、人間心理などから成る人間システム（human system）、それら3つのシステムをつなぐ役割を果たす情報システム（information system）の集合体」として定義する。また、「現代システム科学」を、「持続不可能な現代社会を持続可能な社会に変革するための持続可能システム科学」として定義し、Sustainable System Sciences を英訳名称として用いることにした。このような現代システム科学（Sustainable System Sciences）には、自然システムの持続可能性を理解するうえで必要となる地球環境学、生態学、環境計画学、食糧生産学などの自然科学、社会システムおよび人間システムの持続可能性を理解するうえで必要となる歴史学、言語学、政策科学、法律学、経済学などの人文・社会科学、および哲学、倫理学、社会学、社会福祉学、教育学、心理学などの人間科学、情報システムの持続可能性を理解するうえで必要となる情報システム学、知能情報学など情報学の各要素が必要である。

持続可能システムを構成する4つのシステムと、現代システム科学に必要とされる4つの学問分野は、必ずしも1対1の関係にはなっていない。現代システム科学域を構成する学類を設定する際には、主な対象となるシステムと、主な基盤学問分野の組み合わせにより、ターゲットとなる教育研究分野を整理することが重要である。ここでは、教育研究分野の親和性と、想定される進路を見据えたカリキュラム構成の適合性を考慮し、知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類の4学類で現代システム科学域を構成することとした（表1）。また、知識情報システム学類での審査意見 No.1 ならびに心理学類での審査意見 No.2 を受けて、環境社会システム学類の学類の学位又は学科の分野も見直す

こととし、自然環境学に関する中心分野である工学および農学、社会環境学に関する中心分野である文学、環境共生学に関する中心分野である経済学を残し、他の分野はそれらを支える周辺分野であることから削除することとした。なお、教育福祉学類における学位又は学科の分野は教育学・保育学および社会学・社会福祉学のままでよいと判断した。

表 1 現代システム科学域を構成する 4 学類

| 知識情報システム学類<br>(学生定員:60)                                                                                                                                                      | 環境社会システム学類<br>(学生定員:100)                                                                                                                                                                | 教育福祉学類<br>(学生定員:55)                                                                                                                                                              | 心理学類<br>(学生定員:45)                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>主な教育研究分野:</b><br>情報システム学<br>情報通信工学<br>人工知能学<br>応用情報学<br><b>主な対象とするシステム:</b><br>情報システム<br>社会システム<br>人間システム<br><b>主な基礎学問分野:</b><br>情報学<br>人間科学<br><b>学位又は学科の分野</b><br>工学、理学 | <b>主な教育研究分野:</b><br>自然環境学<br>社会環境学<br>環境共生学<br><b>主な対象とするシステム:</b><br>自然システム<br>社会システム<br>人間システム<br><b>主な基盤学問分野:</b><br>自然科学<br>人文・社会科学<br>人間科学<br><b>学位又は学科の分野</b><br>文学、経済学、<br>工学、農学 | <b>主な教育研究分野:</b><br>社会福祉学<br>保育学<br>教育学<br>ジェンダー論<br><b>主な対象とするシステム:</b><br>社会システム<br>人間システム<br><b>主な基盤学問分野:</b><br>人文・社会科学<br>人間科学<br><b>学位又は学科の分野</b><br>教育学・保育学、<br>社会学・社会福祉学 | <b>主な教育研究分野:</b><br>認知科学<br>社会・環境心理学<br>臨床心理学<br><b>主な対象とするシステム:</b><br>情報システム<br>人間システム<br><b>主な基盤学問分野:</b><br>人間科学<br>情報学<br><b>学位又は学科の分野</b><br>文学 |
| 学士(情報学)<br>学士(学術)                                                                                                                                                            | 学士(環境社会システム学)<br>学士(学術)                                                                                                                                                                 | 学士(教育福祉学)<br>学士(学術)                                                                                                                                                              | 学士(心理学)<br>学士(学術)                                                                                                                                     |

#### [知識情報システム学類]

持続可能システムのうち、主に情報システム、社会システム、人間システムを対象とし、現代システム科学のうち、主に情報学、人間科学を基盤学問分野とする。情報・通信系企業などへの進路を見据え、以下のような人材を養成する。

現代社会の維持・発展に不可欠となっている情報システムについて理解するとともに、持続可能な社会を実現するための課題解決の手段として活用することができるような情報システムを主体的にデザインする能力、また急速に進歩し続ける情報通信技術を積極的に取り入れる態度を身に付けることで、社会の変容にともなう課題を継続して解決するための科学的な分析力・思考力を持つ人材を養成する。

#### [環境社会システム学類]

持続可能システムのうち、主に自然システム、社会システム、人間システムを対象とし、現代システム科学のうち、主に自然科学、人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野とする。さまざまな職種の企業、公務員、NPO など多種多様な進路を見据え、以下のような人材を養成する。

自然システムの持続可能性を理解するために必要となる自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる環境共生学の観点から、領域横断的応用力とシステムの思考力

を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成する。

〔教育福祉学類〕

持続可能システムのうち、主に社会システム、人間システムを対象とし、現代システム科学のうち、主に人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野とする。社会福祉士および保育士の資格取得、公務員、医療・福祉関係などへの進路を見据え、以下のような人材を養成する。

持続可能な社会を実現するために、現代社会の諸問題を深く理解するとともに、複合的な視野から社会の仕組みをよりよいものに変革していくことのできる力をもち、地域社会から国際社会までの広範な領域で活躍できる人材を養成する。

〔心理学類〕

持続可能システムのうち、主に情報システム、人間システムを対象とし、現代システム科学のうち、主に情報学、人間科学を基盤学問分野とする。公認心理師の資格取得、公務員、カウンセラーなどへの進路を見据え、以下のような人材を養成する。

現代社会に生きる人々が、他者や社会、文化との相互作用の中で抱える心に起因する問題に焦点を当て、心理学及び心理学関連分野の専門的知識・技能とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成する。

(新旧対照表)

現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(設置趣旨 (本文) -2 ページ)</p> <p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>ア 学部等設置の理由及び必要性</p> <p>(1) 社会的背景</p> <p>国連環境計画 (UNEP : United Nations Environment Programme) の下で開かれた環境と開発に関する世界委員会 (WCED : World Commission on Environment and Development) は、1987 年に最終レポート「我ら共有の未来 (Our Common Future)」を発表し、その第 1 部第 2 章前文冒頭で、持続可能な開発 (Sustainable Development) を次のように定義した。「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発 (Sustainable development is development that meets the needs of the present without compromising the ability of future generations to meet their own needs.)」。</p> | <p>(1 ページ)</p> <p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>ア 学部等設置の理由及び必要性</p> <p>(1) 社会的背景</p> <p>現代社会には、地球温暖化や人口爆発による水・食糧・エネルギー危機といった地球規模の問題、富の集中と貧困、宗教・価値観の違いによる国家・地域間の対立、都市域における格差社会や高齢社会の問題、心の病と生きる意味の喪失など、実にさまざまな問題が存在し、我々の暮らしに大きな脅威を与えている。2015 年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」では、そのようなグローバルな問題からローカルな問題まですべてを解決に導く手段として、2030 年までに達成すべき 17 の持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) が示された。</p> |

定義に続く前文の最後には、世代間の公平性 (equity between generations) だけでなく、各世代における公平性 (equity within each generation) も担保されなければならないと記されており、資源へのアクセスに対して不公平が起こらないよう、地域間の格差や経済的な格差によらず、誰もが等しく資源を享受できることがサステナビリティには必要であるとしている。この理念は、2015年の国連総会で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ (2030 Agenda for Sustainable Development)」の前文に記されている、「我々は誰一人取り残さないと固く誓う (We pledge that no one will be left behind.)」へと引き継がれている。

さらに、第 1 部第 2 章第 1 節では、「ニーズ」について解説されている部分があり、衣食住など、貧困層でも最低限生きるために必要な基本的ニーズ (essential needs) を満たすことが最優先であり、その先に社会面や文化面も含む生活の質 (quality of life) の改善があるとしている。このような「ニーズ」を満たすという概念は、1948 年に出版された世界保健機関 (WHO : World Health Organization) 憲章によって定義された健康「健康とは、身体面、精神面、社会面における、すべてのウェルビーイング (良好性) の状況を指し、単に病気・病弱でない事とは意味しない (Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.)」を最低限保障するという概念に一致する。

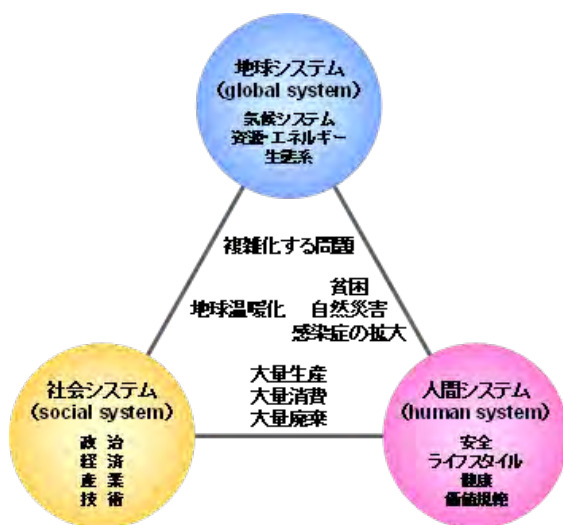
以上のことから、サステナビリティ (sustainability) とは、「誰一人取り残すことなくすべての人々の尊厳が守られ、人としての包括的なウェルビーイング (身体的・精神的・社会的に良好な状態) が世代を超えて保障される状態」と定義でき、その状態が保

このように多様で複雑な問題を抱える現代において、誰一人取り残すことなくすべての人々の尊厳が守られ、人としての包括的なウェルビーイング (身体的・精神的・社会的に良好な状態) が世代を超えて保証される社会、すなわちサステナブル (持続可能) な社会を実現するためには、資源・エネルギーの持続的利用やそれを支える生態系の保全といった自然科学、多様な歴史や文化を背景に持つ人々が共生するための社会の仕組みづくりといった社会科学、便利さや物質的豊かさを際限なく追及するのではなく、限りある資源を分かち合うことに豊かさを感じることでできる幸福感・共生感の醸成といった人間科学、各々の観点からのアプローチが必要となる。さらに、これらの幅広い知識をできるだけ広範囲で効率的に共有し活用するための情報技術の発展も重要である。このような幅広い知識をバランスよく理解し、ある領域の知識を別の領域に適用したり、複数の領域の知識を融合させたりすることのできる「領域横断的応用力」が、サステナブルな社会の実現には不可欠である。

一方、日本政府が提唱する Society 5.0 では、人工知能 (AI : Artificial Intelligence) やビッグデータ、IoT (Internet of Things)、ロボティクス等の技術が革新的に高度化する「第 4 次産業革命」後の新たな社会の到来を示している。このような技術革新による便利さや物質的豊かさが必ずしも幸福感の増大をもたらすとは限らないが、限りある資源を無駄なく公平に皆が分かち合うためには、その資源を生み出す自然資本 (natural capital) を保全し、人のつながりや信頼関係などの社会関係資本 (social capital) を充実させなければならず、それを支えるものの一つが技術革新であることも疑いようのない事実である。現代社会の間

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>たれている社会が持続可能な社会 (sustainable society) であるといえる。</p> <p>サステナビリティに関する学問体系を構築する試みは、東京大学、京都大学、大阪大学、北海道大学、茨城大学の5大学によって、2005年に東京大学内に設置された、サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S: Integrated Research System for Sustainability Science) によって行われた。2009年に東京大学で第1回国際サステナビリティ学会議 (ICSS: International Conference on Sustainability Science) が開催され、翌年には一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム (SSC: Sustainability Science Consortium) が設立された。さらに、2012年にアリゾナ州立大学で開催された第3回 ICSS において、東京大学、ローマ大学サピエンツァ、国際連合大学、アリゾナ州立大学の4大学を幹事大学とする、国際サステナビリティ学会 (ISSS: International Society for Sustainability Science) が発足し、以来毎年 ICSS の開催や国際学術雑誌「Sustainability Science」の発行などが行われている。</p> <p>IR3S は、サステナビリティ学 (sustainability science) を構成する3つの要素として、気候システム、資源・エネルギー、生態系などから成る地球システム (global system)、政治、経済、産業、技術などから成る社会システム (social system)、安全、ライフスタイル、健康、価値規範などから成る人間システム (human system) を挙げている。</p> <p>【サステナビリティ学 (Sustainability Science) を構成するシステム (茨城大学 HP, <a href="http://www.grad.ibaraki.ac.jp/gpss/english/index.html">http://www.grad.ibaraki.ac.jp/gpss/english/index.html</a>, 2021/1/4, を基に作成)】</p> | <p>問題を解決するためには、<b>Society 5.0</b> で挙げられているような技術だけではなく、地球規模の問題にかかわる再生可能エネルギー技術や食糧生産技術、富の分配や多様な価値観を融合させるための社会制度を構築するための技術、格差社会や高齢化社会の中で取り残されている人々を救うためのヒューマンサービス技術など、あらゆる階層における多様な技術の革新が必要となる。また、これらの要素技術を個々に捉えるのではなく、それらを組み合わせることによって全体として最適な状態を実現することのできる能力も重要である。このような要素間の相互作用を理解し、全体の変化を予測したり新たな変化を生み出したりすることのできる「システムの思考力」も、サステナブルな社会の実現には不可欠である。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|





2015 年の国連総会で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（2030 Agenda for Sustainable Development）」の前文に続く宣言には、イントロダクションとして6項目の我々が取り組むべき課題が記され、その後に我々のビジョンとして、下記に示す3項目の目指すべき世界像が述べられている。

(2030 アジェンダの「宣言」日本語訳から抜粋)

7. これらの目標とターゲットにおいて、我々は最高に野心的かつ変革的なビジョンを設定している。我々は、すべての人生が栄える、貧困、飢餓、病気及び欠乏から自由な世界を思い描く。我々は、恐怖と暴力から自由な世界を思い描く。すべての人が読み書きできる世界。すべてのレベルにおいて質の高い教育、保健医療及び社会保護に公平かつ普遍的にアクセスできる世界。身体的、精神的、社会的福祉が保障される世界。安全な飲料水と衛生に関する人権を再確認し、衛生状態が改善している世界。十分で、安全で、購入可能、また、栄養のある食料がある世界。住居が安全、強靱（レジリエント）かつ持続可能である世界。そして安価な、信頼でき、持続可能なエネルギーに誰もがアクセスできる世界。

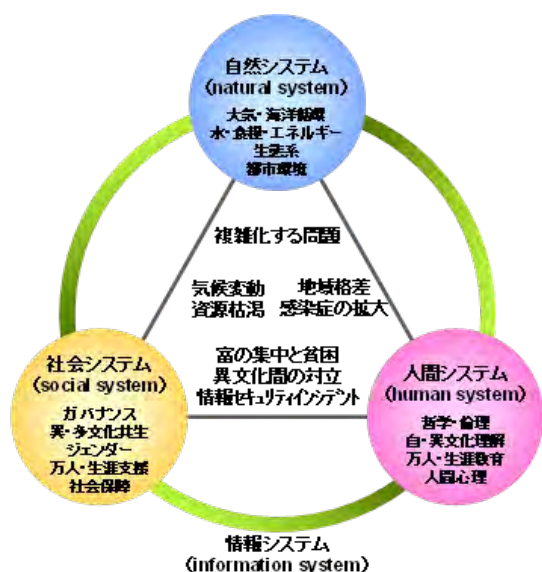
8. 我々は、人権、人の尊厳、法の支配、正義、平等及び差別のないこと、人種、民族及び文化的多様性。人間の潜在力を完全に実現し、繁栄を共有することに資することができる平等な機会が与えられる世界。子供たちに投資し、すべての子供が暴力及び搾取から解放される世界。すべての女性と女兒が完全なジェンダー平等を享受し、その能力強化を阻む法的、社会的、経済的な障害が取り除かれる世界。そして、最も脆弱な人々のニーズが満たされる、公正で、衡平で、寛容で、開かれており、社会的に包摂的な世界。

9. 我々は、すべての国が持続的で、包摂的で、持続可能な経済成長と働きがいのある人間らしい仕事を享受できる世界を思い描く。消費と生産パターン、そして空気、土地、河川、湖、帯水層、海洋といったすべての天然資源の利用が持続可能である世界。民主主義、グッドガバナンス、法の支配、そしてまたそれらを可能にする国内・国際環境が、持続的で包摂的な経済成長、社会開発、環境保護及び貧困・飢餓撲滅を含めた、持続可能な開発にとってきわめて重要である世界。技術開発とその応用が気候変動に配慮しており、生物多様性を尊重し、強靱（レジリエント）なものである世界。人類が自然と調和し、野生動物植物その他の種が保護される世界。

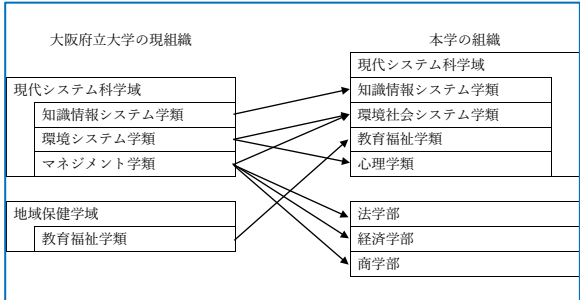
このような目指すべき世界像を念頭に、サステイナビリティ学で挙げられた3つのシス

テムを、大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などから成る自然システム (natural system)、ガバナンス、異・多文化共生、ジェンダー、万人・生涯支援、社会保障などから成る社会システム (social system)、哲学・倫理、自・異文化理解、万人・生涯教育、人間心理などから成る人間システム (human system) として捉え直すとともに、サステナビリティ学では社会システムの一つとして位置付けられる情報システム (information system) を、他の3つのシステムをつなぐ役割を果たす重要な要素として独立させることによってできた4つのサブシステム全体を、一つの集合体として考えることで、持続可能システム (sustainable system) が定義できる。このようなシステムは、いずれも多くの構成要素が各々の相互作用を伴って全体として変化するが、このような「構成要素間の相互作用を理解し、全体の変化を予測したり新たな変化を考え出したりすることのできる能力」のことを、ここでは「システムの思考力」と定義する。

【持続可能システム (Sustainable System) を構成するシステム】

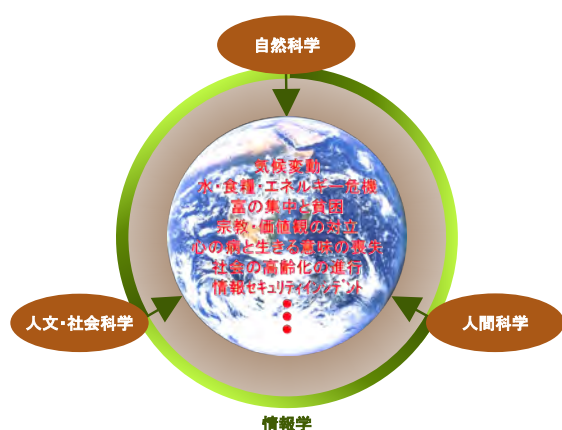




|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(設置趣旨 (本文) -6 ページ)</p> <p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>ア 学部等設置の理由及び必要性</p> <p>(2) 学域設置に至る経緯</p> <p>(略)</p> <p>説明文の後ろに 3 ページに記載されていた以下の図を移動。</p> <p>【現組織と新組織の対応関係】</p>                                                                                                                                                                                                                                                         | <p>(2 ページ)</p> <p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>ア 学部等設置の理由及び必要性</p> <p>(2) 学域設置に至る経緯</p> <p>(略)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>(設置趣旨 (本文) -6 ページ)</p> <p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>ア 学部等設置の理由及び必要性</p> <p>(3) 学域設置の必要性</p> <p>現代社会には、気候変動や人口爆発による水・食糧・エネルギー危機といった地球規模の問題、富の集中と貧困、宗教・価値観の違いによる国家・地域間の対立、心の病と生きる意味の喪失、日本に代表される社会の高齢化の進行、情報セキュリティインシデントなど、実にさまざまな問題が存在し、我々の暮らしに大きな脅威を与えている。すなわち、現代社会は持続不可能な社会であるということである。前述のように、2012 年 4 月に設置された現代システム科学域では、「持続不可能な現代社会を持続可能な社会に変革するための持続可能システム科学」として「現代システム科学」を定義した。</p> <p>このような現代システム科学 (Sustainable System Sciences) には、自然システムの持続可能性を理解するうえで必要となる地球環境学、生態学、環境計画学、食糧生産学などの自然科学、社会システムお</p> | <p>(2 ページ)</p> <p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>ア 学部等設置の理由及び必要性</p> <p>(3) 学域設置の必要性</p> <p><u>社会的背景で述べたように、持続可能な社会を実現するためには、領域横断的応用力とシステムの思考力を兼ね備え、かつ持続可能な社会を実現するという高い志と強い意志を持った人材の育成が不可欠である。このような人材を育成するため、情報システムの発展や多種多様なデータの活用により持続可能な社会の実現を目指す「知識情報システム学類」、自然と人との共生や多様な人々の共生により持続可能な社会の実現を目指す「環境社会システム学類」、人間の生涯にわたる発達と尊厳を持った生存を保障することにより持続可能な社会の実現を目指す「教育福祉学類」、ヒトのこころのはたらきや行動を理解することにより持続可能な社会の実現を目指す「心理学類」から構成される学域、すなわち現代システム科学域の設置が必要であると考えた。ここでは、</u></p> |

よび人間システムの持続可能性を理解するうえで必要となる歴史学、言語学、政策科学、法律学、経済学などの人文・社会科学、および哲学、倫理学、社会学、社会福祉学、教育学、心理学などの人間科学、情報システムの持続可能性を理解するうえで必要となる情報システム学、知能情報学など情報学の各要素が必要である。このような「幅広い知識・技能をバランスよく理解し、ある領域の知識・技能を別の領域に適用したり、複数の領域の知識・技能を融合させたりすることのできる能力」のことを、ここでは「領域横断的応用力」と定義する。

【現代システム科学 (Sustainable System Sciences) の概念】



持続可能システム (Sustainable System) を構成する4つのシステム (自然システム、社会システム、人間システム、情報システム) と、現代システム科学 (Sustainable System Sciences) に必要とされる4つの学問分野 (自然科学、人文・社会科学、人間科学、情報学) は、必ずしも1対1の関係にはなっていない。現代システム科学域を構成する学類を設定する際には、主な対象となるシステムと、主な基盤学問分野の組み合わせにより、ターゲットとなる教育研究分野を整理することが重要である。ここでは、教育研究分野の親

様々な学問分野が連携してこそ解決できる、現代の複雑な問題に対する解決能力を身につけるため、具体的な課題に関わる科目を学類横断型で履修し、最終的にその課題解決のための実践型科目「SDGs 演習」を履修する PBL (Project Based Learning) コースを卒業要件に課すこととした。さらに、各学類で卒業する学生とは別に、自らが解決したい課題・目的に応じた未来デザイン学修プログラムを作成し、そのプログラムに沿った4年間の学修を行ことによって卒業に至る未来デザインコース (FDC: Future Design Course) を設置することとした。

和性と、想定される進路を見据えたカリキュラム構成の適合性を考慮し、以下に示すように、知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類の4学類で現代システム科学域を構成することとした。

#### 【現代システム科学域を構成する4学類】

| 知識情報システム学類<br>(学生定員:60)                                                                                                                          | 環境社会システム学類<br>(学生定員:100)                                                                                                                                    | 教育福祉学類<br>(学生定員:55)                                                                                                                                  | 心理学類<br>(学生定員:45)                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主な教育研究分野:<br>情報システム学<br>情報通信工学<br>人工知能学<br>応用情報学<br>主な対象とするシステム:<br>情報システム<br>社会システム<br>人間システム<br>主な基盤学問分野:<br>情報学<br>人間科学<br>学位又は学科の分野<br>工学、理学 | 主な教育研究分野:<br>自然環境学<br>社会環境学<br>環境共生学<br>主な対象とするシステム:<br>自然システム<br>社会システム<br>人間システム<br>主な基盤学問分野:<br>自然科学<br>人文・社会科学<br>人間科学<br>学位又は学科の分野<br>文学、経済学、<br>工学、農学 | 主な教育研究分野:<br>社会福祉学<br>保育学<br>教育学<br>ジェンダー論<br>主な対象とするシステム:<br>社会システム<br>人間システム<br>主な基盤学問分野:<br>人文・社会科学<br>人間科学<br>学位又は学科の分野<br>教育学・保育学、<br>社会学・社会福祉学 | 主な教育研究分野:<br>認知科学<br>社会・環境心理学<br>臨床心理学<br>主な対象とするシステム:<br>情報システム<br>人間システム<br>主な基盤学問分野:<br>人間科学<br>情報学<br>学位又は学科の分野<br>文学 |
| 学士(情報学)<br>学士(学術)                                                                                                                                | 学士(環境社会システム学)<br>学士(学術)                                                                                                                                     | 学士(教育福祉学)<br>学士(学術)                                                                                                                                  | 学士(心理学)<br>学士(学術)                                                                                                         |

#### [知識情報システム学類]

持続可能システムのうち、主に情報システム、社会システム、人間システムを対象とし、現代システム科学のうち、主に情報学、人間科学を基盤学問分野とする。情報・通信系企業などへの進路を見据え、以下のような人材を養成する。

現代社会の維持・発展に不可欠となっている情報システムについて理解するとともに、持続可能な社会を実現するための課題解決の手段として活用することができるような情報システムを主体的にデザインする能力、また急速に進歩し続ける情報通信技術を積極的に取り入れる態度を身に付けることで、社会の変容にともなう課題を継続して解決するための科学的な分析力・思考力を持つ人材を養成する。

#### [環境社会システム学類]

持続可能システムのうち、主に自然システム、社会システム、人間システムを対象とし、現代システム科学のうち、主に自然科学、人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野とする。さまざまな職種の企業、公務員、NPOな

ど多種多様な進路を見据え、以下のような人材を養成する。

自然システムの持続可能性を理解するために必要となる自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる環境共生学の観点から、領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成する。

#### [教育福祉学類]

持続可能システムのうち、主に社会システム、人間システムを対象とし、現代システム科学のうち、主に人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野とする。社会福祉士および保育士の資格取得、公務員、医療・福祉関係などへの進路を見据え、以下のような人材を養成する。

持続可能な社会を実現するために、現代社会の諸問題を深く理解するとともに、複合的な視野から社会の仕組みをよりよいものに变革していくことのできる力をもち、地域社会から国際社会までの広範な領域で活躍できる人材を養成する。

#### [心理学類]

持続可能システムのうち、主に情報システム、人間システムを対象とし、現代システム科学のうち、主に情報学、人間科学を基盤学問分野とする。公認心理師の資格取得、公務員、カウンセラーなどへの進路を見据え、以下のような人材を養成する。

現代社会に生きる人々が、他者や社会、文化との相互作用の中で抱える心に起因する問題に焦点を当て、心理学及び心理学関連分野の専門的知識・技能とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続

|                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 可能な社会の実現に貢献できる人材を養成する。                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>(設置趣旨 (本文) -19 ページ)</p> <p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>ウ 研究対象とする中心的な学問分野 (複数可)</p> <p>[知識情報システム学類]</p> <p>情報学、社会科学、知識科学、生産科学</p> <p>[教育福祉学類]</p> <p>社会福祉学、保育学、教育学、<u>社会学、健康科学、人権論、ジェンダー論</u></p> <p>[心理学類]</p> <p>心理学、臨床心理学</p> | <p>(9 ページ)</p> <p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>ウ 研究対象とする中心的な学問分野 (複数可)</p> <p>[知識情報システム学類]</p> <p>情報学、社会科学、知識科学、生産科学、<u>医療保健学</u></p> <p>[教育福祉学類]</p> <p>社会福祉学、保育学、教育学</p> <p>[心理学類]</p> <p>心理学、臨床心理学、<u>建築環境工学、情報工学</u></p> |

#### 教育課程等の概要

| 新                                                                                                                                | 旧                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学位または学科の分野</p> <p>[知識情報システム学類]</p> <p>工学関係、理学関係</p> <p>[環境社会システム学類]</p> <p>文学関係、経済学関係、工関係学、農学関係</p> <p>[心理学類]</p> <p>文学関係</p> | <p>学位または学科の分野</p> <p>[知識情報システム学類]</p> <p>工学関係、理学関係、<u>経済学関係、保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション学関係を除く。)</u></p> <p>[環境社会システム学類]</p> <p>文学関係、<u>法学関係、経済学関係、社会学・社会福祉学関係、理学関係、工学関係、農学関係</u></p> <p>[心理学類]</p> <p>文学関係、<u>工学関係</u></p> |

(是正事項) 現代システム科学域

2. 養成する人材像において「(略) サステイナブルな社会を創造するという高い倫理観と使命感を持った人材」とされているが、別途指摘しているとおり、「サステナビリティ」や「SDGs」を冠した演習が設定されているものの、「SDGs」の理念を共有するにとどまり、具体的な目標まで学修するような教育課程ではなく、設置の趣旨の説明と教育課程の内容に差異があると考えられるため、妥当性を明確にするか、必要に応じて修正すること。

(対応)

資料1 (現代システム科学域に関するキーワードについての説明) に示すように、本学域においては、サステナビリティ (sustainability) を、「誰一人取り残すことなくすべての人々の尊厳が守られ、人としての包括的なウェルビーイング (身体的・精神的・社会的に良好な状態) が世代を超えて保障される状態」と定義し、その状態が保たれている社会を持続可能な社会 (sustainable society) と定義している。

この「サステナビリティ」の概念を十分理解させるため、初年次の学域共通科目を一新することとした。まず、「サステナビリティ」を廃止し、代わりに学域共通科目の必修科目として「情報システムとサステナビリティ」、「自然システムとサステナビリティ」、「社会システムとサステナビリティ」、「人間システムとサステナビリティ」を配置し、本学域で定義しているサステナビリティの理念を学習させると同時に、持続可能システムを構成する情報システム、自然システム、社会システム、人間システムの4つのシステムがサステナビリティにどのように寄与しているのかについて理解させる。また、「知識情報システム学1、2」「環境共生科学A、B」「社会共生科学A、B」「心理学1、2」を廃止し、代わりに「知識情報システム学概論」「環境社会システム学概論」「教育福祉学概論」「心理学概論」を配置し、それぞれの学類が養成を目指す人材像と、ベースとなる学問分野の教育アプローチを理解させるとともに、それらを複眼的に見ることによって、はじめて持続不可能な現代の問題を立体的に捉え、解決方法を導くことができることを理解させる。なお、「教育福祉学A、B」は学域共通科目から学類基盤科目に移し、概論に引き続き教育福祉学類での学びの特徴を理解させることとした。このようなカリキュラム構成の大幅な見直しに伴い、各学類の卒業要件も修正した。

一方PBLコースは、現代システム科学域(共通) No.11の対応にもあるとおり、その概念により近いPBLプログラムと名称を変更する。また、SDGsは2030年を目標とした暫定的なゴールであることから、普遍的なサステナビリティを目指すことが本学域の教育理念であることを明確にするため、SDGs演習をPBL演習と改める。このPBLプログラムでは、各学類の教育課程(主専攻)とは別に、サステナビリティに関わる23のテーマが設定されており、資料3(PBLプログラム履修課程)に示すように、テーマごとに5科目10単位から成る課程を履修していく、いわば学域内副専攻である。

PBLプログラムの最大の特徴は、図1に示すように、23のプログラムはいずれの学類の学生も選択することができるということである。多様な学生が一つのテーマに沿って学びを進めて行き、プログラムの最終科目と位置付けられるPBL演習では、学類の壁を越え協働して課題解決に取り組む。このような学びを経験することにより、就職先や進路を見据えた領域

横断的応用力に加え、サステナビリティ志向性（現代社会の一員としての高い倫理観を有し、持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。）が養われる。

各テーマは、表 1 に示すように、想定される就職先をイメージして各学類から持続可能な社会の実現に関わる課題として複数提示されており、多くのテーマが **SDGs** にも関連したものとなっている。なお、自学類以外が提供している **PBL** プログラムを選択しても、そこで履修した科目の単位は学類専門科目とカウントされるため特に不利益にはならない。むしろ自身の専門分野以外のテーマにチャレンジすることで、領域横断的応用力を深化させることが期待される。通常の学類所属学生は、一つ以上の **PBL** プログラムを修了することが卒業要件の一つとなる。

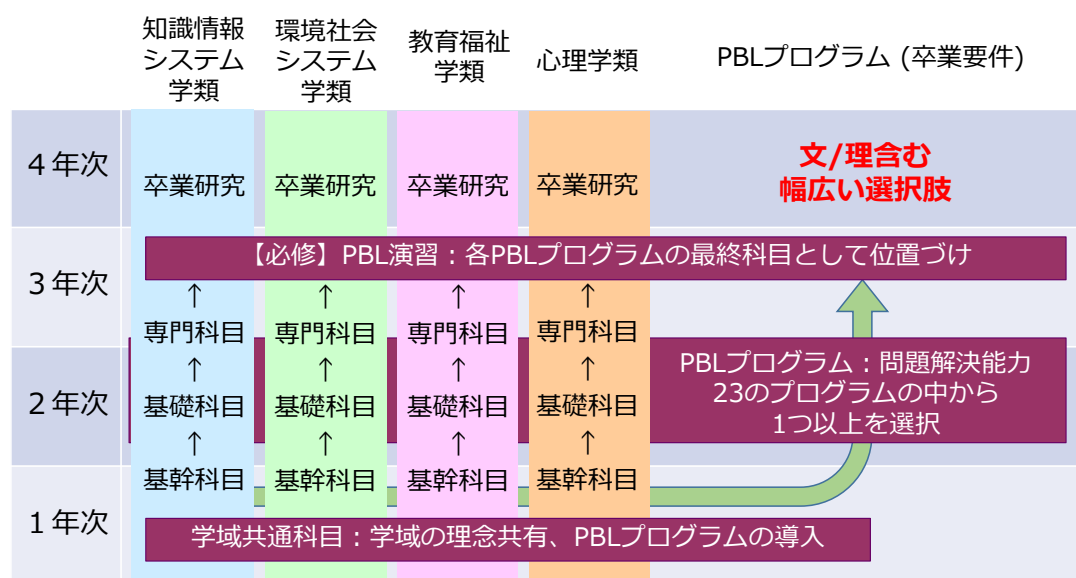


図 1 各学類の教育課程（主専攻）に対する PBL プログラムの位置づけ

表 1 各 PBL プログラムと想定される就職先

| 担当学類       | PBL プログラム名      | 想定される就職先      | 関連 SDGs 等                                                                                                                                                                   |
|------------|-----------------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 知識情報システム学類 | 1. ビジネスプレディクション | 経営コンサル        |   |
|            | 2. 生産システム科学     | メーカー企業        | 生産システムの最適化                                                                                                                                                                  |
|            | 3. ヘルスケア科学      | 保健福祉系 NPO、公務員 |                                                                                        |
|            | 4. サービスデザイン     | 起業家、経営コンサル    |                                                                                        |
|            | 5. 教育情報システムデザイン | 教育系 NPO、教員    | IT による教育環境向上                                                                                                                                                                |
|            | 6. 情報ネットワークシステム | 情報・通信系企業      | 情報セキュリティ                                                                                                                                                                    |



|                    |                             |                                         |                                                                                                                                                                             |
|--------------------|-----------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 環境社会<br>システム<br>学類 | 7. 環境学                      | 公務員（環境技術職）、環境 NPO、<br>環境コンサル            |       |
|                    | 8. 地域再生                     | 公務員（行政職）、地域活動 NPO、<br>都市計画系企業           |                                                                                          |
|                    | 9. 環境再生                     | 公務員（環境技術職）、環境 NPO、<br>環境コンサル            |       |
|                    | 10. 企業と持続可能な社会              | 一般企業（CSR 部門）                            |       |
|                    | 11. 社会調査（資格系）               | 調査会社、マスコミ、NPO 法人、研<br>究者                |                                                                                          |
|                    | 12. 都市社会                    | 公務員（行政職）、NPO 法人、教員                      |       |
|                    | 13. 文化表象                    | 公務員（行政職）、NPO 法人、国際機<br>関                |                                                                                          |
|                    | 14. 共生の思想                   | 公務員（行政職）、NPO 法人、教員                      |       |
| 教育福祉<br>学類         | 15. ESD-A（資格系）              | 中学・高等学校教員 国際関係機関                        |                                                                                        |
|                    | 16. ESD-B（資格系）              | 中学・高等学校教員 国際関係機関                        |                                                                                        |
|                    | 17. ジェンダー論                  | 公務員（行政職、福祉職、教育職）、<br>社会福祉団体、NPO 法人      |   |
|                    | 18. コラボレーション                | 公務員（行政職、福祉職、教育職）、<br>社会福祉団体、NPO 法人      |                                                                                        |
|                    | 19. 地域および都市におけ<br>る排除・共生・参加 | 公務員（行政職、福祉職、教育職）、<br>社会福祉団体、NPO 法人      | 地域・都市にお<br>ける万人支援                                                                                                                                                           |
|                    | 20. 生涯学習と設計                 | 公務員（行政職、福祉職、教育職）、<br>NPO 法人             |                                                                                        |
| 心理学類               | 21. 生活環境と情報                 | 公務員（行政職）、情報系企業                          | IT によるウェ<br>ルビーイング                                                                                                                                                          |
|                    | 22. 生きることと遊び                | 公務員（行政職）、地域活動 NPO                       | こころの病へ<br>の対応・支援                                                                                                                                                            |
|                    | 23. 教育保障                    | 公務員（心理職・児童福祉職）、地域<br>活動 NPO、教員、児童養護施設職員 |   |

（新旧対照表）

教育課程等の概要

|   |   |
|---|---|
| 新 | 旧 |
|---|---|



|                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>新設科目</p> <p>学域共通科目</p> <p>「情報システムとサステイナビリティ」</p> <p>「自然システムとサステイナビリティ」</p> <p>「社会システムとサステイナビリティ」</p> <p>「人間システムとサステイナビリティ」</p> <p>学域共通科目</p> <p>「知識情報システム学概論」</p> <p>「環境社会システム学概論」</p> <p>「教育福祉学概論」</p> <p>「心理学概論」</p> <p>授業科目の名称変更</p> <p>PBL プログラム科目</p> <p>「PBL 演習」</p> | <p>廃止科目</p> <p>学域共通科目</p> <p>「サステイナビリティ」</p> <p>学域共通科目</p> <p>「知識情報システム学 1」</p> <p>「知識情報システム学 2」</p> <p>「環境共生科学 A」</p> <p>「環境共生科学 B」</p> <p>「社会共生科学 A」</p> <p>「社会共生科学 B」</p> <p>「心理学 1」</p> <p>「心理学 2」</p> <p>PBL 科目</p> <p>「SDGs 演習」</p> |
| <p>卒業要件及び履修方法</p> <p>PBL プログラムについて次の説明を追記する。</p> <p>※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち</p> <p>総合教養科目は総合教養科目として</p> <p>自学類専門科目は自学類専門科目として</p> <p>他学類専門科目は PBL プログラム科目として</p> <p>それぞれ卒業要件単位に算入する。</p>                                                                            | <p>※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち本表に含まれない科目は PBL 科目として単位を認定する</p>                                                                                                                                                                      |

※上記の修正に伴い、基本計画書、授業科目の概要、シラバス、2以上の校地において教育を行う場合のそれぞれの校地ごとの勤務状況、教員名簿を修正する。

現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                  | 旧                 |
|--------------------|-------------------|
| (設置趣旨(本文) -33 ページ) | (21 ページ)          |
| 4 教育課程の編成の考え方及び特色  | 4 教育課程の編成の考え方及び特色 |

## イ 教育課程の概要及び特色

[現代システム科学域]

本学域の教育課程においては以下の5つの特色がある。(1)数学・科学・外国語科目を全ての学習科目の道具科目として位置付け、入学時の文理を問わず、数学、統計学、英語、初習外国語にそれぞれ必修科目を設け、学生の生涯学習を支える学習の基礎を獲得させる。(2)初年次に学域共通科目を置き、持続可能システムを構成する4つのシステムとサステナビリティの関係を理解させるとともに、4つの学類の学びの特徴とアプローチについて学ばせる。(3)様々な学問分野が連携してこそ解決できる、現代の複雑な問題に対する解決能力を身に着けるため、具体的な課題に関わる科目を学類横断型で履修し、最終的にその課題解決のための実践型科目「PBL演習」を履修するPBLプログラムを4年間の教育課程の縦軸と位置づけることによって、サステナビリティ志向性を獲得させる。(4)各自の学問的専門分野を学びつつ、視点を広げるために教養科目の履修を2年次以降とするように履修指導する。(5)自らが解決したい課題・目的に応じた未来デザインプログラムを作成し、複数の学問分野を融合的に学ぶことを通して学士(学術)の学位を獲得する、未来デザインコース(FDC: Future Design Course)を設置している(後述、23未来デザインコース参照)。

### 【現代システム科学域の教育課程】



このうち(2)初年次の学域共通科目については、必修科目として「情報システムとサス

## イ 教育課程の概要及び特色

[現代システム科学域]

本学域の教育課程を概念化したものを下図に示した。本学域の教育課程においては以下の3つの特色がある。(1)数学・科学・外国語科目を全ての学習科目の道具科目として位置付け、入学時の文理を問わず、数学、統計学、化学、生物学、英語、初習外国語にそれぞれ必修科目を設け、学生の生涯学習を支える学習の基礎を獲得させる。加えて、(2)様々な学問分野が連携してこそ解決できる、現代の複雑な問題に対する解決能力を身に着けるため、具体的な課題に関わる科目を学類横断型で履修し、最終的にその課題解決のための実践型科目「SDGs演習」を履修するPBLコースを4年間の教育課程の縦軸と位置づけることによって、サステナビリティ志向性を獲得させる。(3)各自の学問的専門分野を学びつつ、視点を広げるために教養科目の履修を2年次以降とするように履修指導する。

(略)

### 【現代システム科学域の教育課程】



「持続可能な社会と持続可能な開発目標」(全8単位)を配置し、本学域で定義している持続可能な開発目標の理念を学修させると同時に、持続可能なシステムを構成する情報システム、自然システム、社会システム、人間システムの4つのシステムが持続可能な開発目標にどのように寄与しているのかについて理解させる。これら4つの科目については、第1回目に共通の教材を用いたイントロダクションを設定し、それぞれの授業科目の代表教員が現代システム科学の概念、現代システムの中の情報システム・自然システム・社会システム・人間システムの位置付けと役割、システムの思考力の重要性などについて講義する。2回から14回までは、各々の科目において各システムの概念やその要素と持続可能な開発目標との関連性などについて講義する。また、第15回目に共通の総括を設定し、情報システム・自然システム・社会システム・人間システムの観点から見た持続可能性(持続可能な開発目標の定義、それぞれのシステムの観点から見た持続可能な開発目標の意味、現代から未来へのつながりなど)について各授業の最後で解説する。このとき、4つの科目の担当者代表が全員登壇し、対談形式で各システムのつながりについて解説する時間を設ける。なお、この4科目については、他学部学生にも開放し、持続可能な社会の実現に対する融合領域の学びの重要性を全学的に学修してもらえる機会を提供する。

また、同じく初年次に学域共通科目として「知識情報システム学概論」「環境社会システム学概論」「教育福祉学概論」「心理学概論」(全8単位)を配置し、それぞれの学類が養成を目指す人材像と、ベースとなる学問分野の教育アプローチを理解させるとともに、そ

れら全体を複眼的に見ることによって、はじめて持続不可能な現代の問題を立体的に捉え、解決方法を導くことができることを理解させる。これら4つの科目については、第1回目に共通の教材を用いたイントロダクションを設定し、それぞれの授業科目の代表教員が現代システム科学域の教育理念と、その中の知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類の位置付けと役割、各学類の3ポリシーなどについて講義する。2回から14回までは、各々の科目において各学類で学ぶ主な教育研究分野の基礎や学類の学びのアプローチの特徴などについて講義する。また、第15回目に共通の総括を設定し、知識情報システム学、環境社会システム学、教育福祉学、心理学の観点から見た領域横断的応用力について講義する。このとき、4つの科目の担当者代表が全員登壇し、対談形式で各学類のつながりについて解説する時間を設ける。

## 【システムとサステイナビリティ科目群の構成】

|                  | 情報システムとサステイナビリティ                                                                                                                                                        | 自然システムとサステイナビリティ                                                                   | 社会システムとサステイナビリティ                                               | 人間システムとサステイナビリティ                               |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 第1回              | オリエンテーションの後、現代システム科学の概念、現代システムの中の情報システム・自然システム・社会システム・人間システムの位置付けと役割、システムの思考力の重要性などについて、各授業の1回目で講義する。4つのシステムの関係をつかみやすくため、共通する事例を用いて説明を行う(例:パンデミックとそれぞれのシステム)。           |                                                                                    |                                                                |                                                |
| 第2回<br>～<br>第14回 | ・データサイエンスを活用したサステイナブルな社会<br>・安心安全な情報システムインフラ<br>・人工知能によるレジャーエントな情報サービス                                                                                                  | ・地球の起源と歴史及び現在の地球の構造<br>・大気の大気循環と大気に関わる環境問題<br>・水の循環と海洋に関わる環境問題<br>・生態系のしくみと生態系サービス | ・公正で平等な社会と哲学・思想の役割<br>・慣習と文化<br>・社会制度と福祉国家<br>・グローバルシステムと「わたし」 | ・対人システムの心的プロセス<br>・人と環境との心理的不適応<br>・社会的規範と行為類型 |
| 第15回             | 情報システム・自然システム・社会システム・人間システムの観点から見た持続可能性(サステイナビリティ)の定義、それぞれのシステムの観点から見たサステイナビリティの意味、現代から未来へのつながりなどについて各授業の最後で解説する。システム間の相互作用を理解するために、4つの授業の担当教員が相互乗り入れし、対談形式で解説する部分を設ける。 |                                                                                    |                                                                |                                                |
| 第16回             | 期末試験                                                                                                                                                                    |                                                                                    |                                                                |                                                |

## 【各学類概論科目群の構成】

|                  | 知識情報システム学概論                                                                                                                                             | 環境社会システム学概論                                               | 教育福祉学概論                                             | 心理学概論                                                 |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 第1回              | オリエンテーションの後、現代システム科学域の教育理念と、その中の知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類の位置付けと役割、各学類の3ポリシーなどについて、各授業の1回目で講義する。                                                 |                                                           |                                                     |                                                       |
| 第2回<br>～<br>第14回 | ・情報システムとその構成<br>・情報の表現と伝達<br>・アルゴリズムと計算の理論<br>・ユーザーインターフェース                                                                                             | ・自然環境と人間とのかわり<br>・社会環境と人間とのかわり<br>・自然と人間との共生を基礎としたシステムづくり | ・人間開発と成長・発展<br>・人の社会的疎外要因と福祉国家<br>・インクルーシブ社会への理念と実践 | ・心の科学の方法論<br>・進化による環境への適応と人間の心<br>・人間の発達、学習、記憶、知覚の仕組み |
| 第15回             | 知識情報システム学、環境社会システム学、教育福祉学、心理学の観点から見た領域横断的応用力について講義する。4つの学類のつながり、それぞれに軸足を置いたときの領域横断的応用力の具体例などについて解説する。この部分の内容についてはあらかじめ4つの概論の担当教員で検討し、有機的な連関を示しながら説明を行う。 |                                                           |                                                     |                                                       |
| 第16回             | 期末試験                                                                                                                                                    |                                                           |                                                     |                                                       |

また(3)の PBL プログラムでは、各学類の教育課程（主専攻）とは別に、サステイナビリティに関わる 23 のテーマが設定されており、別添資料 2（PBL プログラム履修課程）に示すように、テーマごとに 5 科目 10 単位から成る課程を体系的に履修していく、いわば学域内副専攻のような形式で学習を進める。

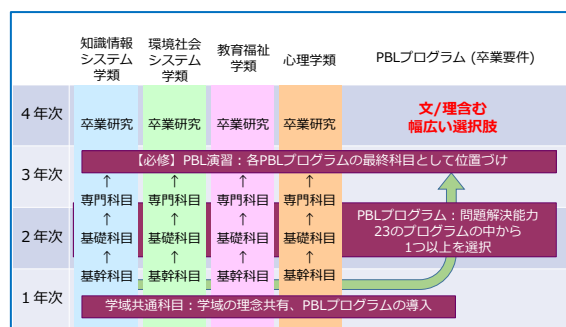
例えば、PBL プログラム（環境学）であれば、環境学の基礎的な座学として、まず人間環境を理解する「環境・生命・倫理」、社会環境を理解する「環境政策学」、自然環境を理解する「自然環境学概論」を必修として学び、その次に応用の座学として受講生の興味に合わせてさまざまな環境関連科目 6 科目から一つを選択して履修したのち、それらの知識・技能を付けたうえで「PBL 演習（環境学）」に臨む、という構成となっている。一方、PBL プログラム（ヘルスケア科学）であれば、「医学概論（人体の構造と機能及び疾病）」「公衆衛生学」「ヘルスケアシステム」「ヘルスケアサービス」「PBL 演習（ヘルスケア科学）」全てを必修としているが、このうち「医学概論（人体の構造と機能及び疾病）」「公衆衛生学」は複数の学類の専門科目で標準的に履修する科目となっており、必ずしも 1 年前期の段階で PBL プログラムを決定しなくても複数の PBL プログラムを選択肢に入れながら、3 年次の PBL 演習履修時に選択できるよう配慮している。このようなテーマごとの履修課程の考え方や最終的な PBL 演習の選択の仕方については、入学時に行う履修ガイダンスで「PBL プログラム履修ガイド」を基に周知することから、他学類の科目を含む PBL プログラムであっても、基礎から応用へと計画的かつ体系的に履修することができる。

PBL プログラムの最大の特徴は、23 のプログラムはいずれの学類の学生も選択することができるということである。多様な学生が

一つのテーマに沿って学びを進めて行き、プログラムの最終科目と位置付けられるPBL演習では、協働して課題解決に取り組む。このような学びを経験することにより、領域横断的応用力に加え、サステナビリティ志向性（現代社会の一員としての高い倫理観を有し、持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。）が養われる。

各テーマは、想定される就職先をイメージして各学類から持続可能な社会の実現に関わる課題として複数提示されており、多くのテーマがSDGsに関連したものとなっている。この表については、前述のPBLプログラム履修ガイドに掲載するとともに、PBLプログラムとの関係性が明確になるよう履修モデルを充実させる。なお、自学類以外が提供しているPBLプログラムを選択しても、そこで履修した科目の単位は専門科目とカウントされるため特に不利益にはならない。むしろ自身の専門分野以外のテーマにチャレンジすることで、領域横断的応用力を深化させることが期待される。通常の学類所属学生は、一つ以上のPBLプログラムを修了することが卒業要件の一つとなる。また、未来デザインコース（FDC）学生には、通常のPBL演習に加え、セルフプロデュース型で学外者と協働する「未来デザインPBL演習」を課しており、想定される就職先そのものも自ら見つけ出すこととなる。

#### 【各学類の教育課程（主専攻）に対するPBLプログラムの位置づけ】





## 【各 PBL プログラムと想定される就職先】

| 担当学類       | PBL プログラム名              | 想定される特微的な就職先                        | 関連 SDGs 等      |
|------------|-------------------------|-------------------------------------|----------------|
| 知識情報システム学類 | 1. ビジネスブレディケーション        | 経営コンサル                              |                |
|            | 2. 生産システム科学             | メーカー企業                              | 生産システムの最適化     |
|            | 3. ヘルスケア科学              | 保健福祉系 NPO、公務員                       |                |
|            | 4. サービスデザイン             | 起業家、経営コンサル                          |                |
|            | 5. 教育情報システムデザイン         | 教育系 NPO、教員                          | IT による教育環境向上   |
|            | 6. 情報ネットワークシステム         | 情報・通信系企業                            | 情報セキュリティ       |
| 環境社会システム学類 | 7. 環境学                  | 公務員（環境技術職）、環境 NPO、環境コンサル            |                |
|            | 8. 地域再生                 | 公務員（行政職）、地域活動 NPO、都市計画系企業           |                |
|            | 9. 環境再生                 | 公務員（環境技術職）、環境 NPO、環境コンサル            |                |
|            | 10. 企業と持続可能な社会          | 一般企業（CSR 部門）                        |                |
|            | 11. 社会調査（資格系）           | 調査会社、マスコミ、NPO 法人、研究者                |                |
|            | 12. 都市社会                | 公務員（行政職）、NPO 法人、教員                  |                |
|            | 13. 文化表象                | 公務員（行政職）、NPO 法人、国際機関                |                |
|            | 14. 共生の思想               | 公務員（行政職）、NPO 法人、教員                  |                |
| 教育福祉学類     | 15. ESD-A（資格系）          | 中学・高等学校教員 国際関係機関                    |                |
|            | 16. ESD-B（資格系）          | 中学・高等学校教員 国際関係機関                    |                |
|            | 17. ジェンダー論              | 公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO 法人      |                |
|            | 18. コラボレーション            | 公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO 法人      |                |
|            | 19. 地域および都市における排除・共生・参加 | 公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO 法人      | 地域・都市における万人支援  |
|            | 20. 生涯学習と設計             | 公務員（行政職、福祉職、教育職）、NPO 法人             |                |
| 心理学類       | 21. 生活環境と情報             | 公務員（行政職）、情報系企業                      | IT によるウェルビーイング |
|            | 22. 生きることと遊び            | 公務員（行政職）、地域活動 NPO                   | こころの病への対応・支援   |
|            | 23. 教育保障                | 公務員（心理職・児童福祉職）、地域活動 NPO、教員、児童発達施設職員 |                |

本学域において開講する授業科目について、初年次前期の学域共通科目として設置する 4 科目「情報システムとサステイナビリティ」「自然システムとサステイナビリティ」「社会システムとサステイナビリティ」「人間システムとサステイナビリティ」は、他学部 of 学生にも開放し、持続可能な社会の実現に対する融合領域の学びの重要性を全学的に学習してもらえる機会を提供する。

また、PBL プログラムでは、各学類の教育課程（主専攻）とは別に、サステイナビリティに関わる 23 のテーマが設定されており、資料 3（PBL プログラム履修課程」に示すように、テーマごとに設定された基礎から応用に

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>至る 4 科目 8 単位から成る科目を順次履修することで、そのテーマに関する基本的な課題を認識させる。そのうえで最終科目である PBL 演習（2 単位）では、他学類の学生が協働して課題解決を図る。このような PBL プログラムは、専門分野の異なる学生が一つの問題を協働して解決するということを目的としているので、23 のプログラムのうちのいくつかは全学に門戸を開き、そのような学習に強い意欲を持つ他学部学生の履修を認める。他学部の学生が履修を希望する場合には、それぞれの所属学部の教務事務を通して、PBL プログラム履修志望書を提出したのち、現代システム科学域教育運営委員会（仮称）によって受講の可否を判断する。なお、通学するキャンパスが異なる場合には、講義科目ではオンライン履修を認めるなど配慮を行う。他学部の学生が PBL プログラムを受講することは、大学卒業後に地域社会に貢献する即戦力を送り出すことにつながると考えている。</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>（設置趣旨（本文）-49 ページ）</p> <p>6 教育方法，履修指導方法及び卒業要件<br/>ウ 卒業要件</p> <p>本学域では、下表の単位を各学類の卒業要件とする。基幹教育科目のうち、大学での学びの導入科目である初年次教育科目（2 単位）、ならびに道具科目として位置付けている英語（6 単位）、初修外国語（2 単位）、情報リテラシー（2 単位）、健康・スポーツ科学（3 単位）の各科目を必修とし、総合教養科目（10 単位）は多くの選択肢を与えたうえで選択とする。同じく道具科目として位置付けている数学、プログラミングなどの基礎教育科目は、各学類の専門性に合わせて必修と選択を適宜配置し、要卒単位も各学類の専門性に合わせて 4 単位から 12 単位と設定する。専門科目のうち学域共通科目（12 単位以上）では、</p>                                                         | <p>（27 ページ）</p> <p>6 教育方法，履修指導方法及び卒業要件<br/>ウ 卒業要件</p> <p>本学域では、下表の単位を各学類の卒業要件とする。基幹教育科目のうち、大学での学びの導入科目である初年次教育科目（2 単位）、ならびに道具科目として位置付けている英語（6 単位）、初修外国語（2 単位）、情報リテラシー（2 単位）、健康・スポーツ科学（3 単位）の各科目を必修とし、総合教養科目（10 単位）は多くの選択肢を与えたうえで選択とする。同じく道具科目として位置付けている数学、プログラミングなどの基礎教育科目は、各学類の専門性に合わせて必修と選択を適宜配置し、要卒単位も各学類の専門性に合わせて 4 単位から 12 単位と設定する。専門科目のうち学域共通科目</p> |



必修科目として「システムとサステイナビリティ」科目群（4科目8単位）と各学類の概論科目（2単位）をそれぞれの学類の必修とし、その他を選択とする。また学類専門科目は基本的に選択とする。さらに学類基盤科目（心理学類は学類専門科目）に必修科目として各学類の「卒業研究」を置き、卒業論文作成を卒業要件に含める。卒業論文に必要な時間数は270時間程度を想定していることから、卒業研究には6単位を与える。卒業研究の指導は、1名の指導教員と1名以上の副指導教員により行い、各学類あるいは課程単位で学期末に行われる卒業論文発表会および口頭試問において、卒業論文の内容が各学類のディプロマポリシーを達成していると指導教員に認められた場合に卒業研究の単位を与える。なお、FDCの卒業要件の詳細については、後述の「23 未来デザインプログラム」を参照願いたい。

#### 【各学類（課程）の卒業要件】

| 科目区分   | 卒業要件      |          |      |      |      |
|--------|-----------|----------|------|------|------|
|        | 知識情報システム  | 環境社会システム | 教育福祉 | 心理   | 計    |
| 基幹教育科目 | 総合教養      | 10以上     |      |      |      |
|        | 初年次教育     | 2        |      |      |      |
|        | 情報リテラシー   | 2        |      |      |      |
|        | 英語        | 6        |      |      |      |
|        | 初級外国語     | 2以上      |      |      |      |
|        | キャリア教育    | -        |      |      |      |
|        | 健康・スポーツ科学 | 3        |      |      |      |
| 専門科目   | 基礎教育科目    | 12以上     | 6以上  | 6以上  | 4以上  |
|        | 学域共通      | 12以上     |      |      |      |
|        | 学類基盤      | 26以上     | 16以上 | 20以上 | -    |
|        | 学類専門      | 30以上     | 32以上 | 30以上 | 48以上 |
|        | 学類関連      | -        | -    | -    | 10以上 |
|        | PBLプログラム  | 2以上      |      |      |      |
| 合計単位数  |           | 131以上    |      |      |      |

（12単位）では、全学類共通の「サステイナビリティ入門」（2単位）と各学類の基礎科目（4単位）をそれぞれの学類の必修とし、その他を選択とする。また学理専門科目は基本的に選択とする。さらに学類基盤科目（心理学類は学類専門科目）に必修科目として各学類の「卒業研究」を置き、卒業論文作成を卒業要件に含める。卒業論文に必要な時間数は270時間程度を想定していることから、卒業研究には6単位を与える。卒業研究の指導は、1名の指導教員（FDCの場合は2名以上の指導教員）と1名以上の副指導教員により行い、各学類あるいは課程単位で学期末に行われる卒業論文発表会および口頭試問において、卒業論文の内容が各学類のディプロマポリシーを達成していると指導教員に認められた場合に卒業研究の単位を与える。さらに、各学類生においては、1つ以上のPBLコースを修了すること、FDCにおいては、2つ以上のPBLコースを修了することを卒業要件に課す。

(是正事項) 現代システム科学域

3. 「領域横断的知識・技能とシステムの思考を発揮し、課題解決を図ることによって、サステイナブルな社会の実現に貢献できる人材」が掲げられているが、4つの学類がどう関係して「領域横断的」となっているのか不明確であるため、明確にすること。

(対応)

資料1 (現代システム科学域に関するキーワードについての説明) に示すように、「持続可能システム」を、「大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などから成る自然システム (natural system)、ガバナンス、異・多文化共生、ジェンダー、万人・生涯支援、社会保障などから成る社会システム (social system)、哲学・倫理、自・異文化理解、万人・生涯教育、人間心理などから成る人間システム (human system)、それら3つのシステムをつなぐ役割を果たす情報システム (information system) の集合体」として定義する。

このような現代システム科学 (Sustainable System Sciences) には、自然システムの持続可能性を理解するうえで必要となる地球環境学、生態学、環境計画学、食糧生産学などの自然科学、社会システムの持続可能性を理解するうえで必要となる歴史学、言語学、政策科学、法律学、経済学などの人文・社会科学、人間システムの持続可能性を理解するうえで必要となる哲学、倫理学、社会学、社会福祉学、教育学、心理学などの人間科学、情報システムの持続可能性を理解するうえで必要となる情報システム学、知能情報学など情報学の各要素が必要である。これらの学問分野の教育研究を担う学類として表1に示す4学類を設置したことから、それぞれの学類が養成を目指す人材像と、ベースとなる学問分野の教育アプローチを理解させるとともに、それら全体を複眼的に見ることによって、はじめて持続不可能な現代の問題を立体的に捉え、解決方法を導くことができる「領域横断的応用力」を身につけることができる。

表1 現代システム科学域を構成する4学類

| 知識情報システム学類<br>(学生定員:60)                                                                                                                                                      | 環境社会システム学類<br>(学生定員:100)                                                                                                                                                                | 教育福祉学類<br>(学生定員:55)                                                                                                                                                              | 心理学類<br>(学生定員:45)                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>主な教育研究分野:</b><br>情報システム学<br>情報通信工学<br>人工知能学<br>応用情報学<br><b>主な対象とするシステム:</b><br>情報システム<br>社会システム<br>人間システム<br><b>主な基礎学問分野:</b><br>情報学<br>人間科学<br><b>学位又は学科の分野</b><br>工学、理学 | <b>主な教育研究分野:</b><br>自然環境学<br>社会環境学<br>環境共生学<br><b>主な対象とするシステム:</b><br>自然システム<br>社会システム<br>人間システム<br><b>主な基礎学問分野:</b><br>自然科学<br>人文・社会科学<br>人間科学<br><b>学位又は学科の分野</b><br>文学、経済学、<br>工学、農学 | <b>主な教育研究分野:</b><br>社会福祉学<br>保育学<br>教育学<br>ジェンダー論<br><b>主な対象とするシステム:</b><br>社会システム<br>人間システム<br><b>主な基礎学問分野:</b><br>人文・社会科学<br>人間科学<br><b>学位又は学科の分野</b><br>教育学・保育学、<br>社会学・社会福祉学 | <b>主な教育研究分野:</b><br>認知科学<br>社会・環境心理学<br>臨床心理学<br><b>主な対象とするシステム:</b><br>情報システム<br>人間システム<br><b>主な基礎学問分野:</b><br>人間科学<br>情報学<br><b>学位又は学科の分野</b><br>文学 |
| 学士(情報学)<br>学士(学術)                                                                                                                                                            | 学士(環境社会システム学)<br>学士(学術)                                                                                                                                                                 | 学士(教育福祉学)<br>学士(学術)                                                                                                                                                              | 学士(心理学)<br>学士(学術)                                                                                                                                     |

(新旧対照表)

本審査意見 No.1 の変更と同じ。

(是正事項) 現代システム科学域

4. 設置の趣旨等の以下の点について、明確にするか、適切に修正すること。

- (1) 「現代システム」、「現代社会システム」、「環境社会システム」、「システムの志向思考力」、「システム系科目」、府立大学の「環境システム」など、「システム」を含む複数の用語について、その定義が明らかでなく、適切に使用されているのか判然としない。また、「サステナビリティ」や「サステナビリティ志向性」についても同様である。このため、それぞれについて、学問的な定義を明らかにした上で、3つのポリシーや教育課程、教員組織などを含め、全体として整合性のある設置計画に改めること。
- (2) 設置の必要性において、「領域横断的応用力」が掲げられている一方で、1つの学類において、2つの異なる専攻分野の課程を設けることの妥当性が不明確であるため、その意義や必要性を示して妥当性を明確にすること。

(1)

(対応)

システム (system) は、ギリシア語の「共に」を意味する syn と、「立つ」を意味する stema からなる造語で、共に立つ、共立、共存、という意味である。広辞苑では、「複数の要素が有機的に関係しあい、全体としてまとまった機能を発揮している要素の集合体。」と記されている(例: ecosystem=生態系)。基本的に、この定義に沿った概念については「システム」という言葉を使用している。また、資料1(現代システム科学域に関するキーワードについての説明)に示すとおり、「現代システム科学」を「持続不可能な現代社会を持続可能な社会に変革するための持続可能システム科学」として、「システムの思考力」を「構成要素間の相互作用を理解し、全体の変化を予測したり新たな変化を考え出したりすることのできる能力」として、それぞれ定義した。

「サステナビリティ」に関しては、資料1(現代システム科学域に関するキーワードについての説明)に示すとおり、国連文書やWHO憲章等の根拠に基づき「誰一人取り残すことなくすべての人々の尊厳が守られ、人としての包括的なウェルビーイング(身体的・精神的・社会的に良好な状態)が世代を超えて保障される状態」と定義し、その状態が保たれている社会、すなわち「持続可能な社会(sustainable society)」の実現を目指す意識を「サステナビリティ志向性」と定義する。

以上の定義に従って、3ポリシー、教育課程などについて以下のとおり改める。

領域横断的知識・技能 → 領域横断的応用力

システムの思考 → システム的思考力

サステナブルな社会 → 持続可能な社会

現実社会 → 現代社会

現代システム → 現代社会

現代社会システム → 現代社会

知識情報システム学類 → 変更なし

環境社会システム学類 → 変更なし

(新旧対照表)

システムの定義部分は本審査意見 No. 1 と同じ。教育課程は本審査意見 No. 2 と同じ。

現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(設置趣旨 (本文) -15 ページ)</p> <p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー</p> <p>ー</p> <p>(2) ディプロマポリシー</p> <p>[現代システム科学域]</p> <p>本学域では、現代社会のさまざまな問題に対して、<u>領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することを目的とする。</u></p> <p>このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を授与する。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>1. (多面的視点) 自然科学、人文・社会科学、人間科学、さらに情報学に関する統合的知識・技能を持ち、現代社会の課題を多面的に捉えることができる。</p> <p>2. (コミュニケーション能力) 複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションできる。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>3. (データ活用力) データを収集・活用することのできる知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる。</p> <p>4. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代社会における課題を深く探求することができる。</p> <p>5. (領域横断的応用力) 複数領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる。</p> | <p>(5 ページ)</p> <p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー</p> <p>ー</p> <p>(2) ディプロマポリシー</p> <p>[現代システム科学域]</p> <p>本学域では、現代社会のさまざまな問題に対して、<u>領域横断的知識・技能とシステムの思考を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育てることを目的とする。</u></p> <p>このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を授与する。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>1. (多面的視点) 自然科学、社会科学、人間科学に関する統合的知識・技能を持ち、現実社会の事象を多面的に捉えることができる。</p> <p>2. (データ活用力) データサイエンスの知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる。</p> <p>3. (コミュニケーション能力) 複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションすることができる。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>4. (領域横断的応用力) 複数領域の知識を横断的に用いて、現代システムに内在する課題の解決を目指すことができる。</p> <p>5. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代システムの本質を深く探求することができる。</p> |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>6. (表現力) 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明することができる。</p> <p>(サステイナビリティ志向性)</p> <p>7. (倫理観) 現代社会の一員としての高い倫理観を有している。</p> <p>8. (サステイナブル志向) 持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。</p> <p>[知識情報システム学類]</p> <p>知識情報システム学類では、現代社会の維持・発展に不可欠となっている情報システムについて理解するとともに、<u>持続可能</u>な社会を実現するための課題解決の手段として活用することができるような情報システムを主体的にデザインする能力、また急速に進歩し続ける情報通信技術を積極的に取り入れる態度を身に付けることで、社会の変容にともなう課題を継続して解決するための科学的な分析力・思考力を持つ人材を<u>養成</u>することを目的とする。</p> <p>このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を与える。</p> <p>(知識・技能)</p> <p>1. (多面的視点) 自然科学、人文・社会科学、人間科学、さらに情報学に関する統合的知識・技能を持つとともに、情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学など、知識情報システム学に関する専門知識を身につけ、現代社会の課題を多面的に捉えることができる。</p> <p>2. (コミュニケーション能力) 知識情報システム学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションできる。</p> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> | <p>6. (表現力) 現代システムの目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明することができる。</p> <p>(サステイナビリティ志向性)</p> <p>7. (倫理観) 現代社会システムの一員としての高い倫理観を有している。</p> <p>8. (サステイナブル志向) サステイナブルな社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。</p> <p>[知識情報システム学類]</p> <p>知識情報システム学類では、現代社会の維持・発展に不可欠となっている情報システムについて理解するとともに、<u>サステイナブル</u>な社会を実現するための課題解決の手段として活用することができるような情報システムを主体的にデザインする能力、また急速に進歩し続ける情報通信技術を積極的に取り入れる態度を身に付けることで、社会の変容にともなう課題を継続して解決するための科学的な分析力・思考力を持つ人材を<u>育成</u>することを目的とする。</p> <p>このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を与える。</p> <p>(知識・技能)</p> <p>1. (多面的視点) 自然科学、社会科学、人間科学に関する統合的知識・技能を持つとともに、<u>知識情報システム学に関する専門知識を身につけ、現実社会の事象を多面的に捉えることができる。</u></p> <p>2. (データ活用力) <u>情報通信技術を積極的に取り入れ、データサイエンスの知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる。</u></p> <p>3. (コミュニケーション能力) <u>複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションすること</u></p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>3. (データ活用力) 情報通信技術を積極的に取り入れ、データサイエンスの知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる。</p> <p>4. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代社会における課題の本質を深く探求することができる。</p> <p>5. (領域横断的応用力) 情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学など、複数領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる。</p> <p>6. (表現力) 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策をデータサイエンスの技法も含めた適切な表現法を用いて説明することができる。</p> <p>(サステイナビリティ志向性)</p> <p>7. (倫理観) 情報通信技術が人間社会ならびに環境に及ぼす影響を理解し、現代社会システムの一員としての高い倫理観を有している。</p> <p>8. (サステイナブル志向) <u>持続可能</u>な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。</p> <p>[環境社会システム学類]</p> <p>環境社会システム学類では、<u>自然システムの持続可能性を理解するために必要となる自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる環境共生学の観点から、領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することを目的とする。</u></p> <p>このような目的に従い、以下の能力を持つ</p> | <p>ができる。</p> <p><u>(思考力・判断力・表現力)</u></p> <p>4. (領域横断的応用力) 情報学、社会科学、知識科学、生産科学、医療保健学など、複数領域の知識を横断的に用いて、現代システムに内在する課題の解決を目指すことができる。</p> <p>5. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代システムの本質を深く探求することができる。</p> <p>6. (表現力) 現代システムの目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明することができる。</p> <p>(サステイナビリティ志向性)</p> <p>7. (倫理観) 情報通信技術が人間社会ならびに環境に及ぼす影響を理解し、現代社会システムの一員としての高い倫理観を有している。</p> <p>8. (サステイナブル志向) <u>サステイナブルな社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。</u></p> <p>[環境社会システム学類]</p> <p>環境社会システム学類では、<u>気候や生態系の変化に象徴される自然環境の問題、環境と調和した国家や都市・まちづくりに必要な社会制度の問題、多様な人々が共生する社会をつくるために必要な社会環境の問題、人そのものの存在価値や人と人のつながりを探求する人間環境の問題に対して、領域横断的知識・技能とシステムの思考を発揮し、課題解決を図ることによって、サステイナブルな社会の実現に貢献できる人材を育てることを目的とする。</u></p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

ものに対して学位を授与する。

**(知識・技能)**

1. (多面的視点) 自然科学、人文・社会科学、人間科学、さらに情報学に関する統合的知識・技能を持つとともに、自然環境学、社会環境学、環境共生学(政策科学、環境哲学・倫理学)など、環境社会システム学に関する専門知識を身につけ、現実社会の事象を多面的に捉えることができる。
2. (コミュニケーション能力) 環境社会システム学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションすることができる。

**(思考力・判断力・表現力)**

3. (データ活用力) データを収取・活用することのできる知識・技能を用いて、課題を分析・説明することができる。
4. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代社会における課題の本質を深く探求することができる。
5. (領域横断的応用力) 自然環境学、社会環境学、環境共生学(政策科学、環境哲学・倫理学)など、複数領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる。
6. (表現力) 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明することができる。

**(サステイナビリティ志向性)**

7. (倫理観) 自然と人との共生ならびに人と人との共生の重要性を理解し、現代社会システムの一員としての高い倫理観を有している。
8. (サステイナブル志向) **持続可能**な社

このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を授与する。

**(知識・技能)**

1. (多面的視点) 自然科学、社会科学、人間科学に関する統合的知識・技能を持つとともに、環境社会システム学に関する専門知識を身につけ、現実社会の事象を多面的に捉えることができる。
2. (データ活用力) データサイエンスの知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる。
3. (コミュニケーション能力) 複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションすることができる。

**(思考力・判断力・表現力)**

4. (領域横断的応用力) 環境学、政策科学、社会科学、人文科学など、複数領域の知識を横断的に用いて、現代システムに内在する課題の解決を目指すことができる。
5. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代システムの本質を深く探求することができる。
6. (表現力) 現代システムの目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明することができる。

**(サステイナビリティ志向性)**

7. (倫理観) 自然と人との共生ならびに人と人との共生の重要性を理解し、現代社会システムの一員としての高い倫理観を有している。
8. (サステイナブル志向) サステイナブルな社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。</p> <p>[教育福祉学類]</p> <p>教育福祉学類では、<u>持続可能</u>な社会を実現するために、現代社会の諸問題を深く理解するとともに、複合的な視野から社会の仕組みをよりよいものに変革していくことのできる力をもち、地域社会から国際社会までの広範な領域で活躍できる人材の<u>養成</u>することを目的とする。</p> <p>このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を授与する。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. (多面的視点) 自然科学、人文・社会科学、人間科学、さらに情報学に関する統合的知識・技能を持つとともに、社会福祉学、保育学、教育学、さらにジェンダー論など、教育福祉学に関する専門知識を身につけ、現代社会の課題を多面的に捉えることができる。</li> <li>2. (コミュニケーション能力) 教育福祉学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションすることができる。</li> </ol> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. (データ活用力) データを収集・活用することのできる知識・技能を用いて、課題を分析・説明することができる。</li> <li>4. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代社会における課題の本質を深く探求することができる。</li> <li>5. (領域横断的応用力) 社会福祉学、保育学、教育学、さらにジェンダー論など、複数領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる。</li> </ol> | <p>[教育福祉学類]</p> <p>教育福祉学類では、<u>サステイナブル</u>な社会を実現するために、今日の国際社会の諸問題を深く理解するとともに、複合的な視野から社会の仕組みをよりよいものに変革していくことのできる力をもち、地域社会から国際社会までの広範な領域で活躍できる人材の<u>育成</u>を目的とする。</p> <p>このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を授与する。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. (多面的視点) 自然科学、社会科学、人間科学に関する統合的知識・技能を持つとともに、教育福祉学に関する専門知識を身につけ、現実社会の事象を多面的に捉えることができる。</li> <li>2. (データ活用力) データサイエンスの知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる。</li> <li>3. (コミュニケーション能力) 複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションすることができる。</li> </ol> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. (領域横断的応用力) 社会福祉学、保育学、教育学など、複数領域の知識を横断的に用いて、現代システムに内在する課題の解決を目指すことができる。</li> <li>5. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代システムの本質を深く探求することができる。</li> <li>6. (表現力) 現代システムの目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明するこ</li> </ol> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>6. (表現力) 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明することができる。</p> <p>(サステナビリティ志向性)</p> <p>7. (倫理観) 人権的支援、教育的支援、社会福祉的支援の重要性を理解し、現代社会システムの一員としての高い倫理観を有している。</p> <p>8. (サステイナブル志向) <u>持続可能</u>な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。</p> <p>[心理学類]</p> <p>心理学類では、現代社会に生きる人々が、他者や社会、文化との相互作用の中で抱える心に起因する問題に焦点を当て、心理学及び心理学関連分野の専門的知識・技能とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、<u>持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することを目的とする。</u></p> <p>このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を授与する。</p> <p>(知識・技能)</p> <p>1. (多面的視点) 自然科学、人文・社会科学、人間科学、さらに情報学に関する統合的知識・技能を持つとともに、認知科学、社会・環境心理学、臨床心理学など、心理学に関する専門知識を身につけ、現代社会の課題を多面的に捉えることができる。</p> <p>2. (コミュニケーション能力) 心理学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションすることができる。</p> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <p>3. (データ活用力) データを収集・活用することのできる知識・技能を用いて、課題を分析・説明することができ</p> | <p><u>とができる。</u></p> <p>(サステナビリティ志向性)</p> <p>7. (倫理観) 人権的支援、教育的支援、社会福祉的支援の重要性を理解し、現代社会システムの一員としての高い倫理観を有している。</p> <p>8. (サステイナブル志向) <u>サステイナブルな社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。</u></p> <p>[心理学類]</p> <p>心理学類では、現代社会に生きる人々が、他者や社会、文化との相互作用の中で抱える心に起因する問題に焦点を当て、心理学及び心理学関連分野の専門的知識と技能とシステムの思考を発揮し、課題解決を図ることによって、<u>サステイナブルな社会の実現に貢献できる人材を育てることを目的とする。</u></p> <p>このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を授与する。</p> <p>(知識・技能)</p> <p>1. (多面的視点) 自然科学、社会科学、人間科学に関する統合的知識・技能を持つとともに、心理学に関する専門知識を身につけ、現実社会の事象を多面的に捉えることができる。</p> <p>2. (データ活用力) <u>データサイエンスの知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる。</u></p> <p>3. (コミュニケーション能力) <u>複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションすることができる。</u></p> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <p>4. (領域横断的応用力) 心理学、臨床心理学、建築環境工学、情報工学など、</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>る。</p> <p>4. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代社会における課題の本質を深く探求することができる。</p> <p>5. (領域横断的応用力) 認知科学、社会・環境心理学、臨床心理学など、心理学およびその関連領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる。</p> <p>6. (表現力) 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明することができる。</p> <p>(サステイナビリティ志向性)</p> <p>7. (倫理観) 人と社会の相互作用の中で生じる心の問題を解決することの重要性を理解し、現代社会システムの一員としての高い倫理観を有している。</p> <p>8. (サステイナブル志向) <u>持続可能</u>な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。</p> <p>[未来デザインコース (FDC)]</p> <p>FDC では、自らがデザインした将来ビジョンを実現するにあたって障壁となる様々な問題に対して、<u>領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することを目的とする。</u></p> <p>このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を授与する。</p> <p>(知識・技能)</p> <p>1. (多面的視点) 自然科学、人文・社会科学、人間科学、さらに情報学に関する統合的知識・技能を持ち、現実社会の課題を多面的に捉えることができる。</p> <p>2. (コミュニケーション能力) 複数の言</p> | <p><u>複数領域の知識を横断的に用いて、現代システムに内在する課題の解決を目指すことができる。</u></p> <p>5. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代システムの本質を深く探求することができる。</p> <p>6. (表現力) 現代システムの目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明することができる。</p> <p>(サステイナビリティ志向性)</p> <p>7. (倫理観) 人と社会の相互作用の中で生じる心の問題を解決することの重要性を理解し、現代社会システムの一員としての高い倫理観を有している。</p> <p>8. (サステイナブル志向) <u>サステイナブルな社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。</u></p> <p>[未来デザインコース (FDC)]</p> <p>FDC では、自らがデザインした将来ビジョンを実現するにあたって障壁となる様々な問題に対して、<u>領域横断的知識・技能とシステムの思考を発揮し、課題解決を図ることによって、サステイナブルな社会の実現に貢献できる人材を育てることを目的とする。</u></p> <p>このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を授与する。</p> <p>(知識・技能)</p> <p>1. (多面的視点) 自然科学、社会科学、人間科学に関する統合的知識・技能を持ち、現実社会の事象を多面的に捉えることができる。</p> <p>2. (データ活用力) データサイエンスの知識・技能を用いて、事象を分析・説</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションすることができる。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>3. (データ活用力) データを収集・活用することのできる知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる。</p> <p>4. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代社会における課題の本質を深く探求することができる。</p> <p>5. (領域横断的応用力) 複数領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる。</p> <p>6. (実行力) 現代社会の課題を自ら発見し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。</p> <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> <p>7. (倫理観) <u>現代社会</u>の一員としての高い倫理観を有している。</p> <p>8. (サステナブル志向) <u>持続可能</u>な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。</p> | <p>明することができる。</p> <p>3. (コミュニケーション能力) 複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションすることができる。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>4. (領域横断的応用力) 複数領域の知識を横断的に用いて、現代システムに内在する課題の解決を目指すことができる。</p> <p>5. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代システムの本質を深く探求することができる。</p> <p>6. (表現力) 現代システムの目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明することができる。</p> <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> <p>7. (倫理観) <u>現代社会</u>システムの一員としての高い倫理観を有している。</p> <p>8. (サステナブル志向) <u>サステナブル</u>な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。</p> |
| <p>(設置趣旨 (本文) -27 ページ)</p> <p>4 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>ア 教育課程の編制方針(カリキュラムポリシー)</p> <p>[現代システム科学域]</p> <p>学位授与に必要とされる能力(ディプロマポリシー)を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。また、各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などで評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>1. 幅広い知識・技能、多面的な視野を養</p>                                                                                                                                                                          | <p>(15 ページ)</p> <p>4 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>ア 教育課程の編制方針(カリキュラムポリシー)</p> <p>[現代システム科学域]</p> <p>学位授与に必要とされる能力(ディプロマポリシー)を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。また、各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などで評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>1. 幅広い知識・技能、多面的な視野を養</p>                                                                                                                                                                              |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>うために、基幹教育科目に総合教養科目および健康・スポーツ科学科目を配置する。</p> <p>2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目および初修外国語科目を配置する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>3. データを収集・活用することのできる知識・技能を養うために、基幹教育科目に情報リテラシー科目、基礎教育科目にプログラミング科目、数学・統計科目を配置する。</p> <p>4. 知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類のそれぞれで必要となる知識を修得させるため、基礎教育科目、各学類専門科目を体系的に配置する。</p> <p>5. 多様な要素の相互作用としてとらえることによって現代社会における課題の本質を深く探求することができる力（システムの思考力）を養うために、学域共通科目にシステムとサステイナビリティ科目を配置する。</p> <p>6. 複数領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる力（領域横断的応用力）を養うために、学域共通科目に各学類概論科目を配置する。</p> <p>7. 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を説明することができる表現力を養うために、基幹教育科目に初年次導入科目、各学類演習科目を配置する。</p> <p><b>(サステイナビリティ志向性)</b></p> <p>8. 現代社会の一員としての高い倫理観を養うために、学域共通科目にシステムとサステイナビリティ科目を配置する。</p> | <p>うために、基幹教育科目の総合教養科目および健康・スポーツ科学科目を配置する。</p> <p>2. <u>知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類のそれぞれで必要となる知識を修得させるため、基礎教育科目および各学類専門科目を体系的に配置する。</u></p> <p>3. <u>データサイエンスの知識・技能を養うために、基幹教育科目の情報リテラシー科目および基礎教育科目（「プログラミング入門」など）を配置する。</u></p> <p>4. <u>複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。</u></p> <p><b><u>(思考力・判断力・表現力)</u></b></p> <p>5. <u>複数領域の知識を横断的に用いて、現代システムに内在する課題の解決を目指すことができる力（領域横断的応用力）を養うために、学域共通科目（各学類導入科目など）を配置する。</u></p> <p>6. <u>多様な要素の相互作用としてとらえることによって現代システムの本質を深く探求することができる力（システムの思考力）を養うために、各学類専門科目の中にシステム系科目を配置する。</u></p> <p>7. <u>現代システムの目指すべき方向性とそれを実現するための方策を説明することができる表現力を養うために、基幹教育科目の「初年次ゼミナール」、および各学類演習科目を配置する。</u></p> <p><b><u>(サステイナビリティ志向性)</u></b></p> <p>8. <u>現代社会システムの一員としての高い倫理観を養うために、学域共通科目（「サステイナビリティ」など）を配置する。</u></p> <p>9. <u>サステイナブルな社会の実現を他者</u></p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>9. <u>持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を養うために、PBL プログラムを配置する。</u></p> <p>[知識情報システム学類]</p> <p>学位授与に必要とされる能力(ディプロマポリシー)を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。また、各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などで評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い知識・技能、多面的な視野を養うために、基幹教育科目に総合教養科目および健康・スポーツ科学科目を配置する。</li> <li>複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目および初修外国語科目を配置する。</li> </ol> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>データサイエンスの知識・技能を養うために、基幹教育科目に情報リテラシー科目、基礎教育科目に数学科目およびプログラミング入門、学類専門科目を体系的に配置する。</li> <li>情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学など、知識情報システム学類で必要となる知識を修得させるため、基礎教育科目、学類基盤科目、学類専門科目を体系的に配置する。</li> <li>多様な要素の相互作用としてとらえることによって現代社会における課題の本質を深く探求することができる力(システムの思考力)を養うために、学域共通科目にシステムとサステイナビリティ科目を配置する。</li> </ol> | <p><u>と協働して目指す態度を養うために、PBL コース(「SDGs 演習」など)を配置する。</u></p> <p>[知識情報システム学類]</p> <p>学位授与に必要とされる能力(ディプロマポリシー)を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。また、各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などで評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い知識・技能、多面的な視野を養うために、基幹教育科目の総合教養科目および健康・スポーツ科学科目を配置する。</li> <li><u>知識情報システム学類で必要となる知識を修得させるため、基礎教育科目および学類専門科目(「生産科学」「マーケティング・サイエンス」「Web システムデザイン」「教育情報学」「ヘルスケアシステム」など)を体系的に配置する。</u></li> <li><u>データサイエンスの知識・技能を養うために、基幹教育科目の情報リテラシー科目および基礎教育科目(「統計学基礎」「プログラミング入門」など)および学類専門科目(「AI プログラミング」など)を配置する。</u></li> <li><u>複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。</u></li> </ol> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><u>複数領域の知識を横断的に用いて、現代システムに内在する課題の解決を目指すことができる力(領域横断的応用力)を養うために、学域共通科目(各</u></li> </ol> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>6. 複数領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる力（領域横断的応用力）を養うために、学域共通科目に各学類概論科目）を配置する。</p> <p>7. 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策をデータサイエンスの技法も含めて説明することができる表現力を養うために、基幹教育科目に初年次導入科目、学類演習科目を配置する。</p> <p><b>（サステイナビリティ志向性）</b></p> <p>8. 情報通信技術が人間社会ならびに環境に及ぼす影響を理解し、現代社会の一員としての高い倫理観を養うために、学域共通科目にシステムとサステイナビリティ科目を配置する。</p> <p>9. 持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を養うために、PBLプログラムを配置する。</p> <p><b>〔環境社会システム学類〕</b></p> <p>学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。また、各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などで評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。</p> <p><b>（知識・技能）</b></p> <p>1. 幅広い知識・技能、多面的な視野を養うために、基幹教育科目に総合教養科目および健康・スポーツ科学科目を配置する。</p> | <p><u>学類導入科目など）を配置する。</u></p> <p>6. <u>多様な要素の相互作用としてとらえることによって現代システムの本質を深く探求することができる力（システムの思考力）を養うために、学類専門科目の中にシステム系科目（「生産システム科学」、「空間情報システム」など）を配置する。</u></p> <p>7. <u>現代システムの目指すべき方向性とそれを実現するための方策を説明することができる表現力を養うために、基幹教育科目の「初年次ゼミナール」、および学類演習科目（「知識情報システム学演習 1～4」など）を配置する。</u></p> <p><b>（サステイナビリティ志向性）</b></p> <p>8. <u>情報通信技術が人間社会ならびに環境に及ぼす影響を理解し、現代社会システムの一員としての高い倫理観を養うために、学域共通科目（「サステイナビリティ」、「知識情報システム学 1・2」など）を配置する。</u></p> <p>9. <u>サステイナブルな社会の実現を他者と協働して目指す態度を養うために、PBL コース（「SDGs 演習」など）を配置する。</u></p> <p><b>〔環境社会システム学類〕</b></p> <p>学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。また、各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などで評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。</p> <p><b>（知識・技能）</b></p> <p>1. 幅広い知識・技能、多面的な視野を養うために、基幹教育科目の総合教養科目および健康・スポーツ科学科目を配置する。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>3. データを収集・活用することのできる知識・技能を養うために、基幹教育科目に情報リテラシー科目、基礎教育科目にプログラミング科目、数学・統計科目を配置する。</p> <p>4. 自然環境学、社会環境学、環境共生学（政策科学、環境哲学・倫理学）など、環境社会システム学類で必要となる知識を修得させるため、基礎教育科目、学類基盤科目、学類専門科目を体系的に配置する。</p> <p>5. 多様な要素の相互作用としてとらえることによって現代社会における課題の本質を深く探求することができる力（システムの思考力）を養うために、学域共通科目にシステムとサステイナビリティ科目を配置する。</p> <p>6. 複数領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる力（領域横断的応用力）を養うために、学域共通科目に各学類概論科目を配置する。</p> <p>7. 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を説明することができる表現力を養うために、基幹教育科目に初年次導入科目、学類演習科目を配置する。</p> <p><b>(サステイナビリティ志向性)</b></p> <p>8. 自然と人との共生ならびに人と人との共生の重要性を理解し、現代社会の一員としての高い倫理観を養うために、学域共通科目にシステムとサステイナビリティ科目を配置する。</p> <p>9. 持続可能な社会の実現を他者と協働</p> | <p>2. 環境社会システム学類で必要となる知識を修得させるため、基礎教育科目、学類基盤科目（「地球環境学」、「公共政策学基礎」、「異文化の理解」、「環境哲学・倫理学」など）、学類専門科目を体系的に配置する。</p> <p>3. データサイエンスの知識・技能を養うために、基幹教育科目の情報リテラシー科目および基礎教育科目（「統計学基礎」、「プログラミング入門」など）を配置する。</p> <p>4. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>5. 複数領域の知識を横断的に用いて、現代システムに内在する課題の解決を目指すことができる力（領域横断的応用力）を養うために、学域共通科目（各学類導入科目など）を配置する。</p> <p>6. 多様な要素の相互作用としてとらえることによって現代システムの本質を深く探求することができる力（システムの思考力）を養うために、学類専門科目の中にシステム系科目（「地球環境学」、「言語の社会システム」など）を配置する。</p> <p>7. 現代システムの目指すべき方向性とそれを実現するための方策を説明することができる表現力を養うために、基幹教育科目の「初年次ゼミナール」、および学類演習科目（「環境共生科学演習 1～3」、「社会共生科学演習 1・2」など）を配置する。</p> <p><b>(サステイナビリティ志向性)</b></p> <p>8. 自然と人との共生ならびに人と人との共生の重要性を理解し、現代社会システムの一員としての高い社会的倫</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>して目指す態度を養うために、PBL プログラムを配置する。</p> <p>[教育福祉学類]</p> <p>学位授与に必要とされる能力(ディプロマポリシー)を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。また、各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などで評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。</p> <p>(知識・技能)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い知識・技能、多面的な視野を養うために、基幹教育科目に総合教養科目および健康・スポーツ科学科目を配置する。</li> <li>複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目および初修外国語科目を配置する。</li> </ol> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>データを収集・活用することのできる知識・技能を養うために、基幹教育科目に情報リテラシー科目、基礎教育科目にプログラミング科目、数学・統計学科目を配置する。</li> <li>社会福祉学、保育学、教育学、さらにジェンダー論など、教育福祉学類で必要となる知識を修得させるため、基礎教育科目、学類基盤科目、学類専門科目を体系的に配置する。</li> <li>多様な要素の相互作用としてとらえることによって現代社会の課題の本</li> </ol> | <p>理観を養うために、学域共通科目(「サステイナビリティ」、「環境共生科学 A・B」、「社会共生科学 A・B」など)を配置する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>サステイナブルな社会の実現を他者と協働して目指す態度を養うために、PBL コース(「SDGs 演習」など)を配置する。</li> </ol> <p>[教育福祉学類]</p> <p>学位授与に必要とされる能力(ディプロマポリシー)を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。また、各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などで評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。</p> <p>(知識・技能)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い知識・技能、多面的な視野を養うために、基幹教育科目の総合教養科目および健康・スポーツ科学科目を配置する。</li> <li>教育福祉学類で必要となる知識を修得させるため、基礎教育科目、学類基盤科目(「人間形成論」、「社会福祉原論」、「保育学概論」、「教育福祉における SDGs」など)、学類専門科目を体系的に配置する。</li> <li>データサイエンスの知識・技能を養うために、基幹教育科目の情報リテラシー科目および基礎教育科目(「統計学基礎 1・2」など)を配置する。</li> <li>複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。</li> </ol> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数領域の知識を横断的に用いて、現代システムに内在する課題の解決を</li> </ol> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>質を深く探求することができる力(システムの思考力)を養うために、学域共通科目にシステムとサステナビリティ科目を配置する。</p> <p>6. 複数領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる力(領域横断的応用力)を養うために、学域共通科目に各学類概論科目を配置する。</p> <p>7. 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を説明することができる表現力を養うために、基幹教育科目に初年次導入科目、学類演習科目を配置する。</p> <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> <p>8. 人権的支援、教育的支援、社会福祉的支援の重要性を理解し、現代社会の一員としての高い倫理観を養うために、学域共通科目にシステムとサステナビリティ科目を配置する。</p> <p>9. 持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を養うために、PBLプログラムを配置する。</p> <p><b>[心理学類]</b></p> <p>学位授与に必要とされる能力(ディプロマポリシー)を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。また、各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などで評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>1. 幅広い知識・技能、多面的な視野を養</p> | <p>目指すことができる力(領域横断的応用力)を養うために、学域共通科目(各学類導入科目など)を配置する。</p> <p>6. <u>多様な要素の相互作用としてとらえることによって現代システムの本質を深く探求することができる力(システムの思考力)を養うために、学類専門科目の中にシステム系科目(「教育福祉におけるSDGs」、「社会政策論」など)を配置する。</u></p> <p>7. <u>現代システムの目指すべき方向性とそれを実現するための方策を説明することができる表現力を養うために、基幹教育科目の「初年次ゼミナール」、および学類演習科目(「教育福祉ゼミナールA・B」など)を配置する。</u></p> <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> <p>8. <u>人権的支援、教育的支援、社会福祉的支援の重要性を理解し、現代社会システムの一員としての高い社会的倫理観を養うために、学域共通科目(「サステナビリティ」、「社会福祉学A・B」など)を配置する。</u></p> <p>9. <u>サステイナブルな社会の実現を他者と協働して目指す態度を養うために、PBLコース(「SDGs演習」など)を配置する。</u></p> <p><b>[心理学類]</b></p> <p>学位授与に必要とされる能力(ディプロマポリシー)を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。また、各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などで評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>1. 幅広い知識・技能、多面的な視野を養</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>うために、基幹教育科目に総合教養科目および健康・スポーツ科学科目を配置する。</p> <p>2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目および初修外国語科目を配置する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>3. データを収集・活用することのできる知識・技能を養うために、基幹教育科目に情報リテラシー科目、基礎教育科目にプログラミング科目、数学・統計科目を配置する。</p> <p>4. 認知科学、社会・環境心理学、臨床心理学などの心理学およびその関連領域の知識を修得させるため、基礎教育科目、学類専門科目、学類関連科目を体系的に配置する。</p> <p>5. 多様な要素の相互作用としてとらえることによって現代社会における課題の本質を深く探求することができる力（システムの思考力）を養うために、学域共通科目にシステムとサステイナビリティ科目を配置する。</p> <p>6. 複数領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる力（領域横断的応用力）を養うために、学域共通科目に各学類概論導入を配置する。</p> <p>7. 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を説明することができる表現力を養うために、基幹教育科目に初年次導入科目、学類演習科目を配置する。</p> <p><b>(サステイナビリティ志向性)</b></p> <p>8. 人と社会の相互作用の中で生じる心の問題を解決することの重要性を理解し、現代社会の一員としての高い倫理観を養うために、学域共通科目にシ</p> | <p>うために、基幹教育科目の総合教養科目および健康・スポーツ科学科目を配置する。</p> <p>2. <u>心理学類で必要となる知識を修得させるため、基礎教育科目、学類専門科目（「認知科学1・2」、「社会・集団・家族心理学」、「発達心理学1・2」、「臨床心理学概論」、「心理療法論」など）、学類専門科目を体系的に配置する。</u></p> <p>3. <u>データサイエンスの知識・技能を養うために、基幹教育科目の情報リテラシー科目および基礎教育科目（「プログラミング入門」など）を配置する。</u></p> <p>4. <u>複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。</u></p> <p><b><u>(思考力・判断力・表現力)</u></b></p> <p>5. <u>複数領域の知識を横断的に用いて、現代システムに内在する課題の解決を目指すことができる力（領域横断的応用力）を養うために、学域共通科目（各学類導入科目など）を配置する。</u></p> <p>6. <u>多様な要素の相互作用としてとらえることによって現代システムの本質を深く探求することができる力（システムの思考力）を養うために、学類専門科目の中にシステム系科目（「認知情報処理」、「環境心理学」など）を配置する。</u></p> <p>7. <u>現代システムの目指すべき方向性とそれを実現するための方策を説明することができる表現力を養うために、基幹教育科目の「初年次ゼミナール」、および学類演習科目（「心理学研究演習1・2」など）を配置する。</u></p> <p><b><u>(サステイナビリティ志向性)</u></b></p> <p>8. <u>人と社会の相互作用の中で生じる心の問題を解決することの重要性を理</u></p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>システムとサステナビリティ科目を配置する。</p> <p>9. 持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を養うために、PBL プログラムを配置する。</p> <p>[未来デザインコース (FDC)]</p> <p>学位授与に必要とされる能力(ディプロマポリシー)を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。また、各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などで評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い知識・技能、多面的な視野を養うために、基幹教育科目に総合教養科目および健康・スポーツ科学科目を配置する。</li> <li>複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目および初修外国語科目を配置する。</li> </ol> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>データを収集・活用することのできる知識・技能を養うために、基幹教育科目に情報リテラシー科目、基礎教育科目にプログラミング科目、数学・統計科目を配置する。</li> <li>知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類のそれぞれで必要となる知識を修得させるため、基礎教育科目および各学類専門科目を体系的に配置する。</li> <li>多様な要素の相互作用としてとらえることによって現代社会における課</li> </ol> | <p><u>解し、現代社会システムの一員としての高い倫理観を養うために、学域共通科目(「サステナビリティ」、「心理学1・2」など)を配置する。</u></p> <p>9. <u>サステナブルな社会の実現を他者と協働して目指す態度を養うために、PBL コース(「SDGs 演習」など)を配置する。</u></p> <p>[未来デザインコース (FDC)]</p> <p>学位授与に必要とされる能力(ディプロマポリシー)を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。また、各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などで評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い知識・技能、多面的な視野を養うために、基幹教育科目の総合教養科目および健康・スポーツ科学科目を配置する。</li> <li><u>知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類のそれぞれで必要となる知識を修得させるため、基礎教育科目および各学類専門科目を体系的に配置する。</u></li> <li><u>データサイエンスの知識・技能を養うために、基幹教育科目の情報リテラシー科目および基礎教育科目(「プログラミング入門」など)を配置する。</u></li> <li><u>複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。</u></li> </ol> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><u>複数領域の知識を横断的に用いて、現代システムに内在する課題の解決を目指すことができる力(領域横断的応</u></li> </ol> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>題の本質を深く探求することができる力（システムの思考力）を養うために、学域共通科目にシステムとサステイナビリティ科目を配置する。</p> <p>6. 複数領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる力（領域横断的応用力）を養うために、学域共通科目に各学類概論科目を配置する。</p> <p>7. 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を説明することができる表現力を養うために、基幹教育科目に初年次導入科目、各学類演習科目を配置する。</p> <p><b>（サステイナビリティ志向性）</b></p> <p>8. 現代社会の一員としての高い倫理観を養うために、学域共通科目にシステムとサステイナビリティ科目を配置する。</p> <p>9. 持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を養うために、PBL プログラムを配置する。</p> | <p><u>用力）を養うために、学域共通科目（各学類導入科目など）を配置する。</u></p> <p>6. <u>多様な要素の相互作用としてとらえることによって現代システムの本質を深く探求することができる力（システムの思考力）を養うために、各学類専門科目の中にシステム系科目を配置する。</u></p> <p>7. <u>現代システムの目指すべき方向性とそれを実現するための方策を説明することができる表現力を養うために、基幹教育科目の「初年次ゼミナール」、および各学類演習科目を配置する。</u></p> <p><b>（サステイナビリティ志向性）</b></p> <p>8. <u>現代社会システムの一員としての高い倫理観を養うために、学域共通科目（「サステイナビリティ」など）を配置する。</u></p> <p>9. <u>サステイナブルな社会の実現を他者と協働して目指す態度を養うために、PBL コース（「SDGs 演習」など）を配置する。</u></p> |
| <p>（設置趣旨（本文）-53 ページ）</p> <p>8 入学者選抜の概要</p> <p>ア アドミッションポリシー</p> <p>〔現代システム科学域〕</p> <p>現代社会において、環境問題、社会・福祉問題、心理的問題が複雑に絡み合い、現在のような豊かな社会が持続可能かどうかは疑問視される状況となっており、これらの複雑な問題を解決し、<u>持続可能</u>な社会を実現するという高い志を持った人材の育成が求められている。本科学域では、複数の学問分野を融合的に学びつつ PBL（Project-Based-Learning）に取り組むことを通して、現代社会の諸問題を解決することができる人材を養成することを目指す。</p>                                                                               | <p>（30 ページ）</p> <p>8 入学者選抜の概要</p> <p>ア アドミッションポリシー</p> <p>〔現代システム科学域〕</p> <p>現代社会には、環境問題、社会・福祉問題、心理的問題が複雑に絡み合い、現在のような豊かな社会が持続可能かどうかは疑問視される状況となっており、これらの複雑な問題を解決し、<u>サステイナブル</u>な社会を実現するという高い志を持った人材の育成が求められている。本科学域では、複数の学問分野を融合的に学びつつ PBL に取り組むことを通して、現代社会の諸問題を解決することができる人材を育成することを目指す。</p> <p>したがって、本学域では、次のような学生</p>                                                                                                                        |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>したがって、本学域では、次のような学生を求めている。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、基礎的な知識・技能を有している人</li> </ol> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 問題解決を行うための基礎的な思考力・判断力を有している人</li> <li>3. 自分の考え方や意見を他者に<u>的確に</u>伝えるための基礎的な表現力を有している人</li> </ol> <p><b>(社会の諸問題への関心)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 現代社会の諸問題に対する関心を有している人</li> </ol>                                                                                                                                                                               | <p>を求めている。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、基礎的な知識・技能を有している人</li> </ol> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 問題解決を行うための基礎的な思考力・判断力を有している人</li> <li>3. 自分の考え方や意見を他者に<u>うまく</u>伝えるための基礎的な表現力を有している人</li> </ol> <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. <u>持続可能な社会の実現に関心を有する人</u></li> </ol>                                                                                                                                                 |
| <p>(設置趣旨 (本文) -56 ページ)</p> <p>8 入学者選抜の概要</p> <p>ア アドミッションポリシー</p> <p>[知識情報システム学類]</p> <p>知識情報システム学類では、情報学およびその応用分野を学びながら、他の学問領域の学生と <u>協働的に</u> PBL (<u>Project-Based-Learning</u>) に取り組むことを通して、現代社会におけるさまざまな課題を解決する<u>ために情報システム開発・活用することができる人材を養成する。</u></p> <p>したがって、知識情報システム学類では、次のような学生を求めている。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、知識情報システム学を学ぶための基礎的な知識・技能を有している人</li> </ol> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 問題解決を行うための基礎的な思考力・判断力を有している人</li> <li>3. 自分の考え方や意見を他者に<u>的確に</u>伝えるための基礎的な表現力を有している人</li> </ol> | <p>(33 ページ)</p> <p>8 入学者選抜の概要</p> <p>ア アドミッションポリシー</p> <p>[知識情報システム学類]</p> <p>知識情報システム学類では、情報学およびその応用分野を学びながら、他の学問領域の学生と<u>共同的に</u> PBL に取り組むことを通して、現代社会におけるさまざまな課題を解決する<u>手段として情報システムを活用することができる人材を育成する。</u></p> <p>したがって、知識情報システム学類では、次のような学生を求めている。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、知識情報システム学を学ぶための基礎的な知識・技能を有している人</li> </ol> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 問題解決を行うための基礎的な思考力・判断力を有している人</li> <li>3. 自分の考え方や意見を他者に<u>うまく</u>伝えるための基礎的な表現力を有している人</li> </ol> |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ている人</p> <p><b>(社会の諸問題への関心)</b></p> <p>4. 現代社会の諸問題に対する関心を有している人</p> <p>[環境社会システム学類]</p> <p>環境社会システム学類では、<u>自然科学、人文・社会科学、人間科学の融合領域を学びながら、他の学問領域の学生と協働的にPBL (Project-Based-Learning) に取り組むことを通して、自然環境、社会環境、環境共生の課題を総合的に解決できる人材を養成する。</u></p> <p>したがって環境社会システム学類では、次のような学生を求めている。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、環境社会システム学を学ぶための基礎的な知識・技能を有している人</li> </ol> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 問題解決を行うための基礎的な思考力・判断力を有している人</li> <li>3. 自分の考え方や意見を他者に<u>的確に</u>伝えるための基礎的な表現力を有している人</li> </ol> <p><b>(社会の諸問題への関心)</b></p> <p>4. 現代社会の諸問題に対する関心を有している人</p> <p>[教育福祉学類]</p> <p>教育福祉学類では、<u>社会福祉学、保育学、教育学、ジェンダー論及びその関連分野を学びながら、他の学問領域の学生と協働的にPBL (Project-Based-Learning) に取り組むことを通して、教育福祉に関わるさまざまな課題を総合的に解決できる人材を養成する。</u></p> <p>したがって、教育福祉学類では次のような学生を求めている。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> | <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> <p>4. <u>持続可能な社会の実現に関心を有する人</u></p> <p>[環境社会システム学類]</p> <p>環境社会システム学類では、<u>環境学、政策科学、社会科学、人文科学の融合領域を学びながら、他の学問領域の学生と共同的にPBLに取り組むことを通して、自然環境、社会制度、社会環境、人間環境の問題を総合的に解決できる人材を育成する。</u></p> <p>したがって環境社会システム学類では、次のような学生を求めている。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、環境社会システム学を学ぶための基礎的な知識・技能を有している人</li> </ol> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 問題解決を行うための基礎的な思考力・判断力を有している人</li> <li>3. 自分の考え方や意見を他者に<u>うまく</u>伝えるための基礎的な表現力を有している人</li> </ol> <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> <p>4. <u>持続可能な社会の実現に関心を有する人</u></p> <p>[教育福祉学類]</p> <p>教育福祉学類では、<u>教育学、社会福祉学、保育学及びその関連分野を学びながら、他の学問領域の学生と共同的に PBL に取り組むことを通して、教育福祉に関わるさまざまな課題を総合的に解決できる人材を育成する。</u></p> <p>したがって、教育福祉学類では次のような学生を求めている。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高等学校における教科・科目を文理と</li> </ol> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、教育福祉学を学ぶための基礎的な知識・技能を有している人</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>2. 問題解決を行うための基礎的な思考力・判断力を有している人</p> <p>3. 自分の考え方や意見を他者に<u>的確に</u>伝えるための基礎的な表現力を有している人</p> <p><b>(社会の諸問題への関心)</b></p> <p>4. 現代社会の諸問題に対する関心を有している人</p> <p>[心理学類]</p> <p>実験心理学と臨床心理学を統合的に学びながら、他の学問領域の学生と協働的にPBL (Project-Based-Learning) に取り組むことを通して、ヒトの心理的問題を解決できる人材を養成する。</p> <p>したがって心理学類では、次のような学生を求めている。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>1. 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、心理学を学ぶための基礎的な知識・技能を有している人</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>2. 問題解決を行うための基礎的な思考力・判断力を有している人</p> <p>3. 自分の考え方や意見を他者に<u>的確に</u>伝えるための基礎的な表現力を有している人</p> <p><b>(社会の諸問題への関心)</b></p> <p>4. 現代社会の諸問題に対する関心を有している人</p> | <p>もに広く学習し、教育福祉学を学ぶための基礎的な知識・技能を有している人</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>2. 問題解決を行うための基礎的な思考力・判断力を有している人</p> <p>3. 自分の考え方や意見を他者に<u>うまく</u>伝えるための基礎的な表現力を有している人</p> <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> <p>4. 持続可能な社会の実現に関心を有する人</p> <p>[心理学類]</p> <p><u>心理学類では、実験心理学の研究法と、臨床心理学の研究法を統合的に学びながら、他の学問領域の学生と共同的にPBLに取り組むことを通して、ヒトの心理的問題を解決できる人材を育成する。</u></p> <p>したがって心理学類では、次のような学生を求めている。</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>1. 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、心理学を学ぶための基礎的な知識・技能を有している人</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>2. 問題解決を行うための基礎的な思考力・判断力を有している人</p> <p>3. 自分の考え方や意見を他者に<u>うまく</u>伝えるための基礎的な表現力を有している人</p> <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> <p>4. 持続可能な社会の実現に関心を有する人</p> |
| <p>(設置趣旨 (本文) -23 ページ)</p> <p>3 学部・学科等の名称及び学位の名称</p> <p>ア 学部・学科等の名称及び当該名称とする理</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>12 ページ</p> <p>3 学部・学科等の名称及び学位の名称</p> <p>ア 学部・学科等の名称及び当該名称とする理</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>由</p> <p>(1) 学域の名称を当該名称とする理由</p> <p>本学域では、地球温暖化や人口爆発による水・食糧・エネルギー危機といった地球規模の問題、富の集中と貧困、宗教・価値観の違いによる国家・地域間の対立、都市域における格差社会や高齢社会の問題、心の病と生きる意味の喪失など、現代社会が抱えるさまざまな課題を解決するため、情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学、自然環境学、社会環境学、環境共生学（政策科学、環境哲学・倫理学）、社会福祉学、保育学、教育学、ジェンダー論、認知科学、社会・環境心理学、臨床心理学といった幅広い分野の知識や技能を修得し、領域横断的応用力とシステムの思考力を身につけることにより、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育てることを目的とすることから、学域名称を現代システム科学域とした。</p> | <p>由</p> <p>(1) 学域の名称を当該名称とする理由</p> <p>本学域では、地球温暖化や人口爆発による水・食糧・エネルギー危機といった地球規模の問題、富の集中と貧困、宗教・価値観の違いによる国家・地域間の対立、都市域における格差社会や高齢社会の問題、心の病と生きる意味の喪失など、現代社会が抱えるさまざまな課題を解決するため、情報学、環境学、政策科学、社会科学、人文科学、社会福祉学、保育学、教育学、臨床心理学、認知行動論といった幅広い分野の知識や技能を修得し、領域横断的応用力とシステムの思考力を身につけることにより、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育てることを目的とすることから、学域名称を現代システム科学域とした。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## (2)

### (対応)

環境共生科学課程および社会共生科学課程において、それぞれ独立して自然科学および社会科学を学ぶ仕組みとすると、ご指摘のように領域横断的応用力は十分養われるとは言えない。そこで、課程をなくし、学類を一体化したうえで、自然環境、社会環境、環境共生を学び、領域横断的応用力を養う教育課程にすることとし、さまざまな職種の企業、公務員、NPOなど多種多様な進路を見据え、ディプロマ・ポリシーに掲げる養成する人材像も「環境社会システム学類では、自然システムの持続可能性を理解するために必要となる自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる環境共生学の観点から、領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することを目的とする。」に改めた。

このディプロマ・ポリシーに従い、初年次の学域共通科目として、サステナビリティの概念とシステムの思考力を学ぶ「情報システムとサステナビリティ」「自然システムとサステナビリティ」「社会システムとサステナビリティ」「人間システムとサステナビリティ」を履修したのち、「環境社会システム学概論」において、環境社会システム学類が養成する人材像と、環境社会システム学の教育研究分野が、自然環境学、社会環境学、環境共生学（政策科学、環境哲学・倫理学）の3本柱から成り立っていることを学ぶ。さらに、自然環境学、社会環境学、環境共生学の基礎を学類基盤科目で一体的に学ぶとともに、学年進行に合わせて、自然環境学、社会環境学、環境共生学のいずれかに軸を置いた応用的学びに移行

していくことにより、環境社会システム学類が養成する人材像に必要な素養を体系的に学修できる教育課程とした。

(新旧対照表)

ディプロマ・ポリシーは本審査意見No.4 (1) と同じ、教育課程は本審査意見 No. 2 と同じ。

(是正事項) 現代システム科学域

5. 各学類のディプロマ・ポリシーについて、「知識・技能」の項においては「自然科学、社会科学、人間科学（に関する統合的知識・技能を持つ）」と説明されている一方で、「思考力・判断力・表現力」の項では、例えば、「環境学、政策科学、社会科学、人文科学など（複数領域の知識を横断的に用いて）」等と説明がされており、学類のディプロマ・ポリシーの学問分野の説明として一貫性や妥当性が不明確である。また、自然科学と社会科学の融合のメリットが教育課程においてどのように担保されているのかを含め、明確にすること。

(対応)

「現代システム科学」の定義において要素として挙げている基礎学問分野は、自然科学、人文・社会科学、人間科学、それに情報学であり、これらの基礎については初年次の必修科目「自然システムとサステナビリティ」「社会システムとサステナビリティ」「人間システムとサステナビリティ」「情報システムとサステナビリティ」で学ぶことから、すべての学類のディプロマ・ポリシーの（多面的視点）に基礎学問分野を記述することとした。また、各学類でより具体的に挙げている専門の学問分野については、（多目的視点）と（領域横断的応用力）に共通して記述することとした。他の指摘事項への対応も踏まえて修正した、各学類のディプロマ・ポリシーを以下に示す。なお、この方針に従って、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーも一貫性を持つように修正し、それに伴いカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの関係図も修正した。

[知識情報システム学類]

知識情報システム学類では、現代社会の維持・発展に不可欠となっている情報システムについて理解するとともに、持続可能な社会を実現するための課題解決の手段として活用することができるような情報システムを主体的にデザインする能力、また急速に進歩し続ける情報通信技術を積極的に取り入れる態度を身に付けることで、社会の変容にともなう課題を継続して解決するための科学的な分析力・思考力を持つ人材を養成することを目的とする。

このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を与える。

(知識・技能)

1. （多面的視点）自然科学、人文・社会科学、人間科学、さらに情報学に関する統合的知識・技能を持つとともに、情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学など、知識情報システム学に関する専門知識を身につけ、現代社会の課題を多面的に捉えることができる。
2. （コミュニケーション能力）知識情報システム学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションできる。

(思考力・判断力・表現力)

3. （データ活用力）情報通信技術を積極的に取り入れ、データサイエンスの知識・技能を用いて、課題を分析・説明することができる。



4. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代社会における課題の本質を深く探求することができる。
5. (領域横断的応用力) 情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学など、複数領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる。
6. (表現力) 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策をデータサイエンスの技法も含めた適切な表現法を用いて説明することができる。

**(サステナビリティ志向性)**

7. (倫理観) 情報通信技術が人間社会ならびに環境に及ぼす影響を理解し、現代社会の一員としての高い倫理観を有している。
8. (サステイナブル志向) 持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。

**[環境社会システム学類]**

環境社会システム学類では、自然システムの持続可能性を理解するために必要となる自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる環境共生学の観点から、領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することを目的とする。

このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を授与する。

**(知識・技能)**

1. (多面的視点) 自然科学、人文・社会科学、人間科学、さらに情報学に関する統合的知識・技能を持つとともに、自然環境学、社会環境学、環境共生学(政策科学、環境哲学・倫理学)など、環境社会システム学に関する専門知識を身につけ、現代社会の課題を多面的に捉えることができる。
2. (コミュニケーション能力) 環境社会システム学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションできる。

**(思考力・判断力・表現力)**

3. (データ活用力) データを収集・活用することのできる知識・技能を用いて、課題を分析・説明することができる。
4. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代社会における課題の本質を深く探求することができる。
5. (領域横断的応用力) 自然環境学、社会環境学、環境共生学(政策科学、環境哲学・倫理学)など、複数領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる。
6. (表現力) 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明することができる。

**(サステナビリティ志向性)**

7. (倫理観) 自然と人との共生ならびに人と人との共生の重要性を理解し、現代社会の

一員としての高い倫理観を有している。

8. (サステイナブル志向) 持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。

#### [教育福祉学類]

教育福祉学類では、持続可能な社会を実現するために、現代社会の諸問題を深く理解するとともに、複合的な視野から社会の仕組みをよりよいものに変革していくことのできる力をもち、地域社会から国際社会までの広範な領域で活躍できる人材を養成することを目的とする。

このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を授与する。

##### (知識・技能)

1. (多面的視点) 自然科学、人文・社会科学、人間科学、さらに情報学に関する統合的知識・技能を持つとともに、社会福祉学、保育学、教育学、さらにジェンダー論など、教育福祉学に関する専門知識を身につけ、現代社会の課題を多面的に捉えることができる。
2. (コミュニケーション能力) 教育福祉学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションできる。

##### (思考力・判断力・表現力)

3. (データ活用力) データを収集・活用することのできるの知識・技能を用いて、課題を分析・説明することができる。
4. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代社会における課題の本質を深く探求することができる。
5. (領域横断的応用力) 社会福祉学、保育学、教育学など、複数領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる。
6. (表現力) 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明することができる。

##### (サステイナビリティ志向性)

7. (倫理観) 人権的支援、教育的支援、社会福祉的支援の重要性を理解し、現代社会の一員としての高い倫理観を有している。
8. (サステイナブル志向) 持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。

#### [心理学類]

心理学類では、現代社会に生きる人々が、他者や社会、文化との相互作用の中で抱える心に起因する問題に焦点を当て、心理学及び心理学関連分野の専門的知識・技能とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することを目的とする。

このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を授与する。

##### (知識・技能)

1. (多面的視点) 自然科学、人文・社会科学、人間科学、さらに情報学に関する統合的知識・技能を持つとともに、認知科学、社会・環境心理学、臨床心理学など、心理学に関する専門知識を身につけ、現代社会の課題を多面的に捉えることができる。
2. (コミュニケーション能力) 心理学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションできる。

#### (思考力・判断力・表現力)

3. (データ活用力) データを収集・活用することのできる知識・技能を用いて、課題を分析・説明することができる。
4. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代社会における課題の本質を深く探求することができる。
5. (領域横断的応用力) 認知科学、社会・環境心理学、臨床心理学など、心理学およびその関連領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる。
6. (表現力) 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明することができる。

#### (サステナビリティ志向性)

7. (倫理観) 人と社会の相互作用の中で生じる心の問題を解決することの重要性を理解し、現代社会の一員としての高い倫理観を有している。
8. (サステナブル志向) 持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。

自然科学と社会科学の融合としては、初年次に学域共通科目の必修科目として「情報システムとサステナビリティ」、「自然システムとサステナビリティ」、「社会システムとサステナビリティ」、「人間システムとサステナビリティ」を配置し、持続可能システムを構成する情報システム、自然システム、社会システム、人間システムの4つのシステムのつながりと、それらの融合が持続可能な社会の実現に不可欠であることを理解させる。また、学域共通科目として「知識情報システム学概論」「環境社会システム学概論」「教育福祉学概論」「心理学概論」を配置し、情報学、自然科学、人文・社会科学、人間科学という、学類の基盤学問領域を理解させるとともに、それら全体を複眼的に見ることによって、はじめて持続不可能な現代の問題を立体的に捉え、解決方法を導くことができることを理解させる。さらに、3年次のPBL演習によってそれぞれの専門的知識の融合を図るという教育課程を設定している。

#### (新旧対照表)

3 ポリシーについては、本審査意見No.4 (1) と同じ。自然と社会との融合については本審査意見No.2 と同じ。

(改善事項) 現代システム科学域

6. 学域のディプロマ・ポリシーにおいて、「データサイエンス」が「知識・技能」に位置付けられているが、昨今は、単に知識・技能のみならず思考力等につなげるものとして展開されていることから、当該ポリシーにおける位置付けを再検討することが望ましい。

(対応)

現代システム科学域は、「持続可能な社会の実現に貢献できる人材」の育成を目標として設置される学域であり、現代社会の分析や未来社会の想定のためには、文理を問わず数値データを可視化する技能や複数のデータ間の関連性を分析する技能などの基本的なデータサイエンスの技能が必須であると考えているため、本学域では学域の共通のディプロマ・ポリシーとして、「(データ活用力) データサイエンスの知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる」を掲げ、それを実現するためのすべての学類で統計学を必修科目として設定している。

ご指摘を踏まえ、学域の共通のディプロマ・ポリシーに記載の「(データ活用力) データサイエンスの知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる」については、「(データ活用力) データを収集・活用することのできる知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる。」に改め、また、当該ディプロマ・ポリシーの位置づけを思考力・判断力・表現力に変更する。なお、No.13 (2)の指摘事項のとおり、人材像によって求められるデータサイエンスのスキルレベルが異なっていると考えられることから、それぞれの学類のディプロマ・ポリシーにおいては、養成する人材像に対応して以下のように修正する。

環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類では、環境、教育福祉、心理の課題を分析できる人材の養成を目指していることから、以下のとおり修正する。

**(思考力・判断力・表現力)**

3. (データ活用力) データを収集・活用することのできる知識・技能を用いて、課題を分析・説明することができる。

知識情報システム学類では、情報技術そのものを開発できる人材を目指していることから、以下のとおり修正する。

**(思考力・判断力・表現力)**

3. (データ活用力) 情報通信技術を積極的に取り入れ、データサイエンスの知識・技能を用いて、課題を分析・説明することができる。

(新旧対照表)

本審査意見No.4 (1) と同じ。

(是正事項) 現代システム科学域

7. ディプロマ・ポリシーの説明において、「領域横断的応用力」とされている箇所と、「領域横断的知識・技能」とされている箇所があるため、妥当性を明確にするか、修正すること。

(対応)

定義があいまいであった「領域横断的知識・技能」という言葉は使用せず、以下のように定義した「領域横断的応用力」に表現を統一する。

**【領域横断的応用力】**

持続可能システム科学 (sustainable system sciences) には、資源・エネルギーの持続的利用やそれを支える生態系の保全に必要な自然科学、多様な歴史や文化、言語を背景に持つ人々が共生するための社会の仕組みづくりに必要な人文・社会科学、便利さや物質的豊かさを際限なく追及するのではなく、限りある資源を分かち合うことですべての人のウェルビーイングを実現するための人間科学、さらに、これらの幅広い知識をできるだけ広範囲で効率的に共有し活用するための情報学が構成要素として含まれている。このような「幅広い知識・技能をバランスよく理解し、ある領域の知識・技能を別の領域に適用したり、複数の領域の知識・技能を融合させたりすることのできる能力」のことを、ここでは「領域横断的応用力」と定義する。

(新旧対照表)

本審査意見No.4 (1) と同じ。

(改善事項) 現代システム科学域

8. 「サステナビリティ」に関する教育を重視しているが、学修した成果と想定される就職先との関係性について、教育課程の内容を踏まえ説明すること。

(対応)

サステナビリティ教育は現代システム科学域の教育理念の基礎であり、各学類の教育課程も以下に示すように、共通のサステナビリティの教育からそれぞれの学類の専門的教育へと段階的に進む仕組みとなっており、各専門分野の学びが想定される就職先に密接に関連する。

#### 【知識情報システム学類】

初年次の学域共通科目として、サステナビリティの概念とシステムの思考力を学ぶ4つの「システムとサステナビリティ」科目を履修したのち、「知識情報システム学概論」において、知識情報システム学類が養成する人材像と、知識情報システム学の教育研究分野が、情報システム学、応用情報学、知識科学、生産科学などから成り立っていることを学ぶ。さらに、学年進行に合わせて、情報システム学、応用情報学、知識科学、生産科学などの知識や能力を身につけ、情報・通信系企業などへの進路を見据え、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を目指す。

#### 【環境社会システム学類】

初年次の学域共通科目として、サステナビリティの概念とシステムの思考力を学ぶ4つの「システムとサステナビリティ」科目を履修したのち、「環境社会システム学概論」において、環境社会システム学類が養成する人材像と、環境社会システム学の教育研究分野が、自然環境学、社会環境学、環境共生学（政策科学、環境哲学・倫理学）などから成り立っていることを学ぶ。さらに、学年進行に合わせて自然環境学、社会環境学、環境共生学（政策科学、環境哲学・倫理学）などの知識や能力を身につけ、さまざまな職種の企業、公務員、NPOなどへの進路を見据え、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を目指す。

#### 【教育福祉学類】

初年次の学域共通科目として、サステナビリティの概念とシステムの思考力を学ぶ4つの「システムとサステナビリティ」科目を履修したのち、「教育福祉学概論」において、教育福祉学類が養成する人材像と、教育福祉学の教育研究分野が、社会福祉学、保育学、教育学などから成り立っていることを学ぶ。さらに、学年進行に合わせて社会福祉学、保育学、教育学などの知識や能力を身につけ、社会福祉士および保育士の資格取得、公務員、医療・福祉関係などへの進路を見据え、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を目指す。

#### 【心理学類】

初年次の学域共通科目として、サステナビリティの概念とシステムの思考力を学ぶ4つの「システムとサステナビリティ」科目を履修したのち、「心理学概論」において、心理学



類が養成する人材像と、心理学の基礎について学ぶ。さらに、学年進行に合わせて認知科学、社会・環境心理学、臨床心理学などの知識や能力を身につけ、公認心理師の資格取得、公務員、カウンセラーなどへの進路を見据え、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を目指す。

(新旧対照表)

本審査意見No.1 と同じ。

(是正事項) 現代システム科学域

9.現代システム科学域の英語名称が、「College of Sustainable System Sciences」となっており、日本語表記と対応していないと考えられる。また、学部を School、学科を Department としている一方で、学域を College、学類が Department としているが国際的通用性が不明確である。このため、学域、学類及び学位の名称に用いられている言葉の定義を明確にした上で、国際的な用例や通用性を示して、妥当性を明確にするか、修正すること。なお、環境社会システム学類の英語名称が、「Department of Environmental and SocialSystem Sciences」とあるが、「Systems」が適切ではないかと考えられるため、検討すること。

(対応)

現代システム科学域は、2012 年 4 月に設置した。設置届出の基本計画書に記載された英訳名称は College of Sustainable System Sciences であり、当初より日本語名称の直訳ではなかった。

現代システム科学の説明文書に示す通り、「持続不可能な現代社会を持続可能な社会に変革するための持続可能システム科学」を「現代システム科学」と定義した。しかし、「現代システム科学」を Contemporary System Sciences のように直訳しても、その意味は伝わりにくい。そこで、国際的な通用性も考慮した上で、「持続可能システム科学」の部分を抜き出して Sustainable System Sciences を英訳名称として用いることにした。

現代システム科学域は、2022 年 4 月に設置 10 年目を迎える。2016 年 3 月以来 1,487 人の卒業生を社会に送り出し、また設置以来継続して「現代システム科学域連続セミナー」を開催して延べ 3,962 人を集めるなど、大阪を中心とした地域に「現代システム科学」の考え方を定着させるための努力を重ねてきた。新大学においても引き続き「現代システム科学域」の名称を維持することが、本学域の卒業生、新大学を志望する受験生、近隣の地域の人々にとっても望ましいと考えられる。英訳名称についても、上記のように直訳ではその意味を伝えるにくいことから、引き続き Sustainable System Sciences を使用する。

また、教育組織の英訳名称については、大阪府立大学では、2012 年 4 月の学域設置時よりその英訳名称として「College」を使用してきた。アメリカの大学では、一つの University の中に College と School が混在することは多い。例えば University of California, Berkeley では教育組織の名称が次のようになっている。

College of Chemistry

College of Engineering

College of Environmental Design

College of Letters and Science

Graduate School of Education

Graduate School of Journalism

Haas School of Business

Goldman School of Public Policy

Rausser College of Natural Resources

School of Information  
 School of Law  
 School of Optometry  
 School of Public Health  
 School of Social Welfare

アメリカにおけるその他の大学や、他の国々における使用例も含め、College と School の使い分けについて明確な原則はなく、各大学におけるそれぞれの教育組織設置時の歴史的な経緯による場合が多いようである。

一方、学類と学科は、共に学位授与を行うカリキュラムの単位であり、国際的な通用性を考慮すると共に Department とすることが妥当である。

以上を踏まえ、新大学においては、全学の方針として大阪府立大学の「学域」を継承する現代システム科学域は College、その他の「学部」ではすべて School を英訳名称に用いることとした。また新大学における学類・学科については Department に統一することとした。

環境社会システム学類の英訳名称については、類似の名称である知識情報システム学類と合わせて検討を行った。その結果、知識情報システム学類の英訳名称を Department of Knowledge and Information Systems とし、環境社会システム学類の英訳名称を Department of Environmental and Social Systems に変更することとした。

なお、国内の大学において英訳名称が日本語名称の直訳ではない例としては、次のような例がある。

お茶の水大学 生活科学部 Division of Human Life and Environmental Sciences  
 立命館大学 産業社会学部 College of Social Sciences  
 九州大学 共創学部 School of Interdisciplinary Science and Innovation  
 新潟大学 創生学部 College of Creative Studies  
 宮崎大学 地域創生学部 Faculty of Regional Innovation

(新旧対照表)

学域英訳名称については、本審査意見 No.1 と同じ。

現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                      | 旧                                      |
|----------------------------------------|----------------------------------------|
| (設置趣旨 (本文) -26 ページ)                    | (14 ページ)                               |
| 3 学部・学科等の名称及び学位の名称                     | 3 学部・学科等の名称及び学位の名称                     |
| ウ 学部・学科等及び学位の英訳名称                      | ウ 学部・学科等及び学位の英訳名称                      |
| 【学域・学類等および学位の英語名称】の表                   | 【学域・学類等および学位の英語名称】の表                   |
| 学域英語名称                                 | 中の表記                                   |
| 現代システム科学域                              |                                        |
| College of Sustainable System Sciences | College of Sustainable System Sciences |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学類英訳名称および学位英訳名称</p> <p>知識情報システム学類</p> <p>Department of Knowledge and Information Systems</p> <p>学士（情報）</p> <p>Bachelor of Informatics</p> <p>学士（学術）</p> <p>Bachelor of Arts and Science</p> <p>環境社会システム学類</p> <p>Department of Environmental and Social Systems</p> <p>学士（環境社会システム学）</p> <p>Bachelor of Environmental and Social Systems</p> <p>学士（学術）</p> <p>Bachelor of Arts and Science</p> <p>教育福祉学類</p> <p>Department of Social Welfare and Education</p> <p>学士（教育福祉学）</p> <p>Bachelor of Social Welfare and Education</p> <p>学士（学術）</p> <p>Bachelor of Arts and Science</p> <p>心理学類</p> <p>Department of Psychology</p> <p>学士（心理学）</p> <p>Bachelor of Psychology</p> <p>学士（学術）</p> <p>Bachelor of Arts and Science</p> | <p>Department of Knowledge and Information <u>Sciences</u></p> <p> <u>•</u> Bachelor of Informatics<br/> <u>•</u> Bachelor of Arts and Science </p> <p>Department of Environmental and Social System <u>Sciences</u></p> <p> <u>•</u> Bachelor of Environmental and Social System <u>Sciences</u><br/> <u>•</u> Bachelor of Arts and Science </p> <p>Department of Social Welfare and Education</p> <p> <u>•</u> Bachelor of Social Welfare and Education<br/> <u>•</u> Bachelor of Arts and Science </p> <p>Department of Psychology</p> <p> <u>•</u> Bachelor of Psychology<br/> <u>•</u> Bachelor of Arts and Science </p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※上記の修正に伴い、基本計画書を修正する。

10. 「未来デザインコース (FDC)」について、以下の点を明確にすること。

- (1) 「FDC の学生は、文理を問わず、数学や統計学、語学などの現代人に必須の学問的スキルを学修した後、メンター教員との履修相談を通して、自らが解決したい課題・目的に応じた未来デザイン学修プログラムを作成し、4年間の学修を行う」として、各学類とは別に「未来デザインコース (FDC)」が設置されているが、他の4つの学類では、養成する人材像や教育方法論がそれぞれ学問領域を指定し区別されているのに対し、FDC については、各学類を超えた学修範囲を履修するだけで、基本的な教育研究のアプローチが同じであり、FDC 固有の特別な授業科目を配置するわけではなく、また、所属する学類の専攻分野を踏まえた必修科目の設定もなく、通常教育課程に埋め込まれた設計となっている。これらのことから、この教育課程により、なぜ、他の学類とは異なる「FDC」が掲げる人材の養成につながるのか不明確であるため、FDC について、他の学類とは別に設けることの趣旨について、養成する人材像やディプロマ・ポリシーを踏まえながら、妥当性を明確にするとともに、想定される就職先ごとに履修モデルを示すこと。
- (2) 学域単位入学生には入学当初に、学類単位入学生には1年次終了後に FDC 希望調査をし、また、途中段階で他の学類との行き来ができるなどの説明があり、当該コースの入学から卒業までの履修の流れ、各学類に係る専門科目の履修に必要な知識等の担保、各学類の定員管理の方策が適切に行われるのか不明確であるため、明確にすること。また、FDC の学生について、上述のように入学段階と1年次終了後の2つの機会が設定されているが、その意義が不明確であり、かつ、学類の専攻分野によっては、1年次から一定の専門的な学修が始まると考えられることから、履修の体系性に影響がないのか明確にすること。なお、説明に当たっては、「学類単位入学生」と FDC の卒業要件単位数が異なることの考え方や所属学類が変更となった場合の卒業要件単位数の取扱いを明確にすること。
- (3) 卒業要件において、学類所属の通常の学生と未来デザインコース (FDC) の学生では、卒業要件単位数が違っているが、どのような考え方に基いているのか不明確である。「SDGs 演習」の位置付けを示した上で、履修の単位設定の妥当性を明確にすること。
- (4) FDC の学生については、4学類の枠を超え、かつ、履修モデルもなく学生ごとに個別的教育課程を履修し、卒業要件も他の学類よりも多くハードルが高い設定となっており、学修を継続できるインセンティブが重要となるが、例えば、メンター教員の選定方法、教員間の協力、教務職員のサポート体制など、教員指導体制の具体的な内容が不明確であるため、明確にすること。

未来デザインコースについては、(1)想定される就職先、養成する人材像、ディプロマ・ポリシーと教育課程のつながりが不明確である、(2)学類単位入学生と未来デザインコースの卒

業要件単位数の考え方を明確にすること、(3)PBL 演習の位置付けを明確にした上で、単位設定の妥当性を明確にすること、そして、(4)教員による指導体制を明確にすることとのご指摘を受けたので、未来デザインコースの教育課程を再度見直し、修正することによって、ご指摘の 4 点を明確にした。具体的には、(a)未来デザインコースを持続可能な社会の実現を実行できる、即戦力として活躍できる人材を養成するための課程とすること、(b)各学類の教育課程に未来デザインコース独自の教育課程を加えたものとする、(c)未来デザインコース独自の教育課程は 2 年次から始まるが、その準備段階の学修を 1 年時から始めること、(d)未来デザインコースは、学類の教育課程よりもより学際的な教育課程であるために、幅広い学習に興味を持つ学域単位入学生のみを対象とすることなど、未来デザインコースの設計を全体に見直した。

以下、ご指摘頂いた 4 点に回答する形で説明する。

## (1)

(対応)

図 1 に示すように、未来デザインコースの独自の必修科目「未来デザインプログラム」として、「未来デザインインターンシップ（必修 2 単位、1 年次通年）」、「未来デザイン計画演習（必修 2 単位、2 年次前期）」、「未来デザイン PBL 演習（必修 2 単位、3 年次通年）」、「未来デザイン卒業研究（必修 6 単位、4 年次通年）」の 4 科目と他学類専門科目又は他学部専門科目（選択必修計 10 単位）を配置し、それぞれの所属学類の卒業要件に、「未来デザインインターンシップ」、「未来デザイン計画演習」、「未来デザイン PBL 演習」の 3 科目 6 単位分を追加した 137 単位を卒業要件単位数とする。また、未来デザインコースでは、複数学問分野の知識を融合することを求めているため、メンター教員の指導や助言により他学類専門科目と他学部専門科目を併せて 10 単位以上を履修する。未来デザインコースは、学類での専門分野の学修と 22 単位以上で構成される未来デザインプログラムによる学際的学修を課す教育課程であり、特に、未来デザイン卒業研究では未来デザイン PBL 演習において発見された学術的課題を複数学類の教員の指導を受けながら行うものとする。未来デザインプログラムの作成においては、学生が主体となって作成することを求めるが、(4)に示すようにメンター教員の指導や助言を受けながら共同でプログラムを作成する。こうすることで、未来デザインプログラムの教育効果を高める。

未来デザインコースでは、目指すべき未来の社会を創造すべく自分でその道筋をデザインし、領域横断的応用力とシステムの思考力を用いて、現代社会の課題解決に取り組むことによって、持続可能な社会の実現を実行できる人材を養成することを目的としている。すなわち、未来デザインコースとは未来の社会をデザインする活動に大学在学中から取り組むために、大学での 4 年間の学習も自分自身でデザインしながら学修を進めて行くための教育課程である。そのため未来デザインコースを履修する学生は、大学での専門課程の学修と並行して学生が自ら定めた目指すべき未来の実現を目指す活動に取り組む教育課程とした。4 学類の教育課程が学問体系に基づいたものであるのに対して、未来デザインコースは学問体系での学びに加えて、実践的なフィールドでの未来の実現への挑戦を教育課程に取り組んだものである。実践的なフィールドで未来の実現に挑戦して行くためには、既存の学問体系に留ま

らず、積極的に他の学問分野の知見を取り入れ、融合して行くことが重要である。そのため、未来デザインコースでは、それぞれの学類での学習をベースに、実践的なフィールドでの未来デザイン PBL 演習を核とした未来デザインプログラムに加えて、未来デザインプログラムを実行するために必要な他学類専門科目や他学部専門科目を融合的に学ぶ。このような学びが「持続可能な社会の実現を実行できる人材」の養成に繋がると考えた。

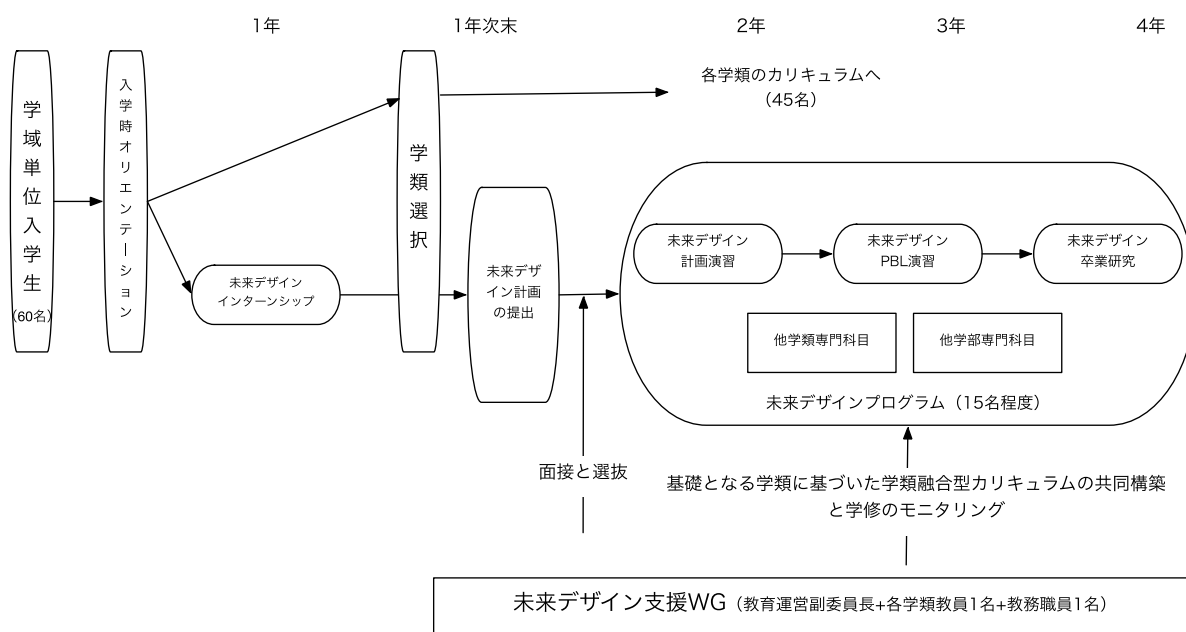


図1 未来デザインコースの流れ

未来デザインコース(FDC)で想定される就職先に対応した履修モデルを資料2に示す。

前述の通り、FDCでは、目指すべき未来の社会を創造すべく学生が自分でその道筋をデザインする。就職先としては、情報通信系、環境系、インフラ系、教育系などの各種の企業、国連など国際機関、国や地方自治体、教育・福祉・保育等に関わるNPOなどが想定され、自ら起業することも考えられる。履修科目と就職先は、学生自身の発想から始まるメンター教員とのディスカッションにより決められるため、具体的に想定することは難しい。

本学域では、学生が自らの発想に基づいて学びを進め、自ら課題を発見してその解決を試みることが、学生自身を大きく成長させ、未来社会を創造する人材の育成につながると考え、学生の発想をサポートして成長させるという方向で未来デザインコースを設計した。

このような学域として考えの下、FDCの履修モデルは、例として以下のようなケースを想定して履修科目を設定し、検証を行った。

#### [知識情報システム学類]

- ・環境への影響を考慮したエネルギー分配を行うインフラ設計ができる人材として、エネルギー系インフラ企業に就職する場合

(知識情報システム学類履修モデル(未来デザインコース No.1))



- ・保育や幼児教育に関する IT 技術を用いたソリューションを開発できる人材として、IT 系スタートアップ企業に就職する場合  
(知識情報システム学類履修モデル (未来デザインコース No.2))

#### [環境社会システム学類]

- ・フィールドの経験を踏まえた社会調査の専門家として、コンサルタント系企業に就職する場合  
(環境社会システム学類履修モデル (未来デザインコース No.1))
- ・地域の課題に取り組んだ経験を踏まえて地域再生を牽引する人材として、地方自治体に就職する場合  
(環境社会システム学類履修モデル (未来デザインコース No.2))

#### [教育福祉学類]

- ・教育現場の問題を多職種連携で解決できる人材として、教育系スタートアップ企業に就職する場合  
(教育福祉学類履修モデル (未来デザインコース No.1))
- ・ジェンダーやダイバーシティに関わる課題を解決できる人材として、国際機関に就職する場合  
(教育福祉学類履修モデル (未来デザインコース No.2))

#### [心理学類]

- ・教育現場のニーズを捉えた教育システムをデザインできる人材として、教育システム企業へ就職する場合  
(心理学類履修モデル (未来デザインコース No.1))
- ・日常生活の問題に対してソリューションを提供できる人材として、IT 系スタートアップ企業に就職する場合  
(心理学類履修モデル (未来デザインコース No.2))

実際の履修においては、メンター教員が学生の発想を受け止め、その実現にどのような科目が必要か、また 4 年間での履修が可能かを考慮して助言を行い、2 年次前期の「未来デザイン計画演習」で学生が卒業までの履修計画を策定する。履修計画を立てる中で、PBL プログラムの選定についても、メンター教員が適宜指導を行う。また後述のように、学域の教育運営委員会の中に支援 WG を置いて履修計画を確認する体制を整え、学生の発想にもとづく自由な学びを実現するとともに、各科目の内容に合わせた適切な履修順序、そして学類の卒業要件の充足を保証する。

## (2)

(対応)

FDC は現シスの教育理念を最も昇華させた教育課程であり、高度に学問融合的な学習内容

になっていることから、一定レベル以上の学修成果を達成するためには、学際的な学びに強い興味をもつ学生に対して、メンターを配置するなどの体制が必要となってくる。そのような体制で行うからこそ FDC の教育目標が達成できると考えている。したがって、全ての現シス学生に受講して欲しいプログラムではあるが、現実的には 15 名程度を想定せざるを得ない。このように考えると、より教育効果が高いと考えられるのは、複数の学問領域を俯瞰的に学修した後に、基盤となる学類を決定する教育課程を選んだ学域入学生であると考えられるので学域生に限定することとした。全学域単位入学生に対して、入学時に未来デザインコースのオリエンテーションを行い、実現すべき未来の課題の発見を行うために 1 年次に未来デザインインターンシップを履修し、その経験に基づいて、1 年次末に未来デザイン計画を提出した者から計画の実現可能性が高いと判断される 15 名程度の学生に履修を認めることとする。

このように未来デザインコースの履修に向けては、入学時に履修を希望するかどうかを決定する必要があるため、2 年次以降で所属することになる学類の履修の体系に沿って履修を始めることになる。また、未来デザインプログラムはそれぞれの学類での教育課程をベースに独自のカリキュラムを作成して学修を進めるため、全ての学域単位入学生は 4 つの学類のいずれかに所属することとなり、定員管理は学類ごとに行う。

未来デザインコースの卒業要件単位数は、所属学類の卒業要件単位数 131 単位に加え、独自科目である実際に未来の社会の実現に挑戦するための学修の場として学生によるセルフプロデュースによる「未来デザイン PBL 演習 (2 単位)」の履修を課す。PBL 演習は学域内の専門分野が異なる学生との協働による学びであるのに対して、未来デザイン PBL 演習は主に地域の方々や起業家、NPO などの学外者と協働する学びを設定することで未来の社会の実現を実行できる人材の育成を目指す。未来デザイン PBL 演習を実施するためには、課題の発見のための「未来デザインインターンシップ (2 単位)」、大学での 4 年間の学修と卒業後の計画を立案するための「未来デザイン計画演習 (2 単位)」が必要と考えられるので、卒業要件単位数は計 6 単位を加えた 137 単位とする。「未来デザイン卒業研究」を履修する未来デザインコースの学生は、自学類の卒業研究を履修することができないので、単位数は追加されない。なお、学年進行に伴って所属学類の学問体系に基づく学修を希望し、未来デザインプログラムの履修を中止した学生の場合には、未来デザインプログラム科目の単位を 10 単位を上限として自学類の専門科目の単位として加算し、卒業要件単位数に含まれるようにする。

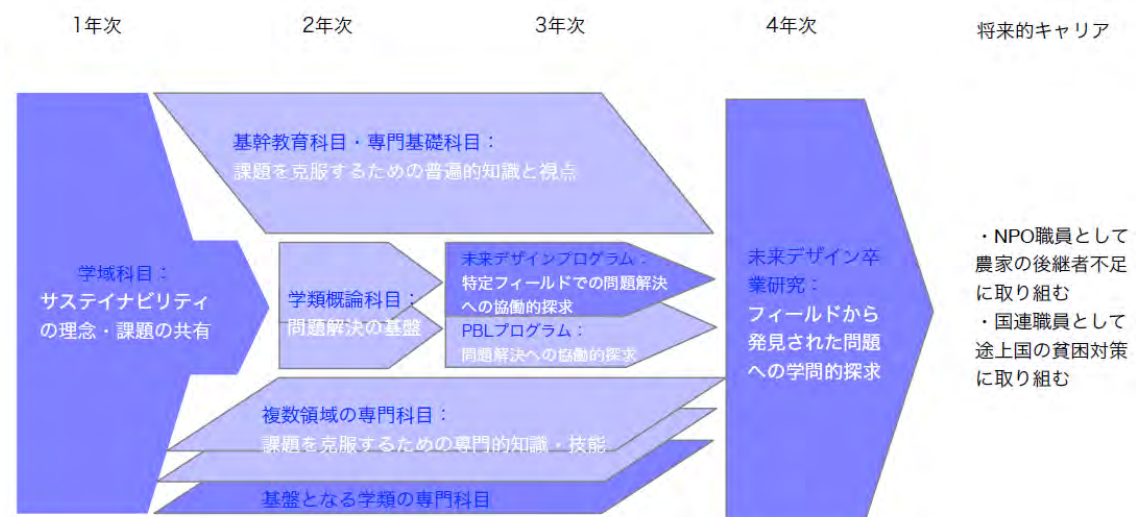


図2 未来デザインコース（FDC）の教育課程の構成

(3)

(対応)

(2)に示したように、未来デザインコースの学生は各学類での卒業要件単位数に、目指すべき未来の社会の実現に挑戦する未来デザインプログラム6単位を加えた137単位を卒業要件単位数としている。PBL演習（SDGs演習から変更）は、本学域の教育課程の核となるものであるため未来デザインコースの学生も必修科目として履修することに加えて、実際に未来の社会の実現に挑戦するための学修の場として学生自身が計画し、実行する「未来デザインPBL演習（2単位）」の履修を課す。PBL演習は学域内の専門分野が異なる学生との協働による学びであるのに対して、未来デザインPBL演習は主に地域の方々や起業家、NPOなどの学外者と協働する学びを設定することで未来の社会の実現を実行できる人材の育成を目指す。未来デザインPBL演習を実施するためには、課題の発見のための「未来デザインインターンシップ（2単位）」、大学での4年間の学修と卒業後の計画を立案するための「未来デザイン計画演習（2単位）」が必要と考えられるので、卒業要件単位数が6単位多くなる。

(4)

(対応)

FDCの学生のインセンティブとして、図1に示したように未来デザインコースを履修する学生に対しては、学域教育運営委員会の中に設置された未来デザイン支援WGが学修プロセスをモニタリングし、集団指導を行っていく。具体的には、最初に提出する未来デザイン計画の中で、学生の所属する学類の教員の中から学生が指導を希望する1名以上をメンター候補者として挙げ、未来デザイン支援WGが学生と教員の希望を聞いた上でマッチングして決定する。さらに、支援WGが学際的見地から学生の学修計画をサポートできる他学類の教員1名をサブメンターとして指名し、学生はこれらのメンター教員と相談しながら自分の未来デザイン計画を立案する。未来デザイン支援WGは、セメスターの開始後と終了後に未来デザイン検討報告会を開催し、学生はそれまでの学習状況と次の学修計画を報告し、メンター

教員が意見を加える。学域教育副運営委員長がリーダーとなってそれぞれの学修計画を吟味し、学修計画の妥当性を議論する。支援 WG は、学修上の必要性に応じて、メンターを追加したり、交代する支援を行う。他学類や他学部の講義や演習を受講する必要がある場合には、WG 経由でそれを他学類に要請する。他学部の科目の受講にあたっては、教務職員が他学部との調整を行う。FDC 学生に対しては、上記のような体制で学生の描く未来の実現を学域全体として支援することで、未来デザインコースという高い目標設定をクリアするための動機づけの維持につながると考えている。

また、未来デザイン PBL 演習は、フィールドが国外や国内遠隔地であることが想定されるため、未来デザインコースの学生においては、フィールドからの遠隔による講義科目の履修が可能となるように配慮する。未来デザインコースを卒業予定の学生に対しては、現代システム科学研究科の入試において筆記試験免除とする。

(新旧対照表)

#### 教育課程等の概要

| 新                                                                           | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------|---|
| 新設科目<br>「未来デザインインターンシップ」<br>「未来デザイン計画演習」<br>「未来デザイン PBL 演習」<br>「未来デザイン卒業研究」 |   |

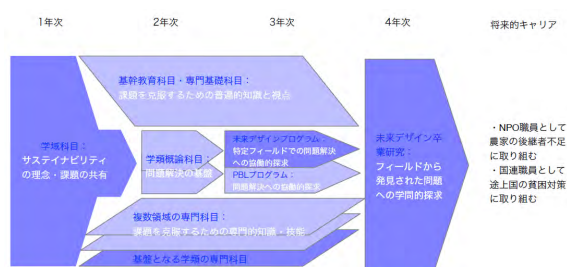
※上記の修正に伴い、基本計画書、授業科目の概要、シラバス、2 以上の校地において教育を行う場合のそれぞれの校地ごとの勤務状況、教員名簿を修正する。

#### 現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (設置趣旨 (本文) -83 ページ)<br>2 3 未来デザインコース (FDC : Future Design Course)<br><br>ア FDC の目的<br>未来デザインコースでは、目指すべき未来の社会を創造すべく自分でその道筋をデザインし、領域横断的応用力とシステム的思考力を用いて、現代社会の課題解決に取り組むことによって、持続可能な社会の実現を実行できる人材を養成することを目的としている。すなわち、未来デザインコースとは未来の社会をデザインする活動に大学在学中か | (52 ページ)<br>2 3 未来デザインコース (FDC : Future Design Course)<br><br>ア FDC の特色<br><u>FDC では、学生個々人にメンター教員が配置され、学生自身がサステイナブルな社会の実現を見据えた将来ビジョンをデザインできるように助言するとともに、その将来ビジョンに沿った履修モデルを学生とともに作り上げていく。その際、学類の枠を超えたカリキュラム編成を行うため、学域共通科目については、各学類のコア科目はすべて必修</u> |

ら取り組むために、大学での4年間の学習も自分自身でデザインしながら学修を進めて行くための教育課程である。そのため未来デザインコースを履修する学生は、大学での専門課程の学修と並行して学生が自ら定めた目指すべき未来の実現を目指す活動に取り組む教育課程とした。4学類の教育課程が学問体系に基づいたものであるのに対して、未来デザインコースは学問体系での学びに加えて、実践的なフィールドでの未来の実現への挑戦を教育課程に取り組んだものである。実践的なフィールドで未来の実現に挑戦して行くためには、既存の学問体系に留まらず、積極的に他の学問分野の知見を取り入れ、融合して行くことが重要である。そのため、未来デザインコースでは、それぞれの学類での学習をベースに、実践的なフィールドでの未来デザイン PBL 演習を核とした未来デザインプログラムに加えて、未来デザインプログラムを実行するために必要な他学類専門科目や他学部専門科目を融合的に学ぶ。このような学びが「持続可能な社会の実現を実行できる人材」の養成に繋がる。

### 【FDC の教育課程】



### イ FDC の教育課程

未来デザインコースの独自の必修科目「未来デザインプログラム」として、「未来デザインインターンシップ（必修2単位、1年次通年）」、「未来デザイン計画演習（必修2単位、2年次前期）」、「未来デザイン PBL 演習（必修2単位、3年次通年）」、「未来デザイ

とする。また、融合的な協働の実践をより多く経験するため、PBL コースは2つ以上修得することを卒業要件に課す。FDC の特色は、このように学生自身に将来ビジョンをしっかりとデザインさせ、それに合わせた個別の教育・研究を行うことを通して、自らデザインした将来ビジョンの視点に立ったサステイナブルな社会のあり方を学ぶことにある。

本コースでは、学生自身にサステイナブルな社会の実現を見据えた将来ビジョンをしっかりとデザインさせ、それに合わせた個別の教育・研究を行うことにより、将来ビジョンの実現に必要なあらゆる能力を養成することを目的とする。このように学類の枠を超え、学生自らが将来を設計するスタイルの学修を行うことから、コース名称を未来デザインコース（FDC：Future Design Course）とした。

### イ FDC の教育課程

FDC では、基幹教育科目の総合教養科目に、自然科学、社会科学、人間科学を含んだ SDGs 科目群を配置し、同時に、サステナビリティなどの学域共通科目を1年次に20単位以上履修させることによって、現代の社会システムに関する領域横断的知識を融合的に習得させる。加えて、多様な人材とコミュニケーションする力を育てるために、英語と初修外国語科目を配置し、データサイエンス技能を育成するために基礎数学・統計学基礎を配置する。2年次からは、自ら解決しようとする目標と関連づけて4つの学類の学類専門科目からメンター教員と共に個別のカリキュラムを作成し学修を進めることを通して、領域横断的専門知識・技能を習得させると同時に、演習・実験科目によって系統的に思考し、判断する力を育てる。加えて、2つ以上のPBLコースに取り組むことによって、専門分野を超えて他者と協働しながらサス



ン卒業研究（必修6単位、4年次通年）」の4科目と他学類専門科目及び又は他学部専門科目（選択必修計10単位）を配置し、それぞれの所属学類の卒業要件に、「未来デザインインターンシップ」、「未来デザイン計画演習」、「未来デザインPBL演習」の3科目6単位分を追加した137単位を卒業要件単位数とする。また、未来デザインコースでは、複数学問分野の知識を融合することを求めているため、メンター教員の指導や助言により他学類専門科目と他学部専門科目を併せて10単位以上を履修することを求める。未来デザインコースは、学類での専門分野の学修と22単位以上で構成される未来デザインプログラムによる学際的学修を課す教育課程であり、特に、未来デザイン卒業研究では未来デザインPBL演習において発見された学術的課題を複数学類の教員の指導を受けながら行うものとする。未来デザインプログラムの作成においては、学生が主体となって作成することを求めるが、メンター教員の指導や助言を受けながら共同でプログラムを作成する。こうすることで、未来デザインプログラムの教育効果を高める。なお、未来デザイン卒業研究」を履修する学生は、自学類の卒業研究を履修することができないので、単位数は追加されない。また、学年進行に伴って所属学類の学問体系に基づく学修を希望し、未来デザインプログラムの履修を中止した学生の場合には、FDC科目およびFDC提供科目 未来デザインプログラム科目の単位を10単位を上限として自学類の専門科目の単位として加算し、卒業要件単位数に含まれるようにする。

このように、未来デザインコースの学生は各学類での卒業要件単位数に、目指すべき未来の社会の実現に挑戦する未来デザインプログラム6単位を加えた137単位を卒業要件単位数としている。PBL演習は、本学域の

ティナブルな社会の実現を目指すサステイナビリティ志向性を育てる。

### 【FDCの教育課程】



### ウ FDCの卒業要件

本学域では、下表の単位を各学類の卒業要件とする。ただし、各学類生においては、1つ以上のPBLコースを修了すること、FDCにおいては、2つ以上のPBLコースを修了することを卒業要件に課す。

### 【各学類（課程）およびFDCの卒業要件】

| 科目区分                       |           | 卒業要件 |     |
|----------------------------|-----------|------|-----|
|                            |           | FDC  | 計   |
| 基<br>幹<br>教<br>育<br>科<br>目 | 初年次教育科目   | 2    | 35  |
|                            | 総合教養      | 14   |     |
|                            | 英語        | 6    |     |
|                            | 初修外国語     | 2    |     |
|                            | 情報リテラシー   | 2    |     |
|                            | 健康・スポーツ科学 | 3    |     |
| 基礎教育科目                     |           | 10   | 102 |
| 専<br>門<br>科<br>目           | 学域共通      | 20   |     |
|                            | 学類基盤      | —    |     |
|                            | 学類専門      | 60   |     |
|                            | PBL       | 4    |     |
| 合計単位数                      |           | —    | 137 |

教育課程の核となるものであるため未来デザインコースの学生も必修科目として履修することに加えて、実際に未来の社会の実現に挑戦するための学修の場として学生自身が計画し、実行する「未来デザイン PBL 演習 (2 単位)」の履修を課す。PBL 演習は学域内の専門分野が異なる学生との協働による学びであるのに対して、未来デザイン PBL 演習は主に地域の方々や起業家、NPO などの学外者と協働する学びを設定することで未来の社会の実現を実行できる人材の育成を目指す。未来デザイン PBL 演習を実施するためには、課題の発見のための「未来デザインインターンシップ (2 単位)」、大学での 4 年間の学修と卒業後の計画を立案するための「未来デザイン計画演習 (2 単位)」が必要と考えられるので、卒業要件単位数が 6 単位多くなる。

FDC は現代システム科学域の教育理念を最も昇華させた教育課程であり、高度に学問融合的な学習内容になっていることから、一定レベル以上の学修成果を達成するためには、学際的な学びに強い興味をもつ学生に対して、メンターを配置するなどの体制が必要となってくる。そのような体制で行うからこそ FDC の教育目標が達成できると考えている。したがって、全ての現シス学生に受講して欲しいプログラムではあるが、現実的には 15 名程度を想定せざるを得ない。このように考えると、より教育効果が高いと考えられるのは、複数の学問領域を俯瞰的に学修した後、基盤となる学類を決定する教育課程を選んだ学域入学生であると考えられるので学域生に限定することとした。全学域単位入学生に対して、入学時に未来デザインコースのオリエンテーションを行い、実現すべき未来の課題の発見を行うために 1 年次に未来デザインインターンシップを履修し、その経験に基づいて、1 年次末に未来デザイン計画



このように未来デザインコースの履修に向けては、入学時に履修を希望するかどうかを決定する必要があるため、2年次以降で所属することになる学類の履修の体系に沿って履修を始めることになる。また、未来デザインプログラムはそれぞれの学類での教育課程をベースに独自のカリキュラムを作成して学修を進めるため、全ての学域単位入学生は4つの学類のいずれかに所属することとなり、定員管理は学類ごとに行う。

The diagram illustrates the curriculum design process over a four-year period:

- 1年 (Year 1):** Starts with **学域横断入学生 (60名)** (Interdisciplinary students, 60 names). They enter the **入学前オリエンテーション** (Pre-entry orientation).
- 1年次末 (End of Year 1):** Students proceed to **学域選択** (Interdisciplinary selection).
- 2年 (Year 2):** Students move to **各学域のカリキュラムへ (45名)** (To each disciplinary curriculum, 45 names). This stage involves **未来デザイン 企画選考** (Future Design Planning Selection).
- 3年 (Year 3):** Students continue with **未来デザイン 中試実演** (Future Design Mid-term Practical Demonstration).
- 4年 (Year 4):** Students complete the **未来デザイン 卒業研究** (Future Design Graduation Research).

Additional components and flow:

- 未来デザイン インタープリタ** (Future Design Interpreter) is involved in the selection process at the end of Year 1.
- 未来デザイン インタビュの選定** (Future Design Interview Selection) is a key step leading into the disciplinary curricula.
- 面接と選考** (Interview and Selection) is the process that leads to the interview selection.
- 基礎となる学域に基づいた学領域型カリキュラムの共同構築と学域のモニタリング** (Joint construction of interdisciplinary curriculum based on basic disciplinary fields and monitoring of disciplinary fields) is the overarching process for the entire duration.
- 未実デザインWG** (Unrealized Design Working Group) is a support group consisting of the Dean, Faculty Members, and 1 Teacher (1 name).

未来デザインコースを履修する学生に対しては、学域教育運営委員会の中に設置された未来デザイン支援 WG が学修プロセスをモニタリングし、集団指導を行っていく。具体的には、最初に提出する未来デザイン計画の中で、学生の所属する学類の教員の中から学生が指導を希望する 1 名以上をメンター候補者として挙げ、未来デザイン支援 WG が学生と教員の希望を聞いた上でマッチングして決定する。さらに、支援 WG が学際的見地から学生の学修計画をサポートできる他学類の教員 1 名をサブメンターとして指名し、学生はこれらのメンター教員と相談しながら自分の未来デザイン計画を立案する。未来デザイン支援 WG は、セメスターの開始後と終了後に未来デザイン検討報告会を開催

し、学生はそれまでの学習状況と次の学修計画を報告し、メンター教員が意見を加える。学域教育副運営委員長がリーダーとなってそれぞれの学修計画を吟味し、学修計画の妥当性を議論する。支援 WG は、学修上の必要性に応じて、メンターを追加したり、交代する支援を行う。他学類や他学部の講義や演習を受講する必要がある場合には、WG 経由でそれを他学類に要請する。他学部の科目の受講にあたっては、教務職員が他学部との調整を行う。FDC 学生に対しては、上記のような体制で学生の描く未来の実現を学域全体として支援することで、未来デザインコースという高い目標設定をクリアするための動機づけの維持につながると考えている。

また、未来デザイン PBL 演習は、フィールドが国外や国内遠隔地であることが想定されるため、未来デザインコースの学生においては、フィールドからの遠隔による講義科目の履修が可能となるように配慮する。さらに、未来デザインコースを卒業予定の学生に対しては、現代システム科学研究科の入試において筆記試験免除とする。

## エ FDC の卒業要件

### 【各学類（課程）および FDC の卒業要件】

| 科目区分   |             | 卒業要件   |       |       |       | 計   |
|--------|-------------|--------|-------|-------|-------|-----|
|        |             | 学類     |       |       |       |     |
|        |             | 知識情報   | 環境シス  | 教育福祉  | 心理    |     |
| 基礎教育科目 | 総合教養        | 10 以上  |       |       |       | 35  |
|        | 初年次教育       | 2      |       |       |       |     |
|        | 情報リテラシー     | 2      |       |       |       |     |
|        | 英語          | 6      |       |       |       |     |
|        | 初級外国語       | 2 以上   |       |       |       |     |
|        | キャリア教育      | 1      |       |       |       |     |
|        | 健康・スポーツ科学   | 3      |       |       |       |     |
| 基礎教育科目 |             | 12 以上  | 6 以上  | 6 以上  | 4     | 102 |
| 専門科目   | 学域共通        | 16 以上  |       |       |       |     |
|        | 学類基盤        | 20 以上  | 10 以上 | 14 以上 | 1     |     |
|        | 学類専門        | 30 以上  | 32 以上 | 30 以上 | 42 以上 |     |
|        | 学類関連        | 1      | 1     | 1     | 10 以上 |     |
|        | PBL プログラム   | 2 以上   |       |       |       |     |
|        | 未来デザインプログラム | 22 以上  |       |       |       |     |
| 合計単位数  |             | 137 以上 |       |       |       |     |

(是正事項) 現代システム科学域

11. 「最終的にその課題解決のための実践型科目『SDGs 演習』を履修する PBL (Project Based Learning) コースを卒業要件に課す」とあるが、「未来デザインコース」でもコースという文言が使用されており、各コースの定義や位置付けを明確にすること。また、卒業要件において、学類所属の通常の学生と未来デザインコースの学生では、卒業要件単位数が違っているが、どのような考え方に基づいているのか不明確である。「SDGs 演習」の位置付けを示した上で、履修の単位設定の妥当性を明確にすること。

(対応)

未来デザインコース (FDC) は、通常の学類とは違う履修課程となるため「コース」の名称をそのまま用いることとし、学域内副専攻に近い概念である PBL コースは、PBL プログラムと名称を変更する。また、SDGs は 2030 年を目標とした暫定的なゴールであることから、普遍的なサステナビリティを目指すことが本学域の教育理念であることを明確にするため、SDGs 演習を PBL 演習と改める。

さらに、FDC 学生は、1 年次に具体的な将来ビジョンをイメージさせるための「未来デザインインターンシップ (2 単位)」を、2 年次に未来デザイン学修プログラムを構築していくための「未来デザイン計画演習 (2 単位)」を、3 年次にセルフプロデュース型で学外者と協働する「未来デザイン PBL 演習 (2 単位)」を、4 年次に所属学類を含む複数の学類の教員による指導を得て研究を行う「未来デザイン卒業研究 (6 単位)」を、それぞれ必修のコア科目として受講ように設計を修正したことに伴い、FDC の要卒単位数は、「未来デザイン卒業研究」(各学類の卒業研究の代わりとなる科目) 以外の FDC 独自科目である「未来デザインインターンシップ」「未来デザイン計画演習」「未来デザイン PBL 演習」計 6 単位分、通常の学類単位入学生より多い設定とした。

(新旧対照表)

PBL の内容については、本審査意見 No.2 と同じ。FDC の単位認定部分については本審査意見 No.10 と同じ。

現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                           | 旧                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (設置趣旨 (本文) -20 ページ)<br>2 学部・学科等の特色<br>[現代システム科学域]<br>大阪市立大学と大阪府立大学の統合により、学士課程には本学域のほか 11 学部が設置される。学問分野志向で構成される他の学部と異なり、唯一の学域となる本学域の最大の特徴は、サステナブルな社会の実現に貢献するという目的志向で構成されることに | (10 ページ)<br>2 学部・学科等の特色<br>[現代システム科学域]<br>本学は、大阪府立大学と大阪市立大学の統合により、学士課程には本学域のほか 11 学部が設置される。学問分野志向で構成される他の学部と異なり、唯一の学域となる本学域の最大の特徴は、サステナブルな社会の実現に貢献するという目的志向で構成される |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ある。社会的背景で述べたように、サステイナブルな社会を実現するためには、幅広い学問分野の知識が必要であり、その学びの構成は必然的に学際的（interdisciplinary）となる。本学域に配置される教員はさまざまな学問分野の専門性を有しており、各教員の専門的な教育研究の成果を有機的に組み合わせることで創発的効果が得られるような教育課程と研究体制をとる。また、社会の現場で活躍するための実践力を養成するため、初年次に学域共通の科目を複数配置するとともに、後述する各学類の専門を学修する主専攻とは別に、課題解決能力をプロジェクト型で学ぶ PBL（Project Based Learning）<b>プログラム</b>を修得することを卒業要件に課す。この PBL <b>プログラム</b>には個別のテーマを持つ 23 の<b>プログラム</b>があり、学生は所属学類に関係なく希望するテーマの PBL <b>プログラム</b>を 1 つ以上選ぶ。各テーマの PBL <b>プログラム</b>ではそのテーマに沿った科目群が指定されており、その中の科目を履修したのち、3 年次に PBL <b>プログラム</b>の最終科目である「<b>PBL 演習</b>」を履修する。「<b>PBL 演習</b>」は学域共通の実践型演習科目であり、PBL <b>プログラム</b>のテーマ別に 23 の「<b>PBL 演習</b>」が用意されている。このように、PBL <b>プログラム</b>はいわば学域内副専攻のような履修プログラムとなっており、領域横断型かつ課題解決型の学びによりサステナビリティ志向性を醸成する。</p> | <p>ことにある。社会的背景で述べたように、サステイナブルな社会を実現するためには、幅広い学問分野の知識が必要であり、その学びの構成は必然的に学際的（interdisciplinary）となる。本学域に配置される教員はさまざまな学問分野の専門性を有しており、各教員の専門的な教育研究の成果を有機的に組み合わせることで創発的効果が得られるような教育課程と研究体制をとる。また、社会の現場で活躍するための実践力を養成するため、初年次に学域共通の科目を複数配置するとともに、後述する各学類の専門を学修する主専攻とは別に、課題解決能力をプロジェクト型で学ぶ PBL（Project Based Learning）<u>コース</u>を修得することを卒業要件に課す。この PBL <u>コース</u>には個別のテーマを持つ 23 の<u>コース</u>があり、学生は所属学類に関係なく希望するテーマの PBL <u>コース</u>を 1 つ以上（後述する FDC の学生は 2 つ以上）選ぶ。各テーマの PBL <u>コース</u>ではそのテーマに沿った科目群が指定されており、その中の科目を履修したのち、3 年次に PBL <u>コース</u>の最終科目である「<u>SDGs 演習</u>」を履修する。「<u>SDGs 演習</u>」は学域共通の実践型演習科目であり、PBL <u>コース</u>のテーマ別に 23 の「<u>SDGs 演習</u>」が用意されている。このように、PBL <u>コース</u>はいわば学域内副専攻のような履修プログラムとなっており、領域横断型かつ課題解決型の学びによりサステナビリティ志向性を醸成する。</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※上記の修正に伴い、教育課程等の概要、授業科目の概要、2 以上の校地において教育を行う場合のそれぞれの校地ごとの勤務状況、教員名簿を修正する。

(是正事項) 現代システム科学域

12. 「現代システム科学」や「環境社会システム学」に係る概論的科目が学域共通科目や学類共通科目には見受けられないため、別に求めたそれらの定義に係る説明と合わせて、妥当性を明確にするか、修正すること。

(対応)

本学域では、資料1（現代システム科学域に関するキーワードについての説明）に示すように、「持続不可能な現代社会を持続可能な社会に変革するための持続可能システム科学」として「現代システム科学」を定義した。また、それらの教育研究を行う学類として、知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類の4学類を置くこととした

初年次に学域共通科目の必修科目として「情報システムとサステナビリティ」、「自然システムとサステナビリティ」、「社会システムとサステナビリティ」、「人間システムとサステナビリティ」（全8単位）を新たに配置し、本学域で定義しているサステナビリティの理念を学修させると同時に、持続可能システムを構成する情報システム、自然システム、社会システム、人間システムの4つのシステムがサステナビリティにどのように寄与しているのかについて理解させる。これら4つの科目については、表1に示すように、第1回目に共通の教材を用いたイントロダクションを設定し、それぞれの授業科目の代表教員が現代システム科学の概念、現代システムの中の情報システム・自然システム・社会システム・人間システムの位置付けと役割、システムの思考力の重要性などについて講義する。2回から14回までは、各々の科目において各システムの概念やその要素とサステナビリティとの関連性などについて講義する。また、第15回目に共通の総括を設定し、情報システム・自然システム・社会システム・人間システムの観点から見た持続可能性（サステナビリティの定義、それぞれのシステムの観点から見たサステナビリティの意味、現代から未来へのつながりなど）について各授業の最後で解説する。このとき、4つの科目の担当者代表が全員登壇し、対談形式で各システムのつながりについて解説する時間を設ける。

また、同じく初年次に学域共通科目の選択必修科目として「知識情報システム学概論」「環境社会システム学概論」「教育福祉学概論」「心理学概論」（全8単位）を新たに配置し、それぞれの学類が養成を目指す人材像と、ベースとなる学問分野の教育アプローチを理解させるとともに、それら全体を複眼的に見ることによって、はじめて持続不可能な現代の問題を立体的に捉え、解決方法を導くことができることを理解させる。これら4つの科目については、表2に示すように、第1回目に共通の教材を用いたイントロダクションを設定し、それぞれの授業科目の代表教員が現代システム科学域の教育理念と、その中の知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類の位置付けと役割、各学類の3ポリシーなどについて講義する。2回から14回までは、各々の科目において各学類で学ぶ主な教育研究分野の基礎や学類の学びのアプローチの特徴などについて講義する。また、第15回目に共通の総括を設定し、知識情報システム学、環境社会システム学、教育福祉学、心理学の観点から見た領域横断的応用力について講義する。このとき、4つの科目の担当者代表が全員登壇し、対談形式で各学類のつながりについて解説する時間を設ける。

表1 システムとサステイナビリティ科目群の構成

|                  | 情報システムとサステイナビリティ                                                                                                                                              | 地球システムとサステイナビリティ                                                                | 社会システムとサステイナビリティ                                               | 人間システムとサステイナビリティ                               |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 第1回              | オリエンテーションの後、現代システム科学の概念、現代システムの中の情報システム・地球システム・社会システム・人間システムの位置付けと役割、重要性などについて、各授業の1回目で講義する。4つのシステムの関係をつかみやすいため、共通する事例を用いて説明を行う(例:パンデミックとそれぞれのシステム)。          |                                                                                 |                                                                |                                                |
| 第2回<br>～<br>第13回 | ・データサイエンスを活用したサステイナブルな社会<br>・安心安全な情報システムインフラ<br>・人工知能によるレジリエントな情報サービス                                                                                         | ・地球の起源と歴史及び現在の地球の構造<br>・大気循環と大気に関わる環境問題<br>・水の循環と海洋に関わる環境問題<br>・生態系のしくみと生態系サービス | ・公正で平等な社会と哲学・思想の役割<br>・慣習と文化<br>・社会制度と福祉国家<br>・グローバルシステムと「わたし」 | ・対人システムの心的プロセス<br>・人と環境との心理的不適応<br>・社会的規範と行為類型 |
| 第14回             | 第2回授業から第13回授業までの振り返りと授業内容のまとめ                                                                                                                                 |                                                                                 |                                                                |                                                |
| 第15回             | 情報システム・地球システム・社会システム・人間システムの観点から見た持続可能性(サステイナビリティの定義、それぞれのシステムの観点から見たサステイナビリティの意味、現状など)について各授業の最後で解説する。システム間の相互作用を理解するために、4つの授業の担当教員が相互乗り入れし、対談形式で解説する部分を設ける。 |                                                                                 |                                                                |                                                |
| 第16回             | 期末試験                                                                                                                                                          |                                                                                 |                                                                |                                                |

表2 各学類概論科目群の構成

|                  | 知識情報システム学概論                                                                                                                                              | 環境社会システム学概論                                                 | 教育福祉学概論                                             | 心理学概論                                                 |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 第1回              | オリエンテーションの後、現代システム科学域の教育理念と、その中の知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類の位置付けと役割、各学類の3ポリシーなどについて、各授業の1回目で講義する。                                                  |                                                             |                                                     |                                                       |
| 第2回<br>～<br>第13回 | ・情報システムとその構成<br>・情報の表現と伝達<br>・アルゴリズムと計算の理論<br>・ユーザインターフェース                                                                                               | ・自然環境と人間とのかかわり<br>・社会環境と人間とのかかわり<br>・自然と人間との共生を基礎としたシステムづくり | ・人間開発と成長・発展<br>・人の社会的疎外要因と福祉国家<br>・インクルーシブ社会への理念と実践 | ・心の科学の方法論<br>・進化による環境への適応と人間の心<br>・人間の発達、学習、記憶、知覚の仕組み |
| 第14回             | 第2回授業から第13回授業までの振り返りと授業内容のまとめ                                                                                                                            |                                                             |                                                     |                                                       |
| 第15回             | 知識情報システム学、環境社会システム学、教育福祉学、心理学の観点から見た領域横断的応用力について講義する。領域横断的応用力の定義、それぞれに軸足を置いたときの領域横断的応用力の具体例などについて解説する。この部分の内容についてはあらかじめ4つの概論の担当教員で検討し、有機的な連関を示しながら説明を行う。 |                                                             |                                                     |                                                       |
| 第16回             | 期末試験                                                                                                                                                     |                                                             |                                                     |                                                       |

(新旧対照表)

本審査意見 No. 2 と同じ。

13.ディプロマ・ポリシーについて、以下の点を明確にすること。

- (1) 学域のディプロマ・ポリシーに「複数領域の知識を横断的に用いて、現代システムに内在する課題の解決を目指すことができる力（領域横断的応用力）を養うために、学域共通科目（各学類導入科目など）を配置する」とあるが、他の学類の科目を履修するだけでは「領域横断的応用力」が身に付くとは考えにくく、そもそも、なぜ、この4学類の各科目を履修すると、そのような能力につながるのかが判然としない。また、一般的に、異なる専攻分野の知識等を体系的に修得するためには、当該知識等を融合させる科目が必要と考えられるところ、そのような科目も見受けられないため、これらの点の妥当性を明確にするか、必要に応じて修正すること。
- (2) 学域としてのディプロマ・ポリシーにおいて、「(データ活用力) データサイエンスの知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる」と示されているが、工学分野の人材養成ではない学類もある中で、当該ポリシーを共通的に設定する意義、必要性が不明確であるため、養成する人材像との関係で明確にすること。

(1)

(対応)

本学域では、資料1（現代システム科学域に関するキーワードについての説明）に示すように、「領域横断的応用力」を以下のように定義している。

持続可能システム科学(sustainable system sciences)には、資源・エネルギーの持続的利用やそれを支える生態系の保全に必要な自然科学、多様な歴史や文化、言語を背景に持つ人々が共生するための社会の仕組みづくりに必要な人文・社会科学、便利さや物質的豊かさを際限なく追及するのではなく、限りある資源を分かち合うことですべての人のウェルビーイングを実現するための人間科学、さらに、これらの幅広い知識をできるだけ広範囲で効率的に共有し活用するための情報学が構成要素として含まれている。このような「幅広い知識・技能をバランスよく理解し、ある領域の知識・技能を別の領域に適用したり、複数の領域の知識・技能を融合させたりすることのできる能力」のことを、ここでは「領域横断的応用力」と定義する。

上記の学問分野をすべて結集して持続可能な社会の構築を目指す学として現代システム科学があり、その教育研究を担う学類として4つの学類を設置することとした。初年次に学域共通科目の選択必修科目として「知識情報システム学概論」「環境社会システム学概論」「教育福祉学概論」「心理学概論」（全8単位）を新たに配置し、それぞれの学類が養成を目指す人材像と、ベースとなる学問分野の教育アプローチを理解させるとともに、それら全体を複眼的に見ることによって、はじめて持続不可能な現代の問題を立体的に捉え、解決方法を導くことができることを理解させる。これら4つの科目については、第1回目に共通のイントロダクションを設定し、現代システム科学域の教育理念と、その中の知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類の位置付けと役割、各学類の3ポリシーなどについて講義する。また、第15回目に共通の総括を設定し、知識情報システム学、環境社会システム学、教育福祉学、心理学の観点から見た領域横断的応用力について講義する。



2 年次以降は、学類ごとにそれぞれの専門分野に分かれて専門的知識を習得させる。そして、3 年次に異なった専門的知識を習得した学生をもう一度 1 つのグループとして組織し、現代社会の課題解決に挑む「SDGs 演習」を改名した「PBL 演習」において協働し、個々の学生が有する知識を融合するという体験を通して、領域横断的応用力の育成が可能となると考えている。

(新旧対照表)

4 学類の妥当性については、本審査意見 No. 1 と同じ。科目構成については、本審査意見 No. 2 と同じ。

(2)

(対応)

現代システム科学域は、「持続可能な社会の実現に貢献できる人材」の育成を目標として設置される学域であり、現代社会の分析や未来社会の想定のためには、文理を問わず数値データを可視化する技能や複数のデータ間の関連性を分析する技能などの基本的なデータサイエンスの技能が必須であると考えているため、本学域では学域の共通のディプロマ・ポリシーとして、「(データ活用力) データサイエンスの知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる」を掲げ、それを実現するためのすべての学類で統計学を必修科目として設定している。

しかしながら、ご指摘のように養成する人材像によって求められるデータサイエンスのスキルレベルが異なっていると考えられることから、それぞれの学類のディプロマ・ポリシーにおいては、養成する人材像に対応して以下のように修正する。なお、指摘事項 No.6 に対応するため、当該ポリシーを思考力・判断力・表現力に移している。

環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類では、環境、教育福祉、心理の課題を分析できる人材の養成を目指していることから、環境社会システム学類および教育福祉学類では「統計学基礎 1、2」(1 年次)、心理学類では「心理学統計法 1、2」(2 年次)をそれぞれ必修科目として履修させることとしており、ディプロマ・ポリシーを以下のとおり修正する。

(思考力・判断力・表現力)

3. (データ活用力) データを収集・活用することのできる知識・技能を用いて、課題を分析・説明することができる。

知識情報システム学類では、情報技術そのものを開発できる人材を目指していることから、基礎教育科目の「統計学基礎 1、2」「プログラミング入門 A」に加え、学類基盤科目の「コンピュータシステム」「情報ネットワーク基礎」「データベース基礎」「アルゴリズムとデータ構造」「情報セキュリティ」「データ科学」を必修科目として履修させることとしており、ディプロマ・ポリシーを以下のとおり修正する。

(思考力・判断力・表現力)

3. （データ活用力）情報通信技術を積極的に取り入れ、データサイエンスの知識・技能を用いて、課題を分析・説明することができる。

（新旧対照表）

ディプロマ・ポリシーについて、本審査意見 No. 4(1) と同じ。

(是正事項) 現代システム科学域

14. カリキュラム・ポリシーの説明において、ディプロマ・ポリシーに対応する科目が例示されているが、専門科目の多くは選択科目となっており、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の修得が担保される教育課程になっていないと考えられるため、履修設定の考え方を明確にした上で、妥当性を明確にするか、修正すること。

(対応)

学域全体において、ディプロマ・ポリシーの各項目に対する基本的な履修設定は以下のような方針で行っている。DP1（多面的視点）は総合教養科目で育成する。DP2（コミュニケーション力）は語学系科目で育成する。DP3（データ活用力）はデータサイエンス科目で育成する。DP4（システムの思考力）は学域共通科目と学類専門科目で育成する。DP5（領域横断的応用力）は学域共通科目と専門科目で育成する。DP6（表現力）は初年次導入科目と実験・演習科目で育成する。DP7（倫理観）とDP8（サステイナブル志向）はPBLプログラムで育成する。この方針を表したカリキュラムマップの一例を資料4に示す。

なお、各学類とも、単一の学問分野を追求するのではなく、学際的な学びから学年進行とともに徐々に卒業研究の専門性やその出口としてのキャリアパスの特性に沿った専門的な学びへと移行する履修設定を行っており、その専門分野は学生自身が選択できるような教育プログラムとしていることから、初年次の学域共通科目として新設する「情報システムとサステイナビリティ」「自然システムとサステイナビリティ」「社会システムとサステイナビリティ」「人間システムとサステイナビリティ」は必修、各学類の概論科目や基盤科目は選択の余地が狭い選択必修とするが、2年次以降の学類専門科目は大半を選択科目としている。そこで、学生が履修するに当たり混乱しないようカリキュラム・ポリシーに科目を例示することをやめ、各学類とも、想定される就職先を見据えた資料4に示すカリキュラムマップを設定する。このような想定される就職先を見据えた各専門分野への移行の流れについては、半期ごとに行う履修ガイダンスによって学生に周知し、学生の志向に合わせて適切な科目選択ができるように指導することによって、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の修得が担保されるようにする。

(新旧対照表)

カリキュラム・ポリシーについては、本審査意見 No. 4(1)と同じ。

(是正事項) 現代システム科学域

15. カリキュラム・ポリシーの説明において、「システムの思考力」に対応する科目は、知識情報システム学類では、例えば、『生産システム科学』、『空間情報システム』など」とされ、当該学類の学問分野を踏まえた「システムの思考力」と対応すると考えられる科目が示されている一方で、環境社会システム学類では、『地球環境学』、『言語の社会システム』など」とされてはいても、いずれも当該学類の学問分野を踏まえた「システムの思考力」と関連する科目なのか不明確であるため、明確にするか修正すること。

(対応)

本学域では、資料1（現代システム科学域に関するキーワードについての説明）に示すように、システムの思考力を「構成要素間の相互作用を理解し、全体の変化を予測したり新たな変化を考え出したりすることのできる能力」と捉えており、「情報システムとサステナビリティ」、「地球システムとサステナビリティ」、「社会システムとサステナビリティ」、「人間システムとサステナビリティ」の4科目で基礎を形成した後、それぞれの専門科目においてシステムの個々の要素がどのように機能しているかを概説することを通して、システムの思考力を醸成していく。

また、知識情報システム科学類では、情報ネットワーク、情報セキュリティ、人工知能などの情報システムに関わる科目、生産システム、ヘルスケアなどの社会システムに関する科目を、環境社会システム学類では、大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などの自然システムに関わる科目、ガバナンス、異・多文化共生などの社会システムに関わる科目、哲学・倫理、自・異文化理解などの人間システムに関わる科目を、教育福祉学類では、ジェンダー、万人・生涯支援、社会保障などの社会システムに関わる科目、万人・生涯教育などの人間システムに関わる科目を、心理学類では、ITによる生活環境向上などの情報システムに関わる科目、認知行動、臨床心理などの人間システムに関わる科目をそれぞれ配置しており、それらがすべて「システムの思考力」の醸成につながることを、半期ごとに行う履修ガイダンスにて学生に周知するとともに、各科目の中で解説する。なお、このように非常に多くのシステム関連科目が存在することから、学生が履修するに当たり混乱しないよう、カリキュラム・ポリシーにはあえて科目名の例示はしないことにした。

(新旧対照表)

カリキュラム・ポリシーについては、本審査意見 No. 4(1)と同じ。科目構成については、本審査意見 No. 2 と同じ。

(是正事項) 現代システム科学域

16.カリキュラム・ポリシーによると、ディプロマ・ポリシーに掲げる「思考力・判断力・表現力」を身に付けるために、専門科目の学域共通科目や「初年次ゼミナール」を配置するとされているが、専門科目の学域共通科目の多くはオムニバス形式で、かつ、講義形式であり、「初年次ゼミナール」は授業内容に係る説明がなく、演習科目について「50人を超えないように配慮する」とあり、比較的大人数で行われるような説明があることも踏まえると、ディプロマ・ポリシーに掲げる思考力・判断力・表現力を身に付けることができるのか不明確であるため、当該科目のシラバスを示して妥当性を明確にするか、修正すること。

(対応)

思考力・判断力・表現力を身に付けることができる授業となっているが不明であるところを指摘いただいたことを受けて、学域共通科目は内容を一新し、少人数のコア教員が担当する「情報システムとサステナビリティ」「自然システムとサステナビリティ」「社会システムとサステナビリティ」「人間システムとサステナビリティ」の4科目でシステムの思考力を、同じく少人数のコア教員が担当する「知識情報システム学概論」「環境社会システム学概論」「教育福祉学概論」「心理学概論」で領域横断的応用力を養うこととした。

また、初年次ゼミナールおよび演習科目は、少人数のグループワークが中心であり、ディベートや問題解決学習、フィールドワークなどを含む学生の主体的な学びを中心にしたものであることがわかるようにシラバスを再チェックし、不明な科目については修正を行った。シラバスを修正した科目の一覧は以下のとおりである。なお、本学域では、「思考力・判断力・表現力」を学類専門科目のうちの実験・演習科目によって身に付けさせようと考えており、実験・演習科目は5~10名程度の少人数グループで課題を実施し、全ての学生が主体的に学ぶ機会を多く提供することで「思考力・判断力・表現力」を育成する方針としている。

本審査意見を踏まえ修正したシラバス一覧

| 授業科目名         |
|---------------|
| 環境社会システム学演習 1 |
| 環境社会システム学演習 2 |
| 環境社会システム学演習 3 |
| 教育福祉ゼミナール C   |
| 教育福祉ゼミナール D   |

(参考) 初年次ゼミナール (共通) のシラバス

| 授業名称     |      | 担当教員氏名     |      |
|----------|------|------------|------|
| 初年次ゼミナール |      |            |      |
| 単位数      | 配当年次 | 必修・選択・自由の別 | 授業形態 |
| 2        | 1    | 必修         | 演習   |

| 授業概要                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全学部・学域混成の少人数編成 (17 名程度) による必修ゼミナール。入学前の受動的になりがちな学びから、学生自らが動き、働きかける大学での能動的な学びの姿勢を身に付けることを目的とする。様々な専門分野の教員が設定した特定のテーマについてグループ研究を行う中で、異なる価値観や多様性に接しながら、研究に必要な基礎的・基本的な知識と技法を学ぶ。 |
| 到達目標                                                                                                                                                                        |
| 1. 図書館、各種データベースを活用して、必要な資料や情報を収集できる<br>2. 収集した情報や他者の意見を取り入れ、論理的に考えることができる<br>3. 適切な形式でレポート作成、発表等ができる                                                                        |

| 授業回              | 各回の授業内容       | 事前・事後学習の内容                                         |
|------------------|---------------|----------------------------------------------------|
| 第1回              | 講義概要・ガイダンス    |                                                    |
| 第 2 回～<br>第 3 回  | 情報・資料収集法について  | 次のキーワードについて事前に調べておく：量的研究、質的研究、CiNii、Google Scholar |
| 第 4 回～<br>第 5 回  | プレゼンテーションについて | クリティカル・リーディングや議論の方法について、事前に調べておく                   |
| 第 6 回～<br>第 7 回  | ライティングについて    | 次のキーワードについて事前に調べておく：アカデミック・ライティング (スカラー・ライティング)    |
| 第 8 回            | 「研究」のあり方について  | 次のキーワードについて事前に調べておく：研究公正 (「捏造、改ざん、盗用」について)         |
| 第 9 回～<br>第 15 回 | テーマ別による研究発表   | 各自の研究発表テーマに関するキーワードについて、事前に調べておく                   |
| 第 16 回           | まとめ           | 研究発表の内容について総括を行う                                   |

| 成績評価方法                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| レポート、プレゼンテーションによって、到達目標の達成度で成績評価を行う。具体的には、最終レポート 40%，小課題 30%，授業貢献度 30%，を目途に総合的に評価する。最低合格ライン (C 評価) については、(1)テーマ別研究発表におけるトピックについて、それぞれ説明できること、(2)授業及び時間外課題に積極的に取り組むこと、の 2 点が必要である。 |

|           |
|-----------|
| 履修上の注意    |
|           |
| 教科書       |
| 授業中に指示する。 |
| 参考文献      |
| 授業中に指示する。 |

(新旧対照表)

現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(設置趣旨 (本文) -48 ページ)</p> <p>6 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件<br/>ア 教育方法等</p> <p>知識・技能の修得に関しては、<u>基幹教育科目の総合教養科目および健康・スポーツ科学科目によって、幅広い知識・技能、多面的な視野を養うとともに、基幹教育科目のお英語科目および初修外国語科目によって、複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養う。</u></p> <p>思考力・判断力・表現力の修得に関しては、<u>基幹教育科目の情報リテラシー科目、基礎教育科目のプログラミング科目、数学・統計科目によって、データを収集・活用することのできる知識・技能を、学域共通科目のシステムとサステナビリティ科目によって、システムの思考力を、学域共通科目の各学類概論科目によって、領域横断的応用力をそれぞれ養う。また、基幹教育科目の初年次導入科目、各学類演習科目によって、現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を説明することができる表現力を養う。</u></p> <p>サステナビリティ志向性の修得に関しては、<u>学域共通科目のシステムとサステナビリティ科目によって、持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を養う。</u></p> <p>このような科目のうち講義科目では、1クラスの学生数は原則として 150 人を超えないよう配慮する(ただし学域共通科目の必修</p> | <p>(26 ページ)</p> <p>6 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件<br/>ア 教育方法等</p> <p>知識・技能の修得に関しては、<u>基幹教育科目である総合教養科目、外国語科目等、基礎教育科目 (数学、プログラミング入門等)、学域共通科目および学類専門科目の講義科目によって教育を行う。講義科目では、1クラスの学生数は原則として 150 人を超えないよう配慮する(ただし学域共通の必修科目「サステナビリティ」を除く)とともに、必要に応じて TA を配置する。思考力・判断力・表現力の修得に関しては、基幹教育科目 (初年次ゼミナール)、学域共通科目および学類専門科目のシステム系科目と演習科目によって教育を行う。実験、実習、フィールドワークを中心とする演習科目では、1クラスの学生数が原則として 50 人を超えないように配慮するとともに、必要に応じて TA を配置する。また、原則として複数の教員が担当し、小グループでの協働作業やプレゼンテーションを各グループ担当教員が指導する。サステナビリティ志向性の修得に関しては、学域共通科目および PBL コースとその最終科目である SDGs 演習によって教育を行う。PBL コースでは、学類の枠を超えて学生同士が切磋琢磨し、SDGs 演習では複数の学類の学生が協働で課題解決の取り組みを行うように指導する。なお、本学域における科</u></p> |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>科目「システムとサステナビリティ」科目群を除く）とともに、必要に応じて TA を配置する。また、初年次導入科目や、実験、実習、フィールドワークを中心とする演習科目では、1 クラスの学生数が原則として 50 人を超えないように配慮するとともに、複数の教員が担当し、5～10 名程度の小グループで課題を実施し、全ての学生が主体的に学ぶ機会を多く提供するとともに、必要に応じて TA を配置する。PBL プログラムの最終科目である PBL 演習では、学類の枠を超えて学生同士が切磋琢磨し、協働で課題解決の取り組みを行うように指導する。</p> <p>なお、本学域における科目の設定単位数について、大学設置基準に示されている時間の範囲内で定める。また、講義、演習、実験、実習または実技のうち 2 以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせ・割合に応じて、先に設定した時間に基づき単位数を定める。また、各学類の教育プログラムの特徴を考慮して、必修科目と選択科目に分け、各年次に適切に配当する。</p> <p>後述のように、本学域では全 260 名の定員のうち 60 人を学域単位として募集する。学域単位入学生には入学時点で FDC 希望調査を行い、希望した学生（15 名程度を想定）にはメンター教員を配置して未来デザイン学修プログラムを作成させ、そのプログラムに沿った履修を行わせる。FDC を希望しなかった学域単位入学生については、1 年次終了時点で学生の希望に応じて各学類に配属する。なお、FDC の詳細については後述の「23 未来デザインプログラム」を参照願いたい。</p> | <p>目の設定単位数について、大学設置基準に示されている時間の範囲内で定める。また、講義、演習、実験、実習または実技のうち 2 以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせ・割合に応じて、先に設定した時間に基づき単位数を定める。また、各学類の教育プログラムの特徴を考慮して、必修科目と選択科目に分け、各年次に適切に配当する。なお、集中授業は行わない。</p> <p>後述のように、本学域では全 260 名の定員のうち 60 人を学域単位として募集する。学域単位入学生には入学時点で FDC 希望調査を行い、希望した学生（10 名程度を想定）にはメンター教員を配置して未来デザイン学修プログラムを作成させ、そのプログラムに沿った履修を行わせる。FDC を希望しなかった学域単位入学生については、1 年次終了時点で学生の希望に応じて各学類に配属する。一方学類単位で入学した学生には、1 年次前期終了時点で FDC への転向希望調査を行い、希望した学生（若干名を想定）にはメンター教員を配置して未来デザイン学修プログラムを作成させ、そのプログラムに沿った履修を行わせる。なお、環境社会システム学類における環境共生科学課程あるいは社会共生科学課程への配属は、2 年次前期終了時点で行う。また、FDC を選択した学生であっても、卒業までの途中段階で学類配属への変更を希望したものについては、メンター教員や受け入れ学類の教員と協議の上、学類に配属する場合もある。</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(是正事項) 現代システム科学域

17. 学域共通科目の授業科目において、オムニバス形式の授業が配置されているが、各教員がそれぞれの授業回を担当するだけで、いわゆるイントロダクションや総括的な授業回が設定されていないものがあり、学域の目的である「持続可能な社会の実現に貢献する」人材を育成するだけの教育効果が得られるのか不明確である。このため、オムニバス形式の授業科目の教育効果について、妥当性を明確にするか適切に修正すること。

(対応)

学域共通科目は、すべて多人数によるオムニバス科目の形式とはせず、少人数のコア教員が担当するオムニバス科目に改める。

初年次に学域共通科目の必修科目として「情報システムとサステナビリティ」、「自然システムとサステナビリティ」、「社会システムとサステナビリティ」、「人間システムとサステナビリティ」(全8単位)を新たに配置し、本学域で定義しているサステナビリティの理念を学修させると同時に、持続可能システムを構成する情報システム、自然システム、社会システム、人間システムの4つのシステムがサステナビリティにどのように寄与しているのかについて理解させる。これら4つの科目については、表1に示すように、第1回目に共通の教材を用いたイントロダクションを設定し、それぞれの授業科目の代表教員が現代システム科学の概念、現代システムの中の情報システム・自然システム・社会システム・人間システムの位置付けと役割、システムの思考力の重要性などについて講義する。2回から14回までは、各々の科目において各システムの概念やその要素とサステナビリティとの関連性などについて講義する。また、第15回目に共通の総括を設定し、情報システム・自然システム・社会システム・人間システムの観点から見た持続可能性(サステナビリティの定義、それぞれのシステムの観点から見たサステナビリティの意味、現代から未来へのつながりなど)について各授業の最後で解説する。このとき、4つの科目の担代表者が全員登壇し、対談形式で各システムのつながりについて解説する時間を設ける。

また、同じく初年次に学域共通科目の選択必修科目として「知識情報システム学概論」「環境社会システム学概論」「教育福祉学概論」「心理学概論」(全8単位)を新たに配置し、それぞれの学類が養成を目指す人材像と、ベースとなる学問分野の教育アプローチを理解させるとともに、それら全体を複眼的に見ることによって、はじめて持続不可能な現代の問題を立体的に捉え、解決方法を導くことができることを理解させる。これら4つの科目については、表2に示すように、第1回目に共通の教材を用いたイントロダクションを設定し、それぞれの授業科目の代表教員が現代システム科学域の教育理念と、その中の知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類の位置付けと役割、各学類の3ポリシーなどについて講義する。2回から14回までは、各々の科目において各学類で学ぶ主な教育研究分野の基礎や学類の学びのアプローチの特徴などについて講義する。また、第15回目に共通の総括を設定し、知識情報システム学、環境社会システム学、教育福祉学、心理学の観点から見た領域横断的応用力について講義する。このとき、4つの科目の担代表者が全員登壇し、対談形式で各学類のつながりについて解説する時間を設ける。

このような本学域の学域共通科目は、担当する教員間で授業目標を共有し、それぞれの担

当回の授業がどのように授業全体の目標に関連づいているかを理解した上で授業を担当することによって、専門性の高い教員が共同して統一した目標を達成できるような方策をとっており、オムニバス形式であっても教育効果が期待できる。

表1 システムとサステイナビリティ科目群の構成

|                  | 情報システムとサステイナビリティ                                                                                                                                              | 地球システムとサステイナビリティ                                                                 | 社会システムとサステイナビリティ                                               | 人間システムとサステイナビリティ                               |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 第1回              | オリエンテーションの後、現代システム科学の概念、現代システムの中の情報システム・地球システム・社会システム・人間システムの位置付けと役割、重要性などについて、各授業の1回目で講義する。4つのシステムの関係をつかみやすいため、共通する事例を用いて説明を行う(例：パンデミックとそれぞれのシステム)。          |                                                                                  |                                                                |                                                |
| 第2回<br>～<br>第13回 | ・データサイエンスを活用したサステイナブルな社会<br>・安心安全な情報システムインフラ<br>・人工知能によるレジリエントな情報サービス                                                                                         | ・地球の起源と歴史及び現在の地球の構造<br>・大気の循環と大気に関わる環境問題<br>・水の循環と海洋に関わる環境問題<br>・生態系のしくみと生態系サービス | ・公正で平等な社会と哲学・思想の役割<br>・慣習と文化<br>・社会制度と福祉国家<br>・グローバルシステムと「わたし」 | ・対人システムの心的プロセス<br>・人と環境との心理的不適応<br>・社会的規範と行為類型 |
| 第14回             | 第2回授業から第13回授業までの振り返りと授業内容のまとめ                                                                                                                                 |                                                                                  |                                                                |                                                |
| 第15回             | 情報システム・地球システム・社会システム・人間システムの観点から見た持続可能性(サステイナビリティ)の定義、それぞれのシステムの観点から見たサステイナビリティの意味、現状などについて各授業の最後で解説する。システム間の相互作用を理解するために、4つの授業の担当教員が相互乗り入れし、対談形式で解説する部分を設ける。 |                                                                                  |                                                                |                                                |
| 第16回             | 期末試験                                                                                                                                                          |                                                                                  |                                                                |                                                |

表2 各学類概論科目群の構成

|                  | 知識情報システム学概論                                                                                                                                              | 環境社会システム学概論                                               | 教育福祉学概論                                             | 心理学概論                                                 |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 第1回              | オリエンテーションの後、現代システム科学域の教育理念と、その中の知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類の位置付けと役割、各学類の3ポリシーなどについて、各授業の1回目で講義する。                                                  |                                                           |                                                     |                                                       |
| 第2回<br>～<br>第13回 | ・情報システムとその構成<br>・情報の表現と伝達<br>・アルゴリズムと計算の理論<br>・ユーザインターフェース                                                                                               | ・自然環境と人間とのかわり<br>・社会環境と人間とのかわり<br>・自然と人間との共生を基礎としたシステムづくり | ・人間開発と成長・発展<br>・人の社会的疎外要因と福祉国家<br>・インクルーシブ社会への理念と実践 | ・心の科学の方法論<br>・進化による環境への適応と人間の心<br>・人間の発達、学習、記憶、知覚の仕組み |
| 第14回             | 第2回授業から第13回授業までの振り返りと授業内容のまとめ                                                                                                                            |                                                           |                                                     |                                                       |
| 第15回             | 知識情報システム学、環境社会システム学、教育福祉学、心理学の観点から見た領域横断的応用力について講義する。領域横断的応用力の定義、それぞれに軸足を置いたときの領域横断的応用力の具体例などについて解説する。この部分の内容についてはあらかじめ4つの概論の担当教員で検討し、有機的な連関を示しながら説明を行う。 |                                                           |                                                     |                                                       |
| 第16回             | 期末試験                                                                                                                                                     |                                                           |                                                     |                                                       |

(新旧対照表)

本審査意見 No. 2 と同じ。

18. 「学域共通科目」の必修科目である「サステイナビリティ」や「PBL 科目」の「SDGs 演習」については、学域の設置の必要性にも示されている重要な要素で、学域の基盤であると考えられるが、体系的が不十分である。例えば、「サステイナビリティ」は講義形式で、かつ、オムバス形式で各教員の担当分野を個別に教授する方式で、いわゆるイントロダクションや総括的な授業回が設定されておらず、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力が体系的に学修できるとは考えられず、授業内容においても、例えば、サステイナビリティの考え方や環境、社会、経済の関係性を踏まえた SDGs の成り立ちなどの内容が体系的に教授されるものとは言えない。「SDGs 演習」についても、シラバスが統一的な方針にのっとって体系的な学修内容が示されているとはいえない（がた）難しい。これらについて、同分野における内外の研究動向も踏まえて適切に修正すること。

(対応)

資料 1（現代システム科学域に関するキーワードについての説明）に示すように、サステイナビリティに関する学問体系を構築する試みは、東京大学、京都大学、大阪大学、北海道大学、茨城大学の 5 大学によって、2005 年に東京大学内に設置された、サステイナビリティ学連携研究機構（IR3S : Integrated Research System for Sustainability Science）によって行われた。2009 年に東京大学で第 1 回国際サステイナビリティ学会議（ICSS : International Conference on Sustainability Science）が開催され、翌年には一般社団法人サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム（SSC : Sustainability Science Consortium）が設立された。さらに、2012 年にアリゾナ州立大学で開催された第 3 回 ICSS において、東京大学、ローマ大学サピエンツァ、国際連合大学、アリゾナ州立大学の 4 大学を幹事大学とする、国際サステイナビリティ学会（ISSS : International Society for Sustainability Science）が発足し、以来毎年 ICSS の開催や国際学術雑誌「Sustainability Science」の発行などが行われている。

IR3S は、サステイナビリティ学（sustainability science）を構成する 3 つの要素として、気候システム、資源・エネルギー、生態系などから成る地球システム（global system）、政治、経済、産業、技術などから成る社会システム（social system）、安全、ライフスタイル、健康、価値規範などから成る人間システム（human system）を挙げている。

このような学問的背景を基に、本学域では、大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などから成る自然システム（natural system）、ガバナンス、異・多文化共生、ジェンダー、万人・生涯支援、社会保障などから成る社会システム（social system）、哲学・倫理、自・異文化理解、万人・生涯教育、人間心理などから成る人間システム（human system）、それら 3 つのシステムをつなぐ役割を果たす情報システム（information system）全体を、持続可能システム（sustainable system）と定義した。

「サステイナビリティ」に関する教育については、初年次に学域共通科目の必修科目として「情報システムとサステイナビリティ」、「自然システムとサステイナビリティ」、「社会システムとサステイナビリティ」、「人間システムとサステイナビリティ」（全 8 単位）を新たに配置し、本学域で定義しているサステイナビリティの理念を学修させると同時に、持続可能

システムを構成する情報システム、自然システム、社会システム、人間システムの 4 つのシステムがサステナビリティにどのように寄与しているのかについて理解させる。

また、同じく初年次に学域共通科目の選択必修科目として「知識情報システム学概論」「環境社会システム学概論」「教育福祉学概論」「心理学概論」(全 8 単位)を新たに配置し、それぞれの学類が養成を目指す人材像と、ベースとなる学問分野の教育アプローチを理解させるとともに、それら全体を複眼的に見ることによって、はじめて持続不可能な現代の問題を立体的に捉え、解決方法を導くことができることを理解させる。

「PBL コース」の名称を改めた「PBL プログラム」では、各学類の教育課程(主専攻)とは別に、サステナビリティに関わる 23 のテーマが設定されており、資料 3 (PBL プログラム履修課程)に示すように、テーマごとに 5 科目 10 単位から成る課程を体系的に履修していく。例えば、PBL プログラム(環境学)であれば、環境学の基礎的な座学として、人間環境を理解する「環境・生命・倫理」、社会環境を理解する「環境政策学」、自然環境を理解する「自然環境学概論」を必修とし、応用の座学として受講生の興味に合わせてさまざまな環境関連科目 6 科目から一つを選択して履修したのち、それらの知識・技能を付けたうえで「PBL 演習(環境学)」に臨む、という構成となっている。

PBL プログラムの最大の特徴として、23 のプログラムはいずれの学類の学生も選択することができるということが挙げられる。多様な学生が一つのテーマに沿って学びを進めて行き、プログラムの最終科目と位置付けられる「SDGs 演習」の名称を改めた「PBL 演習」では、協働して課題解決に取り組む。このような学びを経験することにより、領域横断的応用力に加え、サステナビリティ志向性(現代社会の一員としての高い倫理観を有し、持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。)が養われる。なお PBL 演習のシラバスは全体で統一し、現代社会の課題についての講義、解決すべき問題の発見、課題解決、振り返りの学習サイクルとする授業構成に修正することによって、現実の社会で実践できる技能の習得を目指す。

(新旧対照表)

研究動向については、本審査意見 No. 1 と同じ。科目構成については、本審査意見 No. 2 と同じ。

(是正事項) 現代システム科学域

19. 「SDGs 演習」は「達成度で成績評価を行う」とされているが、質疑応答など主観的な評価になってしまう可能性のある項目もあることから、教育課程における重要性を踏まえると、例えば、ルーブリックを明示するなどして、評価基準をより具体的に明示することを検討すること。

(対応)

「SDGs 演習」から名称を変更した「PBL 演習」においては、ご指摘の通り質疑応答など主観的な評価になってしまう可能性のある項目があることから、以下に示したルーブリックに基づいて評価を行うこととし、PBL 演習のシラバスの評価欄にルーブリックを用いた評価を行うことを統一して明記する。

PBL 演習の評価シート (ルーブリック)

| 評価の観点             | C                                           | B                                      | A                                            | 評価資料                               |
|-------------------|---------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------------|------------------------------------|
| 持続可能な社会を目指す態度     | 解決すべき課題の重要性を説明できるが、演習を通して課題解決の取り組みには消極的である。 | 解決すべき課題の重要性を説明でき、演習を通して課題解決に意欲的に取り組んだ。 | 解決すべき課題の重要性を根拠を示して説明でき、演習を通して課題解決に意欲的に取り組んだ。 | 初発のレポートと事後レポートの記述内容<br>フィールドでの実習態度 |
| 課題を解決するための知識・技能   | 解決すべき課題の学問的理解が不十分である。                       | 解決すべき課題を単一の学問的視点から理解できる。               | 解決すべき課題を複数の学問的視点から理解できる。                     | 成果発表レポート                           |
| 課題を解決するための思考力・判断力 | 解決すべき課題を考えることができない。                         | 解決すべき課題を示すことができる。                      | 解決すべき課題を明確に示すことができる。                         | 成果発表レポート                           |
| 課題を他者に伝えるための表現力   | 解決すべき課題を明確に表現できない。                          | 解決すべき課題を他者に伝えることができる。                  | 解決すべき課題を有効な技法を用いて他者に伝えることができる。               | 成果発表レポート                           |

(是正事項) 現代システム科学域

20. 「主専攻とは別に、課題解決能力をプロジェクト型で学ぶ PBL (Project Based Learning) コースを修得することを卒業要件に課す。」「PBL コースはいわば学域内副専攻のような履修プログラムとなっており、領域横断型かつ課題解決型の学びによりサステナビリティ志向性を醸成する。」とあるが、どのように「サステナビリティ志向性」が醸成されるのか不明確であることから、課題設定のプロセスや指導体制、実践性の担保の方策などを含め、具体的な内容について、明確にすること。

(対応)

PBL コースは、その概念により近い PBL プログラムと名称を変更する。また、SDGs は 2030 年を目標とした暫定的なゴールであることから、普遍的なサステナビリティを目指すことが本学域の教育理念であることを明確にするため、SDGs 演習を PBL 演習と改める。

PBL プログラムでは、各学類の教育課程（主専攻）とは別に、サステナビリティに関わる 23 のテーマが設定されており、資料 3 「PBL プログラム履修課程」に示すように、テーマごとに 5 科目 10 単位から成る課程を体系的に履修していく、いわば学域内副専攻である。

例えば、PBL プログラム（環境学）であれば、環境学の基礎的な座学として、人間環境を理解する「環境・生命・倫理」、社会環境を理解する「環境政策学」、自然環境を理解する「自然環境学概論」を必修とし、応用の座学として受講生の興味に合わせてさまざまな環境関連科目 6 科目から一つを選択して履修したのち、それらの知識・技能を付けたうえで「PBL 演習（環境学）」に臨む、という構成となっている。

一方、PBL プログラム（ヘルスケア科学）であれば、「医学概論（人体の構造と機能及び疾病）」「公衆衛生学」「ヘルスケアシステム」「ヘルスケアサービス」「PBL 演習（ヘルスケア科学）」全てを必修としているが、このうち「医学概論（人体の構造と機能及び疾病）」「公衆衛生学」は複数の学類の専門科目で標準的に履修する科目となっており、必ずしも 1 年前期の段階で PBL プログラムを決定しなくても複数の PBL プログラムを選択肢に入れながら、3 年次の PBL 演習履修時に選択できるよう配慮している。また、プログラムによっては、PBL 演習と並行して関連テーマの講義科目を取ることで相乗効果を期待した設計となっているものもある。

このようなテーマごとの履修課程の考え方や最終的な PBL 演習の選択の仕方については、入学時に行う履修ガイダンスで「PBL プログラム履修ガイド」を基に周知することから、他学類の科目を含む PBL プログラムであっても、基礎から応用へと計画的かつ体系的に履修することができる。

PBL プログラムの最大の特徴として、23 のプログラムはいずれの学類の学生も選択することができるということが挙げられる。多様な学生が一つのテーマに沿って学びを進めて行き、プログラムの最終科目と位置付けられる PBL 演習では、協働して課題解決に取り組む。このような学びを経験することにより、領域横断的応用力に加え、サステナビリティ志向性（現代社会の一員としての高い倫理観を有し、持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。）が養われる。

各 PBL プログラムの最終科目となる PBL 演習では、20 名以下と想定される受講生に対し



て複数名の担当教員で指導する体制となっており、少人数のグループでワークショップやフィールドワークを行う授業形態としており、全ての学生が必ず実践に取り組む学習状況を設定する。なお PBL 演習のシラバスは全体で統一し、現代社会の課題についての講義、解決すべき問題の発見、課題解決、振り返りの学習サイクルとなるように授業を構成することによって、現実の社会で実践できる技能の習得を目指す。

(新旧対照表)

本審査意見 No. 2 と同じ。

(是正事項) 現代システム科学域

21. 設置の趣旨において、「各テーマの PBL コースではそのテーマに沿った科目群が指定されており、その中の科目を履修したのち、3年次に PBL コースの最終科目である『SDGs 演習』を履修する」とあり、学類の通常の学生は1つ、PBL コースは2つの「SDGs 演習」を履修するとある。多様な演習が設定されているため、学生が「SDGs 演習」を履修するに当たって、どのような科目を履修する必要があるのか理解できるよう、想定される就職先を示した上で履修モデルを充実させること。

(対応)

PBL コースは、その概念により近い PBL プログラムと名称を変更する。また、SDGs は 2030 年を目標とした暫定的なゴールであることから、普遍的なサステナビリティを目指すことが本学域の教育理念であることを明確にするため、SDGs 演習を PBL 演習と改める。

PBL プログラムでは、各学類の教育課程（主専攻）とは別に、サステナビリティに関わる 23 のテーマが設定されており、資料 3（PBL プログラム履修課程）に示すように、テーマごとに 5 科目 10 単位から成る課程を体系的に履修していく、いわば学域内副専攻である。

例えば、PBL プログラム（環境学）であれば、環境学の基礎的な座学として、まず人間環境を理解する「環境・生命・倫理」、社会環境を理解する「環境政策学」、自然環境を理解する「自然環境学概論」を必修として学び、その次に応用の座学として受講生の興味に合わせてさまざまな環境関連科目 6 科目から一つを選択して履修したのち、それらの知識・技能を付けたうえで「PBL 演習（環境学）」に臨む、という構成となっている。一方、PBL プログラム（ヘルスケア科学）であれば、「医学概論（人体の構造と機能及び疾病）」「公衆衛生学」「ヘルスケアシステム」「ヘルスケアサービス」「PBL 演習（ヘルスケア科学）」全てを必修としているが、このうち「医学概論（人体の構造と機能及び疾病）」「公衆衛生学」は複数の学類の専門科目で標準的に履修する科目となっており、必ずしも 1 年前期の段階で PBL プログラムを決定しなくても複数の PBL プログラムを選択肢に入れながら、3 年次の PBL 演習履修時に選択できるよう配慮している。このようなテーマごとの履修課程の考え方や最終的な PBL 演習の選択の仕方については、入学時に行う履修ガイダンスで「PBL プログラム履修ガイド」を基に周知することから、他学類の科目を含む PBL プログラムであっても、基礎から応用へと計画的かつ体系的に履修することができる。

PBL プログラムの最大の特徴は、図 1 に示すように、23 のプログラムはいずれの学類の学生も選択することができるということである。多様な学生が一つのテーマに沿って学びを進めて行き、プログラムの最終科目と位置付けられる PBL 演習では、協働して課題解決に取り組む。このような学びを経験することにより、領域横断的応用力に加え、サステナビリティ志向性（現代社会の一員としての高い倫理観を有し、持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。）が養われる。

各テーマは、表 1 に示すように、想定される就職先をイメージして各学類から持続可能な社会の実現に関わる課題として複数提示されており、多くのテーマが SDGs に関連したものとなっている。この表については、前述の PBL プログラム履修ガイドに掲載するとともに、PBL プログラムとの関係性が明確になるよう履修モデルを充実させる。なお、自学類以外が

提供している PBL プログラムを選択しても、そこで履修した科目の単位は専門科目とカウントされるため特に不利益にはならない。むしろ自身の専門分野以外のテーマにチャレンジすることで、領域横断的応用力を深化させることが期待される。通常の学類所属学生は、一つ以上の PBL プログラムを修了することが卒業要件の一つとなる。また、未来デザインコース（FDC）学生には、通常の PBL 演習に加え、セルフプロデュース型で学外者と協働する「未来デザイン PBL 演習」を課しており、想定される就職先そのものも自ら見つけ出すこととなる。

23 の PBL プログラムをすべて含む履修モデルを資料 2 に示す。これらの履修モデルは、各プログラムで想定される就職先と対応付けて作成している。多くは自学類科目が中心となる PBL プログラムを履修する場合であるが、他学類の開講科目が主体となる PBL プログラムを履修する場合も含まれている。後者の場合も、卒業要件単位数(131 単位)での卒業が可能である。また、教員免許などの資格を取得する場合の履修モデル、未来デザインコースの履修モデルも含まれている。

なお、本審査意見への対応として「PBL 演習（生活環境と情報）」及び「PBL 演習（生きることと遊び）」のシラバスを再検討する過程で、これらのプロジェクトの内容についても再考したところ、体系的にプログラムを履修するために「PBL 演習（生活環境と情報）」の配当年次を 3 年次通年から 3 年次後期、「PBL 演習（生きることと遊び）」の配当年次を 3 年次通年から 3 年次前期に変更する。

#### 各学類の履修モデル一覧

##### [知識情報システム学類]

|   |                                                                                      |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | (No. 1)<br>経営コンサルタント企業に就職、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム（ビジネスプレディクション）)                |
| 2 | (No. 2)<br>メーカー企業に就職、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム（生産システム科学）)                         |
| 3 | (No. 3)<br>公務員や保健福祉系 NP0 に就職、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム（ヘルスケア科学）)                  |
| 4 | (No. 4)<br>経営コンサルタント企業に就職、起業、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム（サービスデザイン）)                 |
| 5 | (No. 5)<br>情報・通信系企業に就職、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム（情報ネットワークシステム）)                   |
| 6 | (No. 6)<br>CSR を担当できる人材として、情報・通信系企業に就職する場合<br>(PBL プログラム（企業と持続可能な社会）※他学類科目が主体のプログラム) |

|   |                                                                                                                                  |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7 | (資格取得 No. 1)<br>高等学校情報科教員免許状を取得して、教員、教育系 NPO に就職、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム (教育情報システムデザイン))                                    |
| 8 | (未来デザインコース No. 1)<br>環境学に関わる科目を学ぶことで、環境への影響を考慮したエネルギー分配を行うインフラ設計ができる人材として、エネルギー系インフラ企業に就職する場合<br>(PBL プログラム (環境学))               |
| 9 | (未来デザインコース No. 2)<br>保育や発達心理学に関する科目を学ぶことで、保育や幼児教育に関する IT 技術を用いたソリューションを開発できる人材として、IT 系スタートアップ企業に就職する場合<br>(PBL プログラム (サービスデザイン)) |

[環境社会システム学類]

|   |                                                                                                                                                |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | (自然環境学 No. 1)<br>公務員 (環境技術職)、環境 NPO、環境コンサルタント企業に就職、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム (環境学))                                                         |
| 2 | (自然環境学 No. 2)<br>公務員 (環境技術職)、環境 NPO、環境コンサルタント企業に就職、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム (環境再生))                                                        |
| 3 | (社会環境学 No. 1)<br>調査会社、マスコミ、NPO 法人に就職、あるいは大学院進学する場合<br>(PBL プログラム (社会調査))                                                                       |
| 4 | (社会環境学 No. 2)<br>公務員 (行政職)、NPO 法人に就職、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム (都市社会))                                                                      |
| 5 | (社会環境学 No. 3)<br>公務員 (行政職)、NPO 法人、国際機関に就職、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム (文化表象))                                                                 |
| 6 | (社会環境学 No. 4)<br>公務員 (行政職)、NPO 法人に就職、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム (共生の思想))                                                                     |
| 7 | (社会環境学 No. 5)<br>社会調査の方法論を身につけた人材として、公務員 (行政職、福祉職、教育職)、社会福祉団体、NPO 法人に就職、あるいは大学院進学する場合<br>(PBL プログラム (地域および都市における排除・共生・参加))<br>※他学類科目が主体のプログラム) |

|   |                                                                                   |
|---|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 8 | (環境共生学 No. 1)<br>公務員（行政職）、地域活動 NPO、都市計画系企業に就職、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム（地域再生）) |
| 9 | (環境共生学 No. 2)<br>一般企業（CSR 部門）に就職、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム（企業と持続可能な社会）)        |

[教育福祉学類]

|   |                                                                                                                |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | (総合：非資格 No. 1)<br>公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO 法人に就職する場合<br>(PBL プログラム（ジェンダー論）)                                 |
| 2 | (総合：非資格 No. 2)<br>公務員（行政職、福祉職、教育職）、NPO 法人に就職する場合<br>(PBL プログラム（生涯学習と設計）)                                       |
| 3 | (総合：非資格 No. 3)<br>身体と心のつながりについて実践的に学び、公務員（行政職）、地域活動 NPO に就職する場合<br>(PBL プログラム（生きることと遊び）※他学類科目が主体のプログラム)        |
| 4 | (教員免許資格取得（中学校社会＋高校公民）)<br>中学社会と高校公民の教員免許を取得し、中学・高等学校または国際関係機関に就職する場合<br>(PBL プログラム（ESD-A）)                     |
| 5 | (社会福祉士資格)<br>社会福祉士資格を取得し、公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO 法人に就職する場合<br>(PBL プログラム（地域および都市における排除・共生・参加）)             |
| 6 | (スクール・ソーシャルワーク資格)<br>社会福祉士とスクールソーシャルワーカーの資格を取得し、公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO 法人に就職する場合<br>(PBL プログラム（コラボレーション）) |
| 7 | (保育士資格)<br>保育士資格を取得し、公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO 法人に就職する場合<br>(PBL プログラム（ジェンダー論）)                              |
| 8 | (社会福祉士優先＋保育士資格)<br>社会福祉士資格と保育士資格を取得し、公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO 法人に就職する場合<br>(PBL プログラム（地域および都市における排除・共生・参加）) |

|    |                                                                                                                   |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9  | (保育士優先＋社会福祉士資格)<br>保育士資格と社会福祉士資格を取得し、公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO 法人に就職する場合<br>(PBL プログラム（ジェンダー論）)                 |
| 10 | (未来デザインコース No.1)<br>未来デザインプログラムで教育情報学を学ぶことで、教育現場の問題を多職種連携で解決できる人材として教育系スタートアップ企業に就職する場合<br>(PBL プログラム（コラボレーション論）) |
| 11 | (未来デザインコース No.2)<br>未来デザインプログラムで政策学関係の科目を学ぶことで、ジェンダーやダイバーシティに関わる課題を解決できる人材として国際機関に就職する場合<br>(PBL プログラム（ジェンダー論）)   |

[心理学類]

|   |                                                                                                                        |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | (No.1)<br>公務員（行政職）、情報系企業に就職、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム（生活環境と情報）)                                                     |
| 2 | (No.2)<br>公務員（行政職）、地域活動 NPO に、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム（生きることと遊び）)                                                  |
| 3 | (No.3)<br>心理学的知見を基に教育情報システムを開発できる人材として、教育系 NPO や企業に就職、あるいは大学院に進学する場合<br>(PBL プログラム（教育情報システムデザイン）※他学類科目が主体のプログラム)       |
| 4 | (資格取得 No.1)<br>公認心理師と高校公民科免許取得に必要な科目を履修し、公務員（心理職・児童福祉職）、地域活動 NPO、教員、児童養護施設職員として就職する場合<br>(PBL プログラム（教育保障）)             |
| 5 | (資格取得 No.2)<br>大学院に進学して公認心理師資格取得を目指す場合<br>(PBL プログラム（生きることと遊び）)                                                        |
| 6 | (未来デザインコース No.1)<br>未来デザインプログラムで情報系科目を学ぶことにより、教育現場のニーズを捉えた教育システムをデザインできる人材として、教育システム企業へ就職する場合<br>(PBL プログラム（生きることと遊び）) |
| 7 | (未来デザインコース No.2)<br>未来デザインプログラムで情報系科目を学ぶことで、日常生活の問題に対してソリューションを提供できる人材として、IT 系スタートアップ企業に就職する場合<br>(PBL プログラム（生活環境と情報）) |

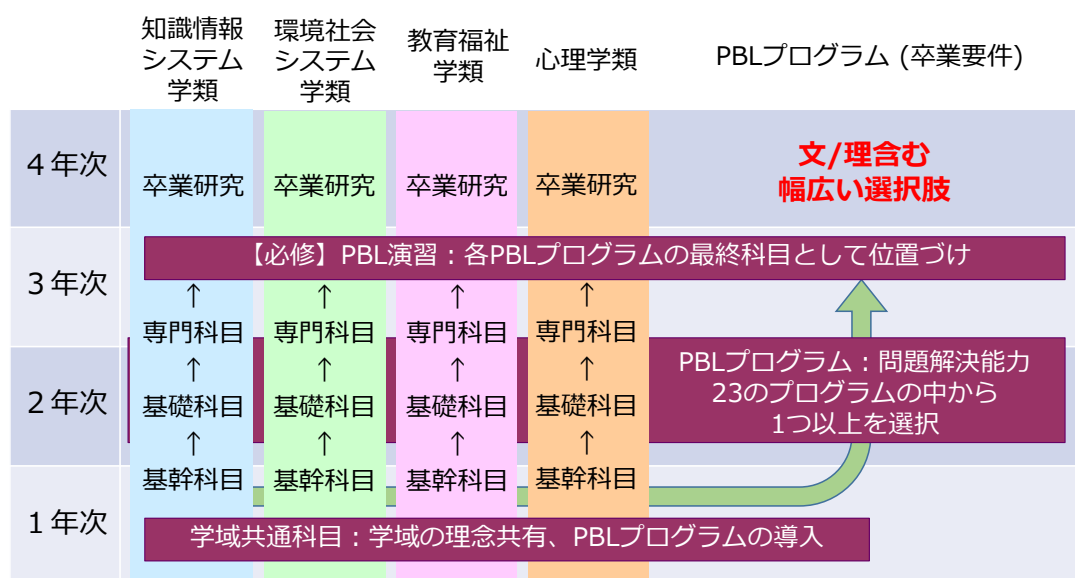


図1 各学類の教育課程（主専攻）に対する PBL プログラムの位置づけ

表1 各 PBL プログラムと想定される就職先

| 担当学類       | PBL プログラム名      | 想定される特徴的な就職先              | 関連 SDGs 等                                                                                                                                                                   |
|------------|-----------------|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 知識情報システム学類 | 1. ビジネスプレディクション | 経営コンサル                    |   |
|            | 2. 生産システム科学     | メーカー企業                    | 生産システムの最適化                                                                                                                                                                  |
|            | 3. ヘルスケア科学      | 保健福祉系 NPO、公務員             |                                                                                        |
|            | 4. サービスデザイン     | 起業家、経営コンサル                |                                                                                        |
|            | 5. 教育情報システムデザイン | 教育系 NPO、教員                | IT による教育環境向上                                                                                                                                                                |
|            | 6. 情報ネットワークシステム | 情報・通信系企業                  | 情報セキュリティ                                                                                                                                                                    |
| 環境社会システム学類 | 7. 環境学          | 公務員（環境技術職）、環境 NPO、環境コンサル  |   |
|            | 8. 地域再生         | 公務員（行政職）、地域活動 NPO、都市計画系企業 |                                                                                        |
|            | 9. 環境再生         | 公務員（環境技術職）、環境 NPO、環境コンサル  |   |
|            | 10. 企業と持続可能な社会  | 一般企業（CSR 部門）              |   |



|        |                         |                                     |                                                                                                                                                                             |
|--------|-------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | 11. 社会調査（資格系）           | 調査会社、マスコミ、NPO 法人、研究者                |                                                                                          |
|        | 12. 都市社会                | 公務員（行政職）、NPO 法人、教員                  |       |
|        | 13. 文化表象                | 公務員（行政職）、NPO 法人、国際機関                |                                                                                          |
|        | 14. 共生の思想               | 公務員（行政職）、NPO 法人、教員                  |       |
| 教育福祉学類 | 15. ESD-A（資格系）          | 中学・高等学校教員 国際関係機関                    |                                                                                          |
|        | 16. ESD-B（資格系）          | 中学・高等学校教員 国際関係機関                    |                                                                                          |
|        | 17. ジェンダー論              | 公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO 法人      |       |
|        | 18. コラボレーション            | 公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO 法人      |                                                                                          |
|        | 19. 地域および都市における排除・共生・参加 | 公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO 法人      | 地域・都市における万人支援                                                                                                                                                               |
|        | 20. 生涯学習と設計             | 公務員（行政職、福祉職、教育職）、NPO 法人             |                                                                                        |
| 心理学類   | 21. 生活環境と情報             | 公務員（行政職）、情報系企業                      | IT によるウェルビーイング                                                                                                                                                              |
|        | 22. 生きることと遊び            | 公務員（行政職）、地域活動 NPO                   | こころの病への対応・支援                                                                                                                                                                |
|        | 23. 教育保障                | 公務員（心理職・児童福祉職）、地域活動 NPO、教員、児童養護施設職員 |   |

（新旧対照表）

本審査意見 No. 2 と同じ。

#### 教育課程等の概要

| 新                    | 旧                    |
|----------------------|----------------------|
| 配当年次の変更              |                      |
| PBL 演習（生活環境と情報） 3 後  | PBL 演習（生活環境と情報） 3 通  |
| PBL 演習（生きることと遊び） 3 前 | PBL 演習（生きることと遊び） 3 通 |

(是正事項) 現代システム科学域

22. シラバスについて、授業内容や成績評価方法が不明確なものや、シラバス上、「半期開講科目は第 16 回まで、通年開講科目は第 31 回まで(試験を含む)」とシラバス上で指示されているが、そのような記載になっていないなど、不整合があるため、シラバスのチェック体制や作成方針を明らかにしてシラバス全体を検証の上、適切に修正すること。なお、1 年次に履修する科目のシラバスについては、新入生であることに留意し、わかりやすい記載となるよう留意すること。

(対応)

シラバスの作成については、新大学において全学的な方針が示されており、本方針に基づきシラバスの作成、点検を行っている。具体的には、本方針のとおりシラバスが作成されているか学類の教務担当教員がチェックした上で、方針どおりではない場合には担当教員に修正を求める。その後、教務担当職員が再度チェックし、方針通りでない場合には再度修正を指示する。なお、1 年次向け科目のシラバスは、高校生が読んで理解できるような記載となっているかどうかを学域内の教務準備委員会でチェックし、必要な箇所については修正を指示する。

このような体制、作成方針でシラバスを作成したところではあるが、提出したシラバスに不備なものが含まれているというご指摘を受けたので、教務準備委員会において以下について、再度検証し、修正を行った。

シラバス検証のための確認事項

- ・ 半期開講科目は第 15 回(試験のみの回を除く)まで、通年開講科目は第 30 回まで(試験のみの回を除く)記載されているか
- ・ 授業の目標が明確に記載されているか
- ・ 授業内容と時間外学習が毎回明確に記載されているか
- ・ 成績評価の方法が授業目標と対応しており、かつ、成績評価方法を学生が理解できるように記載されているか
- ・ 教科書及び参考書が記載されているか
- ・ そのほか、不備がないか

その上で、1 年次向け科目のシラバスは、高校生が読んで理解できるような記載となっているかどうかを学域内の教務準備委員会で検証した。

以上の検証により、全てのシラバスの修正を行った。

(改善事項) 現代システム科学域

23. 唯一の学域で、かつ、「融合領域での学び」を目指すこととしている本学域の教育課程について、幅広い学修を提供する観点から、他の学部所属の学生の履修を認めるのか説明すること。

(対応)

初年次前期の学域共通科目として設置する 4 科目「情報システムとサステナビリティ」「自然システムとサステナビリティ」「社会システムとサステナビリティ」「人間システムとサステナビリティ」については、他学部学生にも開放し、持続可能な社会の実現に対する融合領域の学びの重要性を全学的に学習してもらえる機会を提供する。

また、PBL プログラムでは、各学類の教育課程（主専攻）とは別に、サステナビリティに関わる 23 のテーマが設定されており、資料 3（PBL プログラム履修課程」に示すように、テーマごとに設定された基礎から応用に至る 4 科目 8 単位から成る科目を順次履修することで、そのテーマに関する基本的な課題を認識させる。そのうえで最終科目である PBL 演習（2 単位）では、他学類の学生が協働して課題解決を図る。このような PBL プログラムは、専門分野の異なる学生が一つの問題を協働して解決するということを目的としているので、23 のプログラムのうちのいくつかは全学に門戸を開き、そのような学習に強い意欲を持つ他学部生の履修を認める。他学部の学生の場合には、それぞれの所属学部の教務事務を通して、PBL プログラム履修志望書を提出したのち、現代システム科学域教育運営委員会（仮称）によって受講の可否を判断する。なお、通学するキャンパスが異なる場合には、講義科目ではオンライン履修を認めるなど配慮を行う。他学部学生が PBL プログラムを受講することは、大学卒業後に地域社会に貢献する即戦力を送り出すことにつながると考えている。

(新旧対照表)

本審査意見 No. 2 と同じ。

24. インターンシップについて、以下の点を説明すること。

- (1) 「海外インターンシップ」について、海外渡航するに当たって、例えば、文化適応など、共通的に留意しなければならない内容をシラバス等に分かりやすく記載すること。また、当該科目の指導体制について、教員及び事務局の組織的な運営や支援方策について説明すること。さらに、海外インターンシップ先との調整方法をどのように行うのかについて説明すること。
- (2) 「国内企業インターンシップ」について、具体的な内容や、インターンシップ先を確定するまでの手続、単位を与えるための評価方法などについて、説明すること。

(1)

(対応)

「海外インターンシップ」について、その授業概要を明確にするため、次の内容をシラバスの授業の概要に追記する。「海外インターンシップでは、現地学生と共同で持続可能な社会の構築に関する具体的課題に取り組むことになるが、現地における歴史・文化・宗教などを背景にした習慣や作法、禁忌行為などについて、派遣前のワークショップなどを通して十分に理解させる。」

「海外インターンシップ」では、タイのプリンスオブソンクラ大学プーケット校、ベトナムのベトナム国家大学ホーチミン校、カンボジアの王立プノンペン大学、スロベニアのリュブリャナ大学（いずれも協定校）に、各大学のインターンシップ担当者がそれぞれ学生数名を引率し、現地学生との共同によるワークショップやスタディーツアーを実施する。また、事前学習として国内で企画ワークショップを行うとともに、事後学習として報告会（プレゼンテーション）を行い、これらを総合して成績評価を行う。これらの運営に関しては、学域長を代表とし、担当教員4名、学域支援室2名、大学の国際交流担当者3名をメンバーとする海外インターンシップワーキンググループを設置し、定期的な会合を行って円滑な運営にあたる。

インターンシップ先はいずれも大阪府立大学との国際交流協定を締結している大学であり、双方の担当教員は日ごろから定期的な連絡を行っている。実際のインターンシップ時のプログラムについては教員間で事前にメールや必要であればオンライン会議を行い、プログラム期間中のスケジュールや学習内容、評価方法等について綿密な打ち合わせを行う。また、緊急時にも、王立プノンペン大学は、同校内に設置されている日本・カンボジア交流センターとの緊急連絡体制、緊急事案対応体制を、プリンスオブソンクラ大学プーケット校、ベトナム国家大学ホーチミン校、リュブリャナ大学は、各校内に設置されている国際交流室との緊急連絡体制、緊急事案対応体制をそれぞれ整えている。

(2)

(対応)

国内企業インターンシップでは、10日程度のインターンシップ先での実習と事前学習、報告会を行うことを原則としている。単位として認定されるインターンシップは、原則として、

大学のキャリアサポート部局を通じて申し込んだものとするが、教員の紹介や個人で探してきたものについても、学域教育運営委員会において、大学のキャリアサポート部局で提供しているインターンシッププログラムと同等であると承認された場合には、単位認定の対象とする場合がある。

具体的には、事前学習として大学のキャリアサポート部局が主催するビジネスマナー研修を受講し、インターンシップに参加する際の心構え、マナー講座、キャリアデザインなどについて学ぶ。その後、実際に 10 日間程度、企業や自治体等におけるインターンシップ実習を行う。インターンシップを終えた後は、インターンシップ時に記録したノートの整理及考察を行い、最終的にインターンシップ報告会にて成果発表を行う。成績の評価には、インターンシップ報告書およびインターンシップ報告会での発表を用いる。成績評価に占める割合は、インターンシップ報告書（60%）、インターンシップ報告会での発表（40%）とする。

（新旧対照表）

現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>（設置趣旨（本文）-78 ページ）</p> <p>1 1 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画</p> <p>ア 実習先の確保の状況</p> <p>本学域では、10 日間程度の国内企業インターンシップ（2 単位）と海外大学と連携して海外での実践実習を含む 10 日間程度の海外インターンシップ（2 単位）を行う。</p> <p><u>国内企業インターンシップでは、10 日程度のインターンシップ先での実習と事前学習、報告会を行うことを原則としている。単位として認定されるインターンシップは、原則として、大学のキャリアサポート部局を通じて申し込んだものとするが、教員の紹介や個人で探してきたものについても、学域教育運営委員会において、大学のキャリアサポート部局で提供しているインターンシッププログラムと同等であると承認された場合には、単位認定の対象とする場合がある。</u></p> <p><u>海外インターンシップは、ベトナムのベトナム国家大学ホーチミン市校（受け入れ人数 10 名）、タイのプリンスオブソンクラ大学プーケット校（受け入れ人数 10 名）、カンボジ</u></p> | <p>（48 ページ）</p> <p>1 1 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画</p> <p>ア 実習先の確保の状況</p> <p>本学域では、10 日間程度の国内企業インターンシップ（2 単位）と海外大学と連携して海外での実践実習を含む 10 日間程度の海外インターンシップ（2 単位）を行う。<u>国内企業インターンシップは、本学キャリア支援部門、各種企業団体のホームページなどに掲載された募集案内などから学生が自主的に応募し、採用が決定された後に受講申請をする。海外インターンシップは、ベトナムのベトナム国家大学ホーチミン市校（受け入れ人数 10 名）、タイのプリンスオブソンクラ大学プーケット校（受け入れ人数 10 名）、カンボジアの王立プノンペン大学（受け入れ人数 10 名）、スロベニアのリュブリャナ大学（受け入れ人数 5 名）の 4 つの実習先を予定しており、20 名程度の受講生があると想定されるため、十分な実習先が確保できている。（資料 3-1 実習施設一覧参照）</u></p> |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>アの王立プノンペン大学（受け入れ人数 10 名）、スロベニアのリュブリャナ大学（受け入れ人数 5 名）の 4 つの実習先を予定しており、20 名程度の受講生があると想定されるため、十分な実習先が確保できている（資料 3-1 実習施設一覧参照）。</p> <p>イ 実習先との連携体制</p> <p>国内企業のインターンシップにおいては、本学キャリア支援部門の担当者が実習指導者と実習内容を相談し、必要な事前指導を学内で行う体制を敷いている。なお、企業が学生を受け入れている間は、定期的なメール報告等により、実習における指導の方針など、実習が適切に行われるよう当該企業と連携する。また、学生には、「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」及び「学研災付帯賠償責任保険（インターン賠）」に加入させ、実習先での事故などに備えさせる。</p> <p>海外インターンシップ先はいずれも大阪府立大学との国際交流協定を締結している大学であり、双方の担当教員は日ごろから定期的な連絡を行っている。実際のインターンシップ時のプログラムについては教員間で事前にメールや必要であればオンライン会議を行い、プログラム期間中のスケジュールや学習内容、評価方法等について綿密な打ち合わせを行う。また、緊急時にも、王立プノンペン大学は、同校内に設置されている日本・カンボジア交流センターとの緊急連絡体制、緊急事案対応体制を、プリンスオブソンクラ大学プーケット校、ベトナム国家大学ホーチミン校、リュブリャナ大学は、各校内に設置されている国際交流室との緊急連絡体制、緊急事案対応体制をそれぞれ整えている。</p> <p>ウ 成績評価体制及び単位認定方法</p> <p>国内企業インターンシップでは、事前学習</p> | <p>イ 実習先との連携体制</p> <p>国内企業のインターンシップにおいては、本学キャリア支援部門の担当者が実習指導者と実習内容を相談し、必要な事前指導を学内で行う体制を敷いている。<u>海外インターンシップにおいては、4 つの実習校に対して各 1 名の担当教員を配置し、連携先実習大学と実習スケジュール及び実習内容を相談の上、実習を行う体制をとっている。</u>なお、企業が学生を受け入れている間は、定期的なメール報告等により、実習における指導の方針など、実習が適切に行われるよう当該企業と連携する。また、学生には、「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」及び「学研災付帯賠償責任保険（インターン賠）」に加入させ、実習先での事故などに備えさせる。</p> <p>ウ 成績評価体制及び単位認定方法</p> <p>実習の評価と単位認定は、各実習分野の実</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| <p>として大学のキャリアサポート部局が主催するビジネスマナー研修を受講し、インターンシップに参加する際の心構え、マナー講座、キャリアデザインなどについて学ぶ。その後、実際に 10 日間程度、企業や自治体等におけるインターンシップ実習を行う。インターンシップを終えた後は、インターンシップ時に記録したノートの整理および考察を行い、最終的にインターンシップ報告会にて成果発表を行う。成績の評価には、インターンシップ報告書およびインターンシップ報告会での発表を用いる。成績評価に占める割合は、インターンシップ報告書（60%）、インターンシップ報告会での発表（40%）とする。</p> <p>海外インターンシップでは、事前学習として国内で企画ワークショップを行うとともに、事後学習として報告会（プレゼンテーション）を行い、これらを総合して成績評価を行う。これらの運営に関しては、学域長を代表とし、担当教員 4 名、学域支援室 2 名、および大学の国際交流担当者 3 名部署をメンバーとする海外インターンシップワーキンググループを設置し、定期的な会合を行って円滑な運営にあたる。</p> | <p><u>習目的と実習目標を基盤として、実習報告書及び実習発表会での発表内容をもとに実習担当教員が複数で行う。</u></p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|



(是正事項) 現代システム科学域

25. 学域の「教育課程の概要及び特色」において、「入学時の文理を問わず、数学、統計学、化学、生物学、英語、初修外国語にそれぞれ必修科目」を設けるとあるが、教育課程の概要等の卒業要件及び履修方法の項の説明では、例えば、社会共生科学課程においては、数学が必修となっておらず、整合していないと見受けられるため、どのようにこれらの科目の履修が担保されているのか、明確にすること。

(対応)

ご指摘のように、学域の「教育課程の概要及び特色」において、「入学時の文理を問わず、数学、統計学、化学、生物学、英語、初修外国語にそれぞれ必修科目を設け」と記載していたが、記載ミスであり、実際には化学は課さず、生物学は選択科目としている。記載内容を「入学時の文理を問わず、数学、統計学、英語、初修外国語にそれぞれ必修科目を設け」に修正する。

また、環境社会システム学類に関しては、以下に示す審査意見を受けて、課程を廃止することとした。

(是正事項) 現代システム科学域 環境社会システム学類

1. 環境社会システム学類に、環境共生科学課程と社会共生科学課程の2つの課程が設置され、それぞれ、自然科学と社会科学の内容に重きが置かれているように見受けられるが、異なる2つの課程に分けることと、養成する人材像に掲げる「領域横断的知識・技能とシステムの思考を発揮し、課題解決を図ることによって、サステイナブルな社会の実現に貢献できる人材を育てる」こととの整合性が不明確であるため、明確にすること。

この改定に伴い、各学類で求められる数学レベルに合わせ、知識情報システム学類では、「微積分 1A」、「線形代数 1」、「線形代数 2A」を含む6単位以上、心理学類では、文系出身学生に対して「数学リテラシー1」、「数学リテラシー2」を4単位、理系出身学生に対して「線形代数 1」「線形代数 2A」を4単位、環境社会システム学類と教育福祉学類では、文系出身学生に対して「数学リテラシー1」「数学リテラシー2」から2単位以上、理系出身学生に対して「線形代数 1」「線形代数 2A」から2単位以上が履修要件となるように履修課程を改めた。

また、本審査意見No.13において記載した通り、現代システム科学域は、「持続可能な社会の実現に貢献できる人材」の育成を目標として設置される学域であり、現代社会の分析や未来社会の想定のためには、文理を問わず数値データを可視化する技能や複数のデータ間の関連性を分析する技能などの基本的なデータサイエンスの技能が必須であると考えているため、本学域では学域の共通のディプロマ・ポリシーとして、「(データ活用力) データを収集・活用することのできる知識・技能を用いて、事象を分析・説明することができる」を掲げ、それを実現するためのすべての学類で統計学を必修科目として設定している。

なお、知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類の3学類では、基礎教育科目の「統計学基礎 1」「統計学基礎 2」を、心理学類では学類専門科目の「心理学統計法 1」、「心理学統計法 2」をそれぞれ必修科目として履修させることとしている。

(参考)

教育課程等の概要（抜粋）

【知識情報システム学類】

| 科目<br>区分 | 授業科目の名称               | 配当年次       | 単位数  |    |    | 授業形態 |    |       | 専任教員等の配置 |     |    |    |    | 備考  |                |   |
|----------|-----------------------|------------|------|----|----|------|----|-------|----------|-----|----|----|----|-----|----------------|---|
|          |                       |            | 必修   | 選択 | 自由 | 講義   | 演習 | 実験・実習 | 教授       | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 |     |                |   |
| 基幹教育科目   | 別紙 教育課程等の概要（基幹教育科目）参照 |            |      |    |    |      |    |       |          |     |    |    |    |     |                |   |
|          | 基礎教育科目                | 数学リテラシー1   | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼19 | FDCのみ対象        |   |
|          |                       | 数学リテラシー2   | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼19 | FDCのみ対象        |   |
|          |                       | 微積分1A      | 2前   | 2  |    |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼26 |                |   |
|          |                       | 微積分2       | 2後   |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼33 |                |   |
|          |                       | 線形代数1      | 1前   | 2  |    |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼30 |                |   |
|          |                       | 線形代数2A     | 1後   | 2  |    |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼28 |                |   |
|          |                       | 統計学基礎1     | 1前   | 2  |    |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼24 |                |   |
|          |                       | 統計学基礎2     | 1後   | 2  |    |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼27 |                |   |
|          |                       | 生物学B       | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼4  | FDCのみ対象        |   |
|          |                       | プログラミング入門A | 1後   | 2  |    |      |    | ○     |          |     |    |    |    | 兼12 | ※講義            |   |
|          |                       | プログラミング入門B | 1前・後 |    | 2  |      |    | ○     |          |     |    |    |    | 兼5  | ※講義<br>FDCのみ対象 |   |
|          |                       | 小計（11科目）   | —    | 12 | 10 | 0    |    | —     |          | 0   | 0  | 0  | 0  | 0   | 兼72            | — |

【環境社会システム学類】

| 科目<br>区分 | 授業科目の名称               | 配当年次       | 単位数  |    |    | 授業形態 |    |       | 専任教員等の配置 |     |    |    |    | 備考 |     |                |
|----------|-----------------------|------------|------|----|----|------|----|-------|----------|-----|----|----|----|----|-----|----------------|
|          |                       |            | 必修   | 選択 | 自由 | 講義   | 演習 | 実験・実習 | 教授       | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 |    |     |                |
| 基幹教育科目   | 別紙 教育課程等の概要（基幹教育科目）参照 |            |      |    |    |      |    |       |          |     |    |    |    |    |     |                |
|          | 基礎教育科目                | 数学リテラシー1   | 1前   |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼19 |                |
|          |                       | 数学リテラシー2   | 1後   |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼19 |                |
|          |                       | 線形代数1      | 1前   |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼30 |                |
|          |                       | 線形代数2A     | 1後   |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼28 |                |
|          |                       | 統計学基礎1     | 1前   | 2  |    |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼24 |                |
|          |                       | 統計学基礎2     | 1後   | 2  |    |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼27 |                |
|          |                       | プログラミング入門B | 1後   |    | 2  |      |    | ○     |          |     |    |    |    |    | 兼5  | ※講義            |
|          |                       | 微積分1A      | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼26 |                |
|          |                       | 微積分2       | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼33 |                |
|          |                       | 生物学B       | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼4  | FDCのみ対象        |
|          |                       | プログラミング入門A | 1前・後 |    | 2  |      |    | ○     |          |     |    |    |    |    | 兼12 | ※講義<br>FDCのみ対象 |
|          |                       | 小計（11科目）   | —    | 4  | 18 | 0    | —  |       |          | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 兼72 | —              |

【教育福祉学類】

| 科目<br>区分 | 授業科目の名称               | 配当年次       | 単位数  |    |    | 授業形態 |    |       | 専任教員等の配置 |     |    |    |    | 備考  |                |
|----------|-----------------------|------------|------|----|----|------|----|-------|----------|-----|----|----|----|-----|----------------|
|          |                       |            | 必修   | 選択 | 自由 | 講義   | 演習 | 実験・実習 | 教授       | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 |     |                |
| 基幹教育科目   | 別紙 教育課程等の概要（基幹教育科目）参照 |            |      |    |    |      |    |       |          |     |    |    |    |     |                |
|          | 基礎教育科目                | 数学リテラシー1   | 1前   |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼19 |                |
|          |                       | 数学リテラシー2   | 1後   |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼19 |                |
|          |                       | 統計学基礎1     | 1前   | 2  |    |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼24 |                |
|          |                       | 統計学基礎2     | 1後   | 2  |    |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼27 |                |
|          |                       | 微積分1A      | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼26 | FDCのみ対象        |
|          |                       | 微積分2       | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼33 | FDCのみ対象        |
|          |                       | 線形代数1      | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼30 | FDCのみ対象        |
|          |                       | 線形代数2A     | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼28 | FDCのみ対象        |
|          |                       | 生物学B       | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    | 兼4  | FDCのみ対象        |
|          |                       | プログラミング入門A | 1前・後 |    | 2  |      |    | ○     |          |     |    |    |    | 兼12 | ※講義<br>FDCのみ対象 |
|          |                       | プログラミング入門B | 1前・後 |    | 2  |      |    | ○     |          |     |    |    |    | 兼5  | ※講義<br>FDCのみ対象 |
|          |                       | 小計（11科目）   | －    | 4  | 18 | 0    | －  |       |          | 0   | 0  | 0  | 0  | 0   | 兼72            |

【心理学類】

| 科目<br>区分 | 授業科目の名称               | 配当年次       | 単位数  |    |    | 授業形態 |    |       | 専任教員等の配置 |     |    |    |    | 備考 |     |                                                         |
|----------|-----------------------|------------|------|----|----|------|----|-------|----------|-----|----|----|----|----|-----|---------------------------------------------------------|
|          |                       |            | 必修   | 選択 | 自由 | 講義   | 演習 | 実験・実習 | 教授       | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 |    |     |                                                         |
| 基幹教育科目   | 別紙 教育課程等の概要（基幹教育科目）参照 |            |      |    |    |      |    |       |          |     |    |    |    |    |     |                                                         |
|          | 基礎教育科目                | 数学リテラシー1   | 1前   |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼19 | FDCのみ対象<br>※講義<br><br>※講義<br><br><br>FDCのみ対象<br>FDCのみ対象 |
|          |                       | 数学リテラシー2   | 1後   |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼19 |                                                         |
|          |                       | 線形代数1      | 1前   |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼30 |                                                         |
|          |                       | 線形代数2A     | 1後   |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼28 |                                                         |
|          |                       | 生物学B       | 1後   |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼4  |                                                         |
|          |                       | プログラミング入門A | 1前・後 |    | 2  |      |    | ○     |          |     |    |    |    |    | 兼12 |                                                         |
|          |                       | プログラミング入門B | 1後   |    | 2  |      |    | ○     |          |     |    |    |    |    | 兼5  |                                                         |
|          |                       | 微積分1A      | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼26 |                                                         |
|          |                       | 微積分2       | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼33 |                                                         |
|          |                       | 統計学基礎1     | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼24 |                                                         |
|          |                       | 統計学基礎2     | 1前・後 |    | 2  |      | ○  |       |          |     |    |    |    |    | 兼27 |                                                         |
|          |                       | 小計（11科目）   | －    | 0  | 22 | 0    | －  |       |          | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 兼72 |                                                         |

## (新旧対照表)

## 教育課程等の概要

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ((補正後) 教育課程-8 ページ)<br>卒業要件及び履修方法<br>知識情報システム学類 学士 (情報学)<br><b>【卒業要件】</b><br>履修方法に示す 1 および 2 の履修により、<br>131 単位以上修得すること<br><br><b>【履修方法】</b><br>1. 基幹教育科目<br>(1)総合教養科目 10 単位<br>(2)初年次教育科目 2 単位<br>(3)情報リテラシー科目 2 単位<br>(4)外国語科目<br>英語 6 単位<br>初修外国語 2 単位<br>(5)健康・スポーツ科学科目 3 単位<br><br>上記(1)～(5)の科目区分より、指定した 25 単<br>位を含む 35 単位以上修得すること<br><br>(6)基礎教育科目 12 単位以<br>上 (必修 12 単位を含む)<br><br>2. 専門科目<br>(1)学域共通科目 12 単位以上 (必修 10<br>単位を含む)<br>(2)学類基盤科目 26 単位以上 (必修 26<br>単位を含む)<br>(3)学類専門科目 30 単位以上<br>(4)PBL プログラム科目 2 単位以<br>上 (選択 2 単位を含む)<br><br>※2 単位を含む PBL プログラム (別紙<br>「現代システム科学域 PBL 履修課程」参<br>照) を 1 つ以上修了すること | (9 ページほか)<br>卒業要件及び履修方法<br>知識情報システム学類 学士 (情報学)<br><b>【卒業要件】</b><br>履修方法に示す 1 および 2 の履修により、<br>131 単位以上修得すること<br><br><b>【履修方法】</b><br>1. 基幹教育科目<br>(1)総合教養科目 10 単位<br>(2)初年次教育科目 2 単位<br>(3)情報リテラシー科目 2 単位<br>(4)外国語科目<br>英語 6 単位<br>初修外国語 2 単位<br>(5)健康・スポーツ科学科目 3 単位<br><br>上記(1)～(5)の科目区分より、指定した 25 単<br>位を含む 35 単位以上修得すること<br><br>(6)基礎教育科目 12 単位<br>(必修 12 単位)<br><br>2. 専門科目<br>(1)学域共通科目 12 単位 (必修 6 単位<br>選択 6 単位以上)<br>(2)学類基盤科目 26 単位 (必修 26 単<br>位)<br>(3)学類専門科目 44 単位以上 (選択 44<br>単位以上)<br>(4)PBL 科目 2 単位 (選択 2 単<br>位)<br><br>※PBL 科目については、選択必修 2 単<br>位を含む PBL コース (別紙「現代システム<br>科学域 PBL 履修課程」参照) を 1 コース以<br>上修了すること |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------|------------|------|--------------|------|----------|--|----|------|-------|------|----------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------|------------|------|--------------|------|----------|--|----|------|-------|------|----------------|------|
| <p>※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち</p> <p>総合教養科目は総合教養科目として<br/>         自学類専門科目は自学類専門科目として</p> <p>他学類専門科目は PBL プログラム科目としてそれぞれ卒業要件単位に算入する。</p> <p>上記 1(6)および 2(1)～(4)の科目区分より、指定した 82 単位を含む 96 単位以上修得すること</p> <p>【履修科目の上限単位数の設定】<br/>         年間 50 単位未満、前期 25 単位以下、後期 25 単位以下とする</p> <p>環境社会システム学類 学士(環境社会システム学)</p> <p>【卒業要件】<br/>         履修方法に示す 1 および 2 の履修により、131 単位以上修得すること</p> <p>【履修方法】</p> <p>1. 基幹教育科目</p> <table border="0"> <tr> <td>(1)総合教養科目</td> <td>10 単位</td> </tr> <tr> <td>(2)初年次教育科目</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>(3)情報リテラシー科目</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>(4)外国語科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    英語</td> <td>6 単位</td> </tr> <tr> <td>    初修外国語</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>(5)健康・スポーツ科学科目</td> <td>3 単位</td> </tr> </table> <p>上記(1)～(5)の科目区分より、指定した 25 単位を含む 35 単位以上修得すること</p> <p>(6)基礎教育科目 6 単位以上 (必修 4 単位を含む)</p> <p>※高校での数学履修状況に応じて、数学リテラシー1 もしくは、線形代数 1 のどちら</p> | (1)総合教養科目 | 10 単位 | (2)初年次教育科目 | 2 単位 | (3)情報リテラシー科目 | 2 単位 | (4)外国語科目 |  | 英語 | 6 単位 | 初修外国語 | 2 単位 | (5)健康・スポーツ科学科目 | 3 単位 | <p>※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち本表に含まれない科目は PBL 科目として単位を認定する</p> <p>上記 1(6)および 2(1)～(4)の科目区分より、指定した 96 単位以上修得すること</p> <p>【履修科目の上限単位数の設定】<br/>         年間 50 単位未満、前期 25 単位以下、後期 25 単位以下とする</p> <p>環境社会システム学類 学士(環境社会システム学)</p> <p>【卒業要件】<br/>         履修方法に示す 1 および 2 の履修により、131 単位以上修得すること</p> <p>【履修方法】</p> <p>1. 基幹教育科目</p> <table border="0"> <tr> <td>(1)総合教養科目</td> <td>10 単位</td> </tr> <tr> <td>(2)初年次教育科目</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>(3)情報リテラシー科目</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>(4)外国語科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    英語</td> <td>6 単位</td> </tr> <tr> <td>    初修外国語</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>(5)健康・スポーツ科学科目</td> <td>3 単位</td> </tr> </table> <p>上記(1)～(5)の科目区分より、指定した 25 単位を含む 35 単位以上修得すること</p> <p>(6)基礎教育科目</p> <p>・環境共生課程 8 単位 (必修 4 単位 選択 4 単位以上)</p> <p>※高校での数学履修状況に応じて、数</p> | (1)総合教養科目 | 10 単位 | (2)初年次教育科目 | 2 単位 | (3)情報リテラシー科目 | 2 単位 | (4)外国語科目 |  | 英語 | 6 単位 | 初修外国語 | 2 単位 | (5)健康・スポーツ科学科目 | 3 単位 |
| (1)総合教養科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 10 単位     |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |
| (2)初年次教育科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 2 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |
| (3)情報リテラシー科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 2 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |
| (4)外国語科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |
| 英語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 6 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |
| 初修外国語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 2 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |
| (5)健康・スポーツ科学科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 3 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |
| (1)総合教養科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 10 単位     |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |
| (2)初年次教育科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 2 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |
| (3)情報リテラシー科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 2 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |
| (4)外国語科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |
| 英語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 6 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |
| 初修外国語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 2 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |
| (5)健康・スポーツ科学科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 3 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>らかを選択必修</p> <p>2. 専門科目</p> <p>(1)学域共通科目      12 単位以上 (必修 10 単位を含む)</p> <p>(2)学類基盤科目      16 単位以上 (必修 6 単位を含む)</p> <p>(3)学類専門科目      32 単位以上 (必修 6 単位を含む)</p> <p>(4)PBL プログラム科目      2 単位以上 (選択 2 単位を含む)</p> <p>※2 単位を含む PBL プログラム (別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」参照) を 1 つ以上修了すること</p> <p>※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち<br/>総合教養科目は総合教養科目として<br/>自学類専門科目は自学類専門科目として<br/>他学類専門科目は PBL プログラム科目としてそれぞれ卒業要件単位に算入する。</p> <p>上記 1(6)および 2(1)～(4)の科目区分より、指定した 68 単位を含む 96 単位以上修得すること</p> <p>【履修科目の上限単位数の設定】<br/>年間 50 単位未満、前期 25 単位以下、後期 25 単位以下とする</p> | <p>学リテラシー1、2 もしくは、線形代数 1、2A のどちらかを選択必修</p> <p>・社会共生課程 6 単位 (必修 4 単位 選択 2 単位以上)</p> <p>2. 専門科目</p> <p>(1)学域共通科目      12 単位 (必修 6 単位 選択 6 単位以上)</p> <p>(2)学類基盤科目      18 単位 (必修 6 単位 選択 12 単位以上)</p> <p>(3)学類専門科目</p> <p>・環境共生科学課程専門科目<br/>30 単位 (必修 6 単位 選択 24 単位以上)</p> <p>・社会共生科学課程専門科目<br/>30 単位 (必修 4 単位 選択 26 単位以上)</p> <p>(4)PBL 科目      2 単位 (選択 2 単位)</p> <p>※PBL 科目については、選択必修 2 単位を含む PBL コース (別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」参照) を 1 コース以上修了すること</p> <p>※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち本表に含まれない科目は PBL 科目として単位を認定する</p> <p>上記 1(6)および 2(1)～(4)の科目区分より、指定した単位 (環境共生科学課程 70 単位、社会共生科学課程 68 単位) を含む 96 単位以上修得すること</p> <p>【履修科目の上限単位数の設定】<br/>年間 50 単位未満、前期 25 単位以下、後期 25 単位以下とする</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

教育福祉学類 学士（教育福祉学）

【卒業要件】

履修方法に示す 1 および 2 の履修により、  
131 単位以上修得すること

【履修方法】

1. 基幹教育科目

|                |       |
|----------------|-------|
| (1)総合教養科目      | 10 単位 |
| (2)初年次教育科目     | 2 単位  |
| (3)情報リテラシー科目   | 2 単位  |
| (4)外国語科目       |       |
| 英語             | 6 単位  |
| 初修外国語          | 2 単位  |
| (5)健康・スポーツ科学科目 | 3 単位  |

上記(1)～(5)の科目区分より、指定した 25 単位を含む 35 単位以上修得すること

(6)基礎教育科目 6 単位以上（必修 4 単位を含む）

※高校での数学履修状況に応じて、数学リテラシー1 もしくは、線形代数 1 のどちらかを選択必修

2. 専門科目

(1)学域共通科目 12 単位以上（必修 10 単位を含む）

(2)学類基盤科目 20 単位以上（必修 12 単位を含む）

※教育福祉学 A もしくは教育福祉学 B のどちらかを選択必修

※保育学概論もしくはジェンダーと社会のどちらかを選択必修

(3)学類専門科目 30 単位以上

(4)PBL プログラム科目 2 単位以上（選択 2 単位を含む）

※2 単位を含む PBL プログラム（別紙

教育福祉学類 学士（教育福祉学）

【卒業要件】

履修方法に示す 1 および 2 の履修により、  
131 単位以上修得すること

【履修方法】

1. 基幹教育科目

|                |       |
|----------------|-------|
| (1)総合教養科目      | 10 単位 |
| (2)初年次教育科目     | 2 単位  |
| (3)情報リテラシー科目   | 2 単位  |
| (4)外国語科目       |       |
| 英語             | 6 単位  |
| 初修外国語          | 2 単位  |
| (5)健康・スポーツ科学科目 | 3 単位  |

上記(1)～(5)の科目区分より、指定した 25 単位を含む 35 単位以上修得すること

(6)基礎教育科目 4 単位以上（必修 4 単位以上）

2. 専門科目

(1)学域共通科目 12 単位（必修 6 単位選択 6 単位以上）

(2)学類基盤科目 18 単位（必修 12 単位選択 6 単位以上）

(3)学類専門科目 14 単位（必修 2 単位選択 12 単位以上）

(4)PBL 科目 2 単位（選択 2 単位）



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------|------------|------|--------------|------|----------|--|----|------|-------|------|----------------|------|-----------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------|------------|------|--------------|------|----------|--|----|------|-------|------|----------------|------|-----------|-----|
| <p>「現代システム科学域 PBL 履修課程」参照）を1つ以上修了すること</p> <p>※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち<br/> 総合教養科目は総合教養科目として<br/> 自学類専門科目は自学類専門科目として<br/> 他学類専門科目は PBL プログラム科目としてそれぞれ卒業要件単位に算入する。</p> <p>上記1(6)および2(1)～(4)の科目区分より、指定した 68 単位を含む 96 単位以上修得すること</p> <p>【履修科目の上限単位数の設定】<br/> 年間 50 単位未満、前期 25 単位以下、後期 25 単位以下とする</p> <p>心理学類 学士（心理学）<br/> 【卒業要件】<br/> 履修方法に示す1および2の履修により、131 単位以上修得すること</p> <p>【履修方法】<br/> 1. 基幹教育科目</p> <table border="0"> <tr> <td>(1)総合教養科目</td> <td>10 単位</td> </tr> <tr> <td>(2)初年次教育科目</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>(3)情報リテラシー科目</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>(4)外国語科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>6 単位</td> </tr> <tr> <td>初修外国語</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>(5)健康・スポーツ科学科目</td> <td>3 単位</td> </tr> </table> <p>上記(1)～(5)の科目区分より、指定した 25 単位を含む 35 単位以上修得すること</p> <table border="0"> <tr> <td>(6)基礎教育科目</td> <td>4 単</td> </tr> </table> | (1)総合教養科目 | 10 単位 | (2)初年次教育科目 | 2 単位 | (3)情報リテラシー科目 | 2 単位 | (4)外国語科目 |  | 英語 | 6 単位 | 初修外国語 | 2 単位 | (5)健康・スポーツ科学科目 | 3 単位 | (6)基礎教育科目 | 4 単 | <p>※PBL 科目については、選択必修 2 単位を含む PBL コース（別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」参照）を1コース以上修了すること</p> <p>※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち本表に含まれない科目は PBL 科目として単位を認定する</p> <p>上記1(6)および2(1)～(4)の科目区分より、指定した 50 単位を含む 96 単位以上修得すること</p> <p>【履修科目の上限単位数の設定】<br/> 年間 50 単位未満、前期 25 単位以下、後期 25 単位以下とする</p> <p>心理学類 学士（心理学）<br/> 【卒業要件】<br/> 履修方法に示す1および2の履修により、131 単位以上修得すること</p> <p>【履修方法】<br/> 1. 基幹教育科目</p> <table border="0"> <tr> <td>(1)総合教養科目</td> <td>10 単位</td> </tr> <tr> <td>(2)初年次教育科目</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>(3)情報リテラシー科目</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>(4)外国語科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>6 単位</td> </tr> <tr> <td>初修外国語</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>(5)健康・スポーツ科学科目</td> <td>3 単位</td> </tr> </table> <p>上記(1)～(5)の科目区分より、指定した 25 単位を含む 35 単位以上修得すること</p> <table border="0"> <tr> <td>(6)基礎教育科目</td> <td>4 単</td> </tr> </table> | (1)総合教養科目 | 10 単位 | (2)初年次教育科目 | 2 単位 | (3)情報リテラシー科目 | 2 単位 | (4)外国語科目 |  | 英語 | 6 単位 | 初修外国語 | 2 単位 | (5)健康・スポーツ科学科目 | 3 単位 | (6)基礎教育科目 | 4 単 |
| (1)総合教養科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 10 単位     |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| (2)初年次教育科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 2 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| (3)情報リテラシー科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 2 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| (4)外国語科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| 英語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 6 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| 初修外国語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 2 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| (5)健康・スポーツ科学科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 3 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| (6)基礎教育科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 4 単       |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| (1)総合教養科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 10 単位     |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| (2)初年次教育科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 2 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| (3)情報リテラシー科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 2 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| (4)外国語科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| 英語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 6 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| 初修外国語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 2 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| (5)健康・スポーツ科学科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 3 単位      |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |
| (6)基礎教育科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 4 単       |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |           |       |            |      |              |      |          |  |    |      |       |      |                |      |           |     |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>位以上（選択必修 4 単位を含む）</p> <p>※高校での数学履修状況に応じて、数学リテラシー1、2 もしくは、線形代数 1、2A のどちらかを選択必修</p> <p>2. 専門科目</p> <p>(1)学域共通科目      12 単位以上（必修 10 単位を含む）</p> <p>(2)学類専門科目      48 単位以上（必修 30 単位を含む）</p> <p>    学類関連科目      10 単位以上</p> <p>(3)PBL プログラム科目      2 単位以上（選択 2 単位を含む）</p> <p>    ※2 単位を含む PBL プログラム（別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」参照）を 1 つ以上修了すること</p> <p>    ※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち</p> <p>        総合教養科目は総合教養科目として</p> <p>        自学類専門科目は自学類専門科目として</p> <p>        他学類専門科目は PBL プログラム科目として</p> <p>        それぞれ卒業要件単位に算入する。</p> <p>上記 1(6)および 2(1)～(3)の科目区分より、指定した 76 単位を含む 96 単位以上修得すること</p> <p>【履修科目の上限単位数の設定】</p> <p>年間 50 単位未満、前期 25 単位以下、後期 25 単位以下とする</p> | <p>位</p> <p>※高校での数学履修状況に応じて、数学リテラシー1、2 もしくは、線形代数 1、2A のどちらかを選択必修</p> <p>2. 専門科目</p> <p>(1)学域共通科目      12 単位（必修 6 単位を含む）</p> <p>(2)学類専門科目      48 単位（必修 30 単位を含む）</p> <p>(3)PBL 科目      2 単位（選択 2 単位を含む）</p> <p>    ※PBL 科目については、選択必修 2 単位を含む PBL コース（別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」参照）を 1 コース以上修了すること</p> <p>    ※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち本表に含まれない科目は PBL 科目として単位を認定する</p> <p>上記 1(6)および 2(1)～(3)の科目区分より、指定した 66 単位を含む 96 単位以上修得すること</p> <p>【履修科目の上限単位数の設定】</p> <p>年間 50 単位未満、前期 25 単位以下、後期 25 単位以下とする</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

26. 入学者選抜の方法や試験科目が多様な設定となっているが、各学類の科目の履修の前提となる基礎学力としてどのようなものを設定しているのか不明確である。また、異なる学力の学生に対して、多様な教育課程の履修を行うことができるのか不明確であるため、学修支援の方策を含め、明確にすること。なお、「学校推薦型」では一定規模の定員が設定されている学類もあり、「一般前期」などの基礎学力を問う方式と比べ、入学者選抜が適切に機能するのか不明確であるため、「小論文・面接」の方法で基礎学力の確認をどのように行えるのか明確にすること。

(対応)

各学類において、一般前期入試における大学共通テストおよび個別学力検査で課している科目は表 1 のとおりである。このように、特に数学では、知識情報システム学類が数Ⅲまで、環境社会システム学類と心理学類が数Ⅱまで、教育福祉学類が数Ⅰまでをそれぞれ入試段階で課しており、各学類の履修に必要な基礎学力の確認を行っている。なお、個別学力検査で唯一小論文を課している教育福祉学類では、教育福祉学に関わる日本語の長文を提示し、それを読解し、思考する総合問題を出题する。

学校推薦型選抜においては、知識情報システム学類は表 1 と同様の科目の大学共通テストを課しており基礎学力の確認を行っている、またそれ以外の学類は大学共通テストを課さず、代わりに出願資格を『調査書の全体の評定平均値が 4.0 (5 点満点) 以上で、かつ「外国語、英語のいずれかの 1 教科」及び「国語、地理歴史、公民、理科、数学、理数のいずれかの 2 教科」の 3 教科の評定平均値の平均が 4.2 以上の者』としており、外国語の基礎学力については評定平均により確認できる。また筆記試験では、図表によるデータ表現を含んだ日本語の長文を提示し、それを読解し、思考する総合問題を小論文として出题する。

なお、一般前期の教育福祉学類や、学校推薦型の環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類のように、小論文を課す入試においては、学域全体で策問委員会を組織し、基礎学力が確認できるようにしている。以上のように、文系型、理系型、学校推薦型等多様な入試で入学した学生でも、情報学、自然科学、人文・社会科学、人間科学の基礎を学習できる素養を持っていることを入学段階で確認している。また、全学の入試ガイドの見直しに伴い、これまで「口頭試問・面接」と表記していたものを、帰国生徒特別選抜は「口述試験・面接」、それ以外はすべて「面接」で統一することとした。

入学後は、文理異なる入試を経て入学してきた学生に対しても、多様な教育課程の履修を行うために必要な基礎学問レベルを身につけさせる。数学に関しては、知識情報システム学類は「統計学基礎 1・2」「線形代数 1・2A」「微積分学 1A」の 5 科目を、環境社会システム学類と教育福祉学類は「統計学基礎 1・2」と文系出身学生に対して「数学リテラシー1」、理系出身学生に対して「線形代数 1」の 3 科目を、心理学理は「心理学統計法 1・2」と文系出身学生に対して「数学リテラシー1・2」、理系出身学生に対して「線形代数 1・2A」の 4 科目をそれぞれ必修とし、その後の履修に必要な基礎学力を養う。さらに、数学教員による質問受付室を毎日開講して、学習に遅れが生じないように支援する。数学以外に関しては、語学 8 単位以上履修することを要件としていることに加えて、理科については学生が自ら復習する

ためのリメディアル教材を用意して支援している。このような基礎学力が多様な学びに必要なことは、初年次に学域共通科目として配置されている各学類の概論科目の中で十分理解させる。

表 1 各学類の一般前期入試における大学共通テストおよび個別学力試験に課す科目

| 学類         | 入試型    | 共通テスト科目                                                                                                                        | 個別学力検査科目                                     |
|------------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 知識情報システム学類 | 英・数型   | 国（国）<br>社（世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1）<br>数（数Ⅰ・数Aと、数Ⅱ・数B、簿、情報から1）<br>理（物、化、生、地から2）<br>外（英、独、仏、中、韓から1）                  | 数（数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B）<br>外（英）                    |
| 環境社会システム学類 | 英・国型   | 国（国）<br>社（世B、日B、地理Bから1、現社、倫、政経、倫・政経から1）<br>数（数Ⅰ・数Aと、数Ⅱ・数B、簿、情報から1）<br>理（物基、化基、生基、地基から2、又は物、化、生、地から1）<br>外（英、独、仏、中、韓から1）        | 国（国語総合・現代文B）<br>外（英）                         |
|            | 理・数型   | 国（国）<br>社（世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1）<br>数（数Ⅰ・数Aと、数Ⅱ・数B、簿、情報から1）<br>理（物基、化基、生基、地基から2、又は物、化、生、地から1）<br>外（英、独、仏、中、韓から1） | 数（数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B）<br>理（物基・物、化基・化、生基・生、地基・地学から1） |
| 教育福祉学類     | 英・小論文型 | 国（国）<br>社（世B、日B、地理Bから1、現社、倫、政経、倫・政経から1）<br>数（数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1）<br>理（物基、化基、生基、地基から2、又は物、化、生、地から1）<br>外（英、独、仏、中、韓から1）                 | 外（英）<br>小論文                                  |
| 心理学類       | 英・国型   | 国（国）<br>社（世B、日B、地理Bから1、現社、倫、政経、倫・政経から1）<br>数（数Ⅰ・数Aと、数Ⅱ・数B、簿、情報から1）<br>理（物基、化基、生基、地基から2、又は物、化、生、地から1）                           | 国（国語総合・現代文B）<br>外（英）                         |

|  |      |                                                                                                                                |                                              |
|--|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
|  |      | 外（英、独、仏、中、韓から1）                                                                                                                |                                              |
|  | 理・数型 | 国（国）<br>社（世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1）<br>数（数Ⅰ・数Aと、数Ⅱ・数B、簿、情報から1）<br>理（物基、化基、生基、地基から2、又は物、化、生、地から1）<br>外（英、独、仏、中、韓から1） | 数（数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B）<br>理（物基・物、化基・化、生基・生、地基・地学から1） |

（新旧対照表）

現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>（設置趣旨（本文）-58 ページ）</p> <p>8 入学者選抜の概要</p> <p>イ 入学者選抜の方法と体制</p> <p>本学域における一般入試、特別選抜の定員の割り振りは下表のとおりである。</p> <p>全定員数 260 名のうち 60 名を学域単位とし、そのうちの 20 名を一般前期（英・数型 5、英・国型 5、英・小論型 5、理・数型 5）に、35 名を一般入試後期に、5 名を国際バカロレア特別選抜にそれぞれ割り当てる。</p> <p>学域単位を除く 200 名を各学類の定員数（知識情報システム学類 60、環境社会システム学類 100、教育福祉学類 55、心理学類 45）で案分し、さらに各学類ともそのうち 2～3 割程度を推薦入試に割り当てる。</p> <p>推薦入試以外の特別選抜については、社会人、外国人留学生が学類単位（ただし社会人は知識情報システム学類を除く）、帰国生徒、国際バカロレア、ユネスコスクール、SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）<u>を</u>学域単位での募集とし、国際バカロレア特別選抜以外は定員を設けず若干名とする。</p> | <p>（35 ページ）</p> <p>8 入学者選抜の概要</p> <p>イ 入学者選抜の方法と体制</p> <p>本学域における一般入試、特別選抜の定員の割り振りは下表のとおりである。</p> <p>全定員数 260 名のうち 60 名を学域単位とし、そのうちの 20 名を一般前期（英・数型 5、英・国型 5、英・小論型 5、理・数型 5）に、35 名を一般入試後期に、5 名を国際バカロレア特別選抜にそれぞれ割り当てる。</p> <p>学域単位を除く 200 名を各学類の定員数（知識情報システム学類 60、環境社会システム学類 100、教育福祉学類 55、心理学類 45）で案分し、さらに各学類ともそのうち 2～3 割程度を推薦入試に割り当てる。</p> <p>推薦入試以外の特別選抜については、社会人、外国人留学生が学類単位（ただし社会人は知識情報システム学類を除く）、帰国生徒、国際バカロレア、ユネスコスクール、SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）<u>が</u>学域単位での募集とし、国際バカロレア特別選抜以外は定員を設けず若干名とする。</p> |

【入学者選抜の区分と定員】

| 選抜種類     | 学域・学類      | 学力検査の<br>区分 | 募集<br>人員 | 共通<br>テスト | 個別学力<br>検査の方法 |
|----------|------------|-------------|----------|-----------|---------------|
| 一般前期     | 知識情報システム学類 | —           | 40       | ○         | 英語・数Ⅲ         |
|          | 環境社会システム学類 | 英・国型        | 30       | ○         | 英語・国語         |
|          | 教育福祉学類     | 理・数型        | 20       | ○         | 数Ⅱ・理科         |
|          | 心理学類       | —           | 30       | ○         | 英語・小論文        |
|          | 心理学類       | 英・国型        | 20       | ○         | 英語・国語         |
|          | 心理学類       | 理・数型        | 10       | ○         | 数Ⅱ・理科         |
|          | 心理学類       | 英・数型        | 5        | ○         | 英語・数Ⅲ         |
| 一般後期     | 学域単位       | 英・国型        | 5        | ○         | 英語・国語         |
|          | 学域単位       | 英・小論文型      | 5        | ○         | 英語・小論文        |
|          | 学域単位       | 理・数型        | 5        | ○         | 数Ⅱ・理科         |
| 学校推薦型    | 学域単位       | —           | 35       | ○         | 面接            |
|          | 知識情報システム学類 | 理系型         | 5        | ○         | 面接            |
|          | 知識情報システム学類 | 文系型         | 5        | ○         | 面接            |
|          | 環境社会システム学類 | —           | 20       | —         | 小論文・面接        |
|          | 教育福祉学類     | 学校推薦型       | 9        | —         | 小論文・面接        |
| 総合型      | 心理学類       | —           | 5        | —         | 小論文・面接        |
|          | 心理学類       | —           | 5        | —         | 小論文・面接        |
| 社会人      | 教育福祉学類     | —           | 5        | —         | 小論文・面接        |
|          | 環境社会システム学類 | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
|          | 教育福祉学類     | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
| 外国人留学生   | 心理学類       | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
|          | 知識情報システム学類 | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
|          | 環境社会システム学類 | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
|          | 教育福祉学類     | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
| 帰国生徒     | 心理学類       | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
|          | 心理学類       | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
| 国際バカロレア  | 学域単位       | —           | 5        | —         | 面接            |
| ユネスコスクール | 学域単位       | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
| SSH      | 学域単位       | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
| 合計       |            |             | 250      |           |               |

各学類において、一般前期入試における大学共通テストおよび個別学力検査で課している科目は下表のとおりである。このように、特に数学では、知識情報システム学類が数Ⅲまで、環境社会システム学類と心理学類が数Ⅱまで、教育福祉学類が数Ⅰまでをそれぞれ入試段階で課しており、各学類の履修に必要な基礎学力の確認を行っている。なお、個別学力検査で唯一小論文を課している教育福祉学類では、教育福祉学に関わる日本語の長文を提示し、それを読解し、思考する総合問題を出題する。

学校推薦型選抜においては、知識情報システム学類は下表と同様の科目の大学共通テストを課しており基礎学力の確認を行っている、またそれ以外の学類は大学共通テストを課さず、代わりに出願資格を『調査書の全体の評定平均値が 4.0（5 点満点）以上で、かつ「外国語、英語のいずれかの 1 教科」及び「国語、地理歴史、公民、理科、数学、理数のいずれか 2 教科」の 3 教科の評定平均値の平均が 4.2 以上の者』としており、外国

【入学者選抜の区分と定員】

| 選抜種類     | 学域・学類      | 学力検査の<br>区分 | 募集<br>人員 | 共通<br>テスト | 個別学力<br>検査の方法 |
|----------|------------|-------------|----------|-----------|---------------|
| 一般前期     | 知識情報システム学類 | —           | 40       | ○         | 英語・数Ⅲ         |
|          | 環境社会システム学類 | 英・国型        | 30       | ○         | 英語・国語         |
|          | 教育福祉学類     | 理・数型        | 20       | ○         | 数Ⅱ・理科         |
|          | 心理学類       | —           | 30       | ○         | 英語・小論文        |
|          | 心理学類       | 英・国型        | 20       | ○         | 英語・国語         |
|          | 心理学類       | 理・数型        | 10       | ○         | 数Ⅱ・理科         |
|          | 心理学類       | 英・数型        | 5        | ○         | 英語・数Ⅲ         |
| 一般後期     | 学域単位       | 英・国型        | 5        | ○         | 英語・国語         |
|          | 学域単位       | 英・小論文型      | 5        | ○         | 英語・小論文        |
|          | 学域単位       | 理・数型        | 5        | ○         | 数Ⅱ・理科         |
| 学校推薦型    | 学域単位       | —           | 35       | ○         | 面接            |
|          | 知識情報システム学類 | 理系型         | 5        | ○         | 面接            |
|          | 知識情報システム学類 | 文系型         | 5        | ○         | 面接            |
|          | 環境社会システム学類 | —           | 20       | —         | 小論文・面接        |
|          | 教育福祉学類     | 学校推薦型       | 9        | —         | 小論文・面接        |
| 総合型      | 心理学類       | —           | 5        | —         | 小論文・面接        |
|          | 心理学類       | —           | 5        | —         | 小論文・面接        |
| 社会人      | 教育福祉学類     | —           | 5        | —         | 小論文・面接        |
|          | 環境社会システム学類 | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
|          | 教育福祉学類     | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
| 外国人留学生   | 心理学類       | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
|          | 知識情報システム学類 | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
|          | 環境社会システム学類 | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
|          | 教育福祉学類     | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
| 帰国生徒     | 心理学類       | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
|          | 心理学類       | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
| 国際バカロレア  | 学域単位       | —           | 5        | —         | 面接            |
| ユネスコスクール | 学域単位       | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
| SSH      | 学域単位       | —           | 若干       | —         | 小論文・面接        |
| 合計       |            |             | 250      |           |               |

語の基礎学力については評定平均により確認できる。また筆記試験では、図表によるデータ表現を含んだ日本語の長文を提示し、それを読解し、思考する総合問題を小論文として出題する。

なお、一般前期の教育福祉学類や、学校推薦型の環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類のように、小論文を課す入試においては、学域全体で策問委員会を組織し、基礎学力が確認できるようにしている。以上のように、文系型、理系型、学校推薦型等多様な入試で入学した学生でも、情報学、自然科学、人文・社会科学、人間科学の基礎を学習できる素養を持っていることを入学段階で確認している。

# 【各学類の一般前期入試における大学共通テストおよび個別学力試験に課す科目】

| 学類         | 入試型    | 共通テスト科目                                                                                                                         | 個別学力検査科目                                      |
|------------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 地域情報システム学類 | 英・数型   | 国(国)<br>社(世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、現社、倫、経済、倫・経済から1)<br>数(数I・数Aと、数II・数B、簿、情報から1)<br>理(物、化、生、地から2)<br>外(英、独、仏、中、韓から1)                  | 数(数I・数II・数A・数B)<br>外(英)                       |
| 環境社会システム学類 | 英・国型   | 国(国)<br>社(世B、日B、地理Bから1、現社、倫、経済、倫・経済から1)<br>数(数I・数Aと、数II・数B、簿、情報から1)<br>理(物基、化基、生基、地基から2、又は物、化、生、地から1)<br>外(英、独、仏、中、韓から1)        | 国(国語総合・現代文B)<br>外(英)                          |
|            | 理・数型   | 国(国)<br>社(世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、現社、倫、経済、倫・経済から1)<br>数(数I・数Aと、数II・数B、簿、情報から1)<br>理(物基、化基、生基、地基から2、又は物、化、生、地から1)<br>外(英、独、仏、中、韓から1) | 数(数I・数II・数A・数B)<br>理(物基・物、化基・化、生基・生、地基・地学から1) |
| 教育福祉学類     | 英・小論文型 | 国(国)<br>社(世B、日B、地理Bから1、現社、倫、経済、倫・経済から1)<br>数(数I、数I・数Aから1)<br>理(物基、化基、生基、地基から2、又は物、化、生、地から1)<br>外(英、独、仏、中、韓から1)                  | 外(英)<br>小論文                                   |
| 心理学類       | 英・国型   | 国(国)<br>社(世B、日B、地理Bから1、現社、倫、経済、倫・経済から1)<br>数(数I・数Aと、数II・数B、簿、情報から1)<br>理(物基、化基、生基、地基から2、又は物、化、生、地から1)<br>外(英、独、仏、中、韓から1)        | 国(国語総合・現代文B)<br>外(英)                          |
|            | 理・数型   | 国(国)<br>社(世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、現社、倫、経済、倫・経済から1)<br>数(数I・数Aと、数II・数B、簿、情報から1)<br>理(物基、化基、生基、地基から2、又は物、化、生、地から1)<br>外(英、独、仏、中、韓から1) | 数(数I・数II・数A・数B)<br>理(物基・物、化基・化、生基・生、地基・地学から1) |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>ウ 入学後のリメディアル教育体制</p> <p>入学後は、文理異なる入試を経て入学してきた学生に対しても、多様な教育課程の履修を行うために必要な基礎学問レベルを身につけさせる。数学に関しては、知識情報システム学類は「統計学基礎 1・2」「線形代数 1・2A」「微積分学 1A」の 5 科目を、環境社会システム学類と教育福祉学類は「統計学基礎 1・2」と文系出身学生に対して「数学リテラシー 1」、理系出身学生に対して「線形代数 1」の 3 科目を、心理学理は「心理学統計法 1・2」と文系出身学生に対して「数学リテラシー 1・2」、理系出身学生に対して「線形代数 1・2A」の 4 科目をそれぞれ必修とし、その後の履修に必要な基礎学力を養う。さらに、数学教員による質問受付室を毎日開講して、学習に遅れが生じないように支援する。数学以外に関しては、語学 8 単位以上履修することを要件としていることに加えて、理科については学生が自ら復習するためのリメディアル教材を用意して支援している。このような基礎学力が多様な学びに必要であることは、初年次に学域共通科目として配置されている各学類の概論科目の中で十分理解させる。</p> |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

(是正事項) 現代システム科学域

27. アドミッション・ポリシーにおいて、「サステナビリティ志向性」が示されているが、入学前の時点において、どのようにして客観的な評価が可能なのかを明確にすること。

(対応)

ご指摘の通り「サステナビリティ志向性」については入学時における客観的な判断が難しく、また学域の教育理念から入学後身につけていく能力であることから、アドミッション・ポリシーに記載することは適切ではないと判断した。ただし、サステナビリティを志向する素養は備わっていることが重要であるので、

(社会の諸問題への関心)

#### 4. 現代社会の諸問題に対する関心を有する人

を代わりに入れることとした。この社会の諸問題への関心については、以下を用いて評価を行うこととする。

〔一般前期〕

志望理由書／活動報告書を用いて評価する。

〔一般後期〕

面接、志望理由書／活動報告書を用いて評価する。

〔総合選抜〕

面接、推薦書、志望理由書／活動報告書を用いて評価する。

〔学校推薦〕

面接、推薦書、志望理由書／活動報告書を用いて評価する。

〔帰国生徒〕

口述試験・面接、志望理由書／活動報告書を用いて評価する。

〔社会人〕

面接、志望理由書／活動報告書を用いて評価する。

〔外国人留学生〕

面接、志望理由書／活動報告書を用いて評価する。

〔国際バカロレア〕

面接を用いて評価する。

〔ユネスコスクール〕

面接、推薦書、志望理由書／活動報告書を用いて評価する。

〔スーパーサイエンスハイスクール〕

面接、推薦書、志望理由書／活動報告書を用いて評価する。

(新旧対照表)

アドミッション・ポリシーについては、本審査意見 No. 4(1) と同じ。口頭試問については以

下の通り。

現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(設置趣旨 (本文) -53 ページ)</p> <p>8 入学者選抜の概要</p> <p>ア アドミッションポリシー</p> <p>[現代システム科学域]</p> <p>(中略)</p> <p>上記の評価方法は以下のとおりである。</p> <p>[一般前期]</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>①大学入試共通テスト、②調査書／成績証明書、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>①大学入試共通テスト、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p><b>(社会の諸問題への関心)</b></p> <p>⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[一般後期]</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>①大学入試共通テスト、②調査書／成績証明書を用いて評価する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>①大学入試共通テスト、④面接を用いて評価する。</p> <p><b>(社会の諸問題への関心)</b></p> <p>④面接、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[総合選抜]</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>②調査書／成績証明書、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>③個別学力試験、④面接を用いて評価する。</p> <p><b>(社会の諸問題への関心)</b></p> | <p>(30 ページ)</p> <p>8 入学者選抜の概要</p> <p>ア アドミッションポリシー</p> <p>[現代システム科学域]</p> <p>(中略)</p> <p>上記の評価方法は以下のとおりである。</p> <p>[一般前期]</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>①大学入試共通テスト、②調査書／成績証明書、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>①大学入試共通テスト、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> <p>⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[一般後期]</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>①大学入試共通テスト、②調査書／成績証明書を用いて評価する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>①大学入試共通テスト、④<u>口頭試問・面接</u>を用いて評価する。</p> <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> <p>④<u>口頭試問・面接</u>、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[総合選抜]</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>②調査書／成績証明書、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>③個別学力試験、④<u>口頭試問・面接</u>を用いて評価する。</p> <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>④面接、⑤推薦書、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[学校推薦（知識情報システム学類）]</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>①大学入試共通テスト、②調査書／成績証明書を用いて評価する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>①大学入試共通テスト、④面接・<b>口述試験</b>を用いて評価する。</p> <p><b>(社会の諸問題への関心)</b></p> <p>④面接、<b>口述試験</b>、⑤推薦書、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[学校推薦（環境社会システム学類/教育福祉学類/心理学類）]</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>②調査書／成績証明書、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>③個別学力試験、④面接を用いて評価する。</p> <p><b>(社会の諸問題への関心)</b></p> <p>④面接、⑤推薦書、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[帰国生徒]</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>②調査書／成績証明書、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>③個別学力試験、④<b>口述試験</b>・面接を用いて評価する。</p> <p><b>(社会の諸問題への関心)</b></p> <p>④<b>口述試験</b>・面接、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[社会人（環境社会システム学類/教育福祉学類）]</p> | <p>④<u>口頭試問</u>・面接、⑤推薦書、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[学校推薦（知識情報システム学類）]</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>①大学入試共通テスト、②調査書／成績証明書を用いて評価する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>①大学入試共通テスト、④<u>口頭試問</u>・面接を用いて評価する。</p> <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> <p>④<u>口頭試問</u>・面接、⑤推薦書、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[学校推薦（環境社会システム学類/教育福祉学類/心理学類）]</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>②調査書／成績証明書、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>③個別学力試験、④<u>口頭試問</u>・面接を用いて評価する。</p> <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> <p>④<u>口頭試問</u>・面接、⑤推薦書、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[帰国生徒]</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>②調査書／成績証明書、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>③個別学力試験、④<u>口頭試問</u>・面接を用いて評価する。</p> <p><b>(サステナビリティ志向性)</b></p> <p>④<u>口頭試問</u>・面接、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[社会人（環境社会システム学類/教育福祉学類）]</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(知識・技能)</p> <p>③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <p>③個別学力試験、④面接を用いて評価する。</p> <p>(社会の諸問題への関心)</p> <p>④面接、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[外国人留学生]</p> <p>(知識・技能)</p> <p>②調査書／成績証明書、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <p>③個別学力試験、④面接を用いて評価する。</p> <p>(社会の諸問題への関心)</p> <p>④面接、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[国際バカロレア]</p> <p>(知識・技能)</p> <p>②調査書／成績証明書、④面接・口述試験を用いて評価する。</p> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <p>④面接・口述試験を用いて評価する。</p> <p>(社会の諸問題への関心)</p> <p>④面接・口述試験を用いて評価する。</p> <p>[ユネスコスクール]</p> <p>(知識・技能)</p> <p>②調査書／成績証明書、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <p>③個別学力試験、④面接を用いて評価する。</p> <p>(社会の諸問題への関心)</p> <p>④面接、⑤推薦書、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> | <p>(知識・技能)</p> <p>③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <p>③個別学力試験、④口頭試問・面接を用いて評価する。</p> <p>(サステイナビリティ志向性)</p> <p>④口頭試問・面接、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[外国人留学生]</p> <p>(知識・技能)</p> <p>②調査書／成績証明書、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <p>③個別学力試験、④口頭試問・面接を用いて評価する。</p> <p>(サステイナビリティ志向性)</p> <p>④口頭試問・面接、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>[国際バカロレア]</p> <p>(知識・技能)</p> <p>②調査書／成績証明書を用いて評価する。</p> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <p>④口頭試問・面接を用いて評価する。</p> <p>(サステイナビリティ志向性)</p> <p>④口頭試問・面接を用いて評価する。</p> <p>[ユネスコスクール]</p> <p>(知識・技能)</p> <p>②調査書／成績証明書、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <p>③個別学力試験、④口頭試問・面接を用いて評価する。</p> <p>(サステイナビリティ志向性)</p> <p>④口頭試問・面接、⑤推薦書、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[スーパーサイエンスハイスクール]</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>②調査書／成績証明書、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>③個別学力試験、④面接を用いて評価する。</p> <p><b>(社会の諸問題への関心)</b></p> <p>④面接、⑤推薦書、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>これらをまとめると下表のようになる。</p> <p>(表 略)</p> <p>※表中の修正</p> <p>社会の諸問題への関心</p> <p>国際バカロレア</p> <p>知識・技能②、④</p> | <p>[スーパーサイエンスハイスクール]</p> <p><b>(知識・技能)</b></p> <p>②調査書／成績証明書、③個別学力試験を用いて評価する。</p> <p><b>(思考力・判断力・表現力)</b></p> <p>③個別学力試験、④<u>口頭試問・面接</u>を用いて評価する。</p> <p><b>(サステイナビリティ志向性)</b></p> <p>④<u>口頭試問・面接</u>、⑤推薦書、⑥志望理由書／活動報告書を用いて評価する。</p> <p>これらをまとめると下表のようになる。</p> <p>(表 略)</p> <p><u>サステイナビリティ志向性</u></p> <p>国際バカロレア</p> <p>知識・技能②</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(是正事項) 現代システム科学域

28. 学外実習や演習の指導体制について、助手の配置もないため適切な指導が行えるのか不明確であるため、明確にすること。

(対応)

本学域の完成年度における専任教員の構成は、教授 37、准教授 43、講師 3、助教 2 であり、情報系や理学実験系の教育課程や社会福祉士、保育士、公認心理師などの実習を含む教育課程をもつ学域としては、他大学よりも助教の配置数が少ない状態となっている。しかしながら、本学域では、学外実習や演習を助教などの特定の職階の教員が担当するのではなく、助教、准教授、教授のすべての職階の教員が複数でチームを組んで担当する体制で指導を行っている(表1)。具体的には、それぞれの学外実習や演習を担当するチームの1名をリーダーとし、実習先ごとに担当の教員を割り振り、学生の指導は担当教員が行うようにしている。このような体制を取ることで、実習や演習の負担を平準化し、学外実習や演習においても学生に対して適切な指導が行える体制をとっている。

表1 主な実習の実態

| 実習名             | 学生数 | 教員数 | 巡回数                 | 実習先との連携関係                                   | 事務職員の関与                                                                                                                                |
|-----------------|-----|-----|---------------------|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 社会福祉実習          | 40  | 8   | 実習中1回以上<br>(3回の帰校日) | 実習指導者とメールや電話で随時連絡                           | 実習謝礼の支払い、実習依頼状の作成・発行・発送、実習出勤簿の管理、実習意見書の回収・取りまとめ、検便の手続き、実習旅費の執行、帰校日の記録管理、実習報告書の印刷発注・発送、実習報告会の準備・出欠管理、実習日誌の印刷発注、事前学習におけるゲストスピーカーの事務手続き、等 |
| 保育実習            | 10  | 2   | 実習中1回以上             | 実習前後に電話やメールで連絡調整、実習報告の共有、そのほか研修や研究における連携もあり | 実習謝礼の支払い、実習依頼状の作成・発行・発送、実習出勤簿の管理、実習意見書の回収・取りまとめ、保険契約等                                                                                  |
| スクール・ソーシャルワーク実習 | 15  | 2   | 実習中1回以上             | 実習指導教員とメールや電話で随時連絡                          | 実習謝礼の支払い、実習依頼状の作成・発行・発送、実習出勤簿の管理、実習意見書の回収・取りまとめ、実習旅費の執行、実習報告書の印刷発注・発送、実習日誌の印刷発注、等                                                      |



|      |    |   |         |                      |                                                       |
|------|----|---|---------|----------------------|-------------------------------------------------------|
| 心理実習 | 15 | 3 | 実習中 3 回 | 実習指導者とメールや電話で月 1 回連絡 | 実習謝礼の支払い、実習依頼状の作成・発行・発送、実習出勤簿の管理、実習意見書の回収・取りまとめ、保険契約等 |
|------|----|---|---------|----------------------|-------------------------------------------------------|

(新旧対照表)

現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 旧                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(設置趣旨 (本文) -66 ページ)</p> <p>1 0 実習の具体的計画</p> <p>現代システム科学域における学外実習は、①教育実習 (知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類)、②社会福祉実習、③保育実習、④スクール・ソーシャルワーク実習、⑤心理実習である。学内での講義と実習において必要な知識と技能を習得させた後、現場においてそれらの知識・技能を活用する経験を得るために資格ごとに対応する実習を用意する。</p> <p>なお本学域では、学外実習や演習を助教などの特定の職階の教員が担当するのではなく、助教、准教授、教授のすべての職階の教員が複数でチームを組んで担当する体制で指導を行なっている。具体的には、それぞれの学外実習や演習を担当するチームの 1 名をリーダーとし、実習先ごとに担当の教員を割り振り、学生の指導は担当教員が行うようにしている。このような体制を取ることで、実習や演習の負担を平準化し、学外実習や演習においても学生に対して適切な指導が行える体制をとっている。</p> | <p>(38 ページ)</p> <p>1 0 実習の具体的計画</p> <p>現代システム科学域における学外実習は、①教育実習 (知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類)、②社会福祉実習、③保育実習、④スクール・ソーシャルワーク実習、⑤心理実習である。学内での講義と実習において必要な知識と技能を習得させた後、現場においてそれらの知識・技能を活用する経験を得るために資格ごとに対応する実習を用意する。</p> |

## 【主な実習の実施状況まとめ】

| 実習名      | 学生数 | 教員数 | 巡回数                 | 実習先との連携関係                                    | 事務職員の関与                                                                                                                                 |
|----------|-----|-----|---------------------|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 社会福祉実習   | 40  | 8   | 実習中1回以上<br>(3回の帰校日) | 実習指導者とメールや電話で随時連絡                            | 実習謝礼の支払い、実習依頼状の作成・発行・発送、実習出勤簿の管理、実習意見書の回収・取りまとめ、検定の手続き、実習旅費の執行、帰校日の記録管理、実習報告書の印刷発注・発送、実習報告会の準備・出欠管理、実習日誌の印刷発注、事前学習におけるゲストスピーカーの事務手続き、等。 |
| 保育実習     | 10  | 2   | 実習中1回以上             | 実習前後に電話やメールで連絡調整、実習報告の共有、そのほか研修や研究における連携もあり。 | 実習謝礼の支払い、実習依頼状の作成・発行・発送、実習出勤簿の管理、実習意見書の回収・取りまとめ、保険契約等。                                                                                  |
| ボランティア実習 | 15  | 2   | 実習中1回以上             | 実習指導教員とメールや電話で随時連絡                           | 実習謝礼の支払い、実習依頼状の作成・発行・発送、実習出勤簿の管理、実習意見書の回収・取りまとめ、実習旅費の執行、実習報告書の印刷発注・発送、実習日誌の印刷発注、等。                                                      |
| 心理実習     | 15  | 3   | 実習中3回               | 実習指導者とメールや電話で月1回連絡                           | 実習謝礼の支払い、実習依頼状の作成・発行・発送、実習出勤簿の管理、実習意見書の回収・取りまとめ、保険契約等。                                                                                  |

(改善事項) 現代システム科学域

29. 「留学生アドバイザー教員」について、例えば、全学的に整備されるのかどうか、又は学域として整備されるのかなど、組織的な支援体制について説明すること。

(対応)

大阪府立大学においては、全学の学生委員会の下に留学生支援部会が設置されており、各学類に少なくとも1名の留学生アドバイザー教員が配置されている。留学生アドバイザーは、学域長、副学域長（学生委員長兼任）、当該学類長と連携し、留学生の履修指導や生活指導を行うとともに、隔月のペースで開催されている留学生支援部会において、各学域の留学生の就学状況の情報交換を行い、指導方法の改善を行っている。新大学における留学生アドバイザー制度については、新大学学生支援検討ワーキンググループにおいて現在検討中であるが、全学的な組織体制に加え、新大学現代システム科学域では、現状制度を維持し、各学類に少なくとも1名の留学生アドバイザーを配置し、学域長、副学域長、当該学類長と連携して、留学生の履修指導や生活指導を行う体制を堅持する。

(新旧対照表)

現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(設置趣旨 (本文) -65 ページ)</p> <p>8 入学者選抜の概要</p> <p>エ 多様な学生の受入</p> <p>留学生の受け入れについては、入学時の試験において大学で学習するための基礎学力を有していることを日本留学試験（日本語、数学、理科）により確認するとともに、日本語での思考力、判断力、表現力を有していることを、一般選抜では「国語」で、外国人留学生特別選抜では「面接」で、それぞれ日本語の理解力と表現力を確認する。</p> <p>なお、経費支弁能力や在籍管理については、入学後留学生アドバイザー教員が定期的に確認する。大阪府立大学においては、全学の学生委員会の下に留学生支援部会が設置されており、各学類に少なくとも1名の留学生アドバイザー教員が配置されている。留学生アドバイザーは、学域長、副学域長（学生委員長兼任）、当該学類長と連携し、留学生の履修指導や生活指導を行うとともに、隔月</p> | <p>(37 ページ)</p> <p>8 入学者選抜の概要</p> <p>エ 多様な学生の受入</p> <p>留学生の受け入れについては、入学時の試験において大学で学習するための基礎学力を有していることを日本留学試験（日本語、数学、理科）により確認するとともに、日本語での思考力、判断力、表現力を有していることを、一般選抜では「国語」で、外国人留学生特別選抜では「面接」で、それぞれ日本語の理解力と表現力を確認する。<u>なお、経費支弁能力や在籍管理については、入学後留学生アドバイザー教員が定期的に確認する。</u></p> |

|                                                                                                                                                                                                                                      |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>のペースで開催されている留学生支援部会において、各学域の留学生の就学状況の情報交換を行い、指導方法の改善を行っている。新大学における留学生アドバイザー制度については、新大学学生支援検討ワーキンググループにおいて現在検討中であるが、全学的な組織体制に加え、新大学現代システム科学域では、現状制度を維持し、各学類に少なくとも1名の留学生アドバイザーを配置し、学域長、副学域長、当該学類長と連携して、留学生の履修指導や生活指導を行う体制を堅持する。</p> |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

(改善事項) 現代システム科学域

30. ディプロマ・ポリシーに「データサイエンスの知識・技能を養うために、基幹教育科目の情報リテラシー科目および基礎教育科目（「統計学基礎」、「プログラミング入門」など）および学類専門科目（「AI プログラミング」など）を配置する」とあるが、これらの科目を履修するための施設や設備が整備されているのか説明すること。

(対応)

現在の大阪府立大学中百舌鳥キャンパスには、C5 棟に実習室（情報端末数 158）、B3 棟に情報教育教室（情報端末数 102）があり、プログラミング関係の演習を行うための十分なキャパシティを有している。

新大学においては、全学（共通）の審査意見 No. 13 の対応に示すとおり、BYOD 方式により学生個人所有のノートパソコンの必携化を行う。また、初年次からプログラミング関連演習の受講に必要となる、オフィスソフト及びウイルス対策ソフトに加えて、データサイエンスの学習を行うための R、Mathematica 等をインストールさせることとしており、すでに無線 LAN が整備されている講義室において、支障なく受講することができる。さらに、予習・復習も学生個人所有のノートパソコンを用いて行えるよう、図書館・食堂など学生が共同で利用する施設を中心にキャンパス全体で無線 LAN を利用できるように整備する予定である。

(新旧対照表)

現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(設置趣旨 (本文) -51 ページ)</p> <p>7 施設, 設備等の整備計画</p> <p>ウ 校舎等施設の整備計画</p> <p>(前略)</p> <p>1) 講義室・演習室・研究室等</p> <p>現代システム科学域では、授業の形態に応じて講義室や演習室等の施設を使用し、専任教員には研究室を割り当て、学部教育と大学院教育を実施する。現代システム科学域における施設概要は次のとおりである。</p> <p>【施設概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義室 29 室</li> <li>・演習室 28 室</li> <li>・研究室 121 室 (共同研究室を含む)</li> <li>・実習室 42 室 (実習室、実験室、分析室の他、関連諸室を含む)</li> <li>・プログラミング関連施設 C5 棟実習室 (情報端末数 158)、B3 棟情報教育教室 (情</li> </ul> | <p>(29 ページ)</p> <p>7 施設, 設備等の整備計画</p> <p>ウ 校舎等施設の整備計画</p> <p>(前略)</p> <p>1) 講義室・演習室・研究室等</p> <p>現代システム科学域では、授業の形態に応じて講義室や演習室等の施設を使用し、専任教員には研究室を割り当て、学部教育と大学院教育を実施する。現代システム科学域における施設概要は次のとおりである。</p> <p>【施設概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義室 29 室</li> <li>・演習室 28 室</li> <li>・研究室 121 室 (共同研究室を含む)</li> <li>・実習室 42 室 (実習室、実験室、分析室の他、関連諸室を含む)</li> </ul> |

報端末数 102)

なお新大学においては、BYOD 方式により学生個人所有のノートパソコンの必携化を行う。また、初年次からプログラミング関連演習の受講に必要となる、オフィスソフト及びウイルス対策ソフトに加えて、データサイエンスの学習を行うための R、Mathematica 等をインストールさせることとしており、すでに無線 LAN が整備されている講義室において、支障なく受講することができる。さらに、予習・復習も学生個人所有のノートパソコンを用いて行えるよう、図書館・食堂など学生が共同で利用する施設を中心にキャンパス全体で無線 LAN を利用できるように整備する予定である。

(改善事項) 現代システム科学域

31. 設置の趣旨において、「専門演習科目」と「学類演習科目」、「学理専門科目」という文言が使用されており、整合性のある説明となっていないと考えられるため、改めること。

(対応)

科目区分の正式名称は、基幹教育科目、基礎教育科目、学域共通科目、学類基盤科目、学類専門科目となっている。授業形態としては、講義科目、演習科目、実験・実習科目があり、整合性をとるため、科目区分名称と授業形態名称の組み合わせ（例：学類基盤科目の演習科目）という表記で統一する。



(是正事項) 現代システム科学域

32. 「企業担当者向け出口需要調査（アンケート）」について、回答のあった 69 件のうち、「必要性の高い学部／学域」としては一定の評価を得られているものの、「採用したい学部／学域の人数」の回答では、42 件が未定となっており、融合的な教育を行う本学域の社会的なニーズが十分であるか懸念されるため、「サステナビリティ」に関する教育を受けた学生の就職が想定される産業分野を具体的に示すとともに、就職支援の方策や採用見込みなどを明確にすること。

(対応)

図 1 に示すように、新大学における現代システム科学域は、「自然科学、社会科学、人間科学の基本的知識に基づいて現象を多様な要素の相互作用としてとらえるシステムの思考力と、複数の領域の知識を横断的に用いて実社会における問題を特定・分析・解決する領域横断的応用力を備え、卒業後も自律的に考え、学び、成長することができ、高い倫理観をもって持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成します。」を教育目的として掲げる大阪府立大学現代システム科学域の知識情報システム学類と環境システム学類、「生命の尊さと人の尊厳を重んじ、豊かな人間性と深い教養を備え、人と社会に対する包括的視点と福祉・保育・教育分野における高い専門性に根ざした実践力を持って人々と協働し、地域社会ならびに国際社会においてヒューマンサービスの向上に貢献する人材を育成する。」を教育目的として掲げる地域保健学域教育福祉学類が母体となって構成されている。いずれの教育目的も、資料 1（現代システム科学域に関するキーワードについての説明）で示している「サステナビリティ」の理念に沿った教育目的であり、サステナビリティ教育を受けているといえる。したがって、新大学における卒業生の想定される就職先については、母体となっているこれらの学類の卒業生就職実績が参考となる。

なお「企業担当者向け出口需要調査（アンケート）」では、コロナ禍の中で直接インタビューに答えてくれた多くの企業（対応は企業採用役員及び採用担当責任者）があり、様々な意見交換ができた。大学全体への期待についてのインタビューであったが、その中でも、「現代システム科学域など、広い領域から様々な分野を学べるというのは、現代のニーズに合っており、期待している。」、「1 つの専門性だけでは現代のビジネスでは通用しないので、複数の専門性が必要になっているため、多くの幅広い学びを経験してほしい。」、「専門性も重要だが、新しく取り組み、課題に対して、どのようにアプローチをしていくかなど重視している。」、「現代システム科学のように幅広い学びができる分野については今後必要になってくると思う。」、「課題を自分から見出すことができ、能動的に動いていける人が活躍していくと思われる。そこで、多様性に富んだ学生を育てていくカリキュラムを作っていてほしい。」、「今後、専門分野だけでなく、人の暮らしに関わる幅広い事業が増えるため、採用も多様化する予定である。」、「『テクノロジー×社会科学』の融合分野が欲しい。」など、採用人数を未定と示している企業等においても、特に、現代システム科学域の卒業生及び現代システム科学域において実施することとなる教育に対しての期待が高いことを確認しており、これまでの就職実績及び直接的な企業採用役員（担当者）の意見として、確実な採用が見込まれることに疑う余地はがないものと考えている。

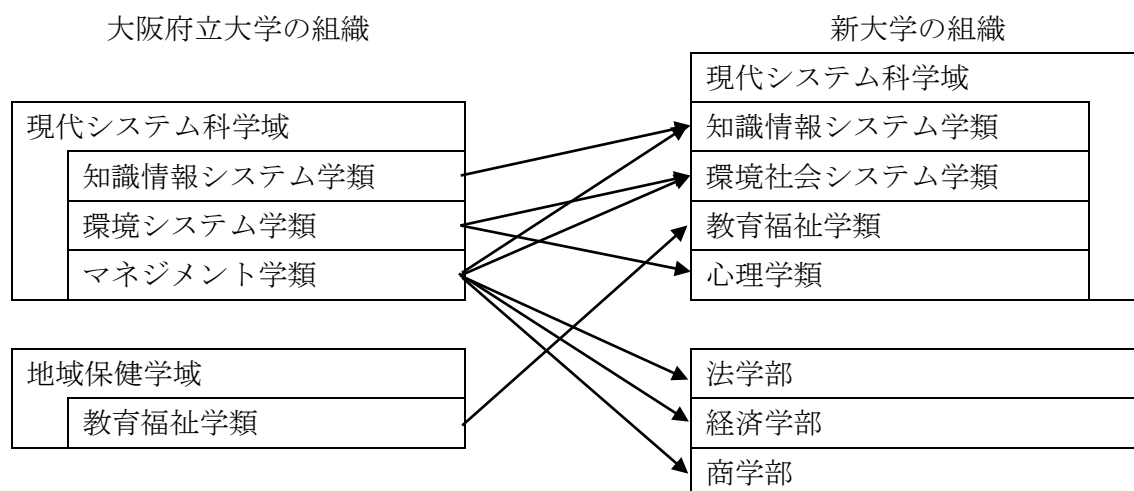


図 1 大阪府立大学の組織と新大学の組織の対応

図 2 に示す、大阪府立大学現代システム科学域知識情報システム学類卒業生の最近の就職実績を見ると、情報通信関連が就職先の半分以上を占めており、情報通信関連企業のニーズが高いことがわかる。その他の企業としては、メーカー、サービス、金融があり、地方公務員への就職も金融と同程度となっている。

新大学の現代システム科学域環境社会システム学類の母体となっている、大阪府立大学現代システム科学域環境システム学類環境共生科学課程および社会共生科学課程卒業生の就職実績は、図 3 に示すように、非常に多岐にわたっており、特化した就職先がなく多様性に富んでいるというのが最大の特徴となっている。国家公務員、地方公務員も一定割合で就職しており、あらゆる分野のニーズがあるといえる。

新大学の現代システム科学域教育福祉学類の母体となっている、大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類卒業生の就職実績は、図 4 に示すように、就職先の半分近くが公務員と医療・福祉関係となっており、社会福祉士や保育士といった資格が求められる職種からのニーズが高いことがわかる。

新大学の現代システム科学域心理学類の母体となっている、大阪府立大学現代システム科学域環境システム学類人間環境科学課程卒業生の就職実績は、図 5 に示すように、サービスの比率がやや高いものの多様な職種の企業に就職していることがわかる。国家公務員、地方公務員も一定割合で就職しており、多岐にわたる分野のニーズがあるといえる。

新大学においてもこのような実績とほぼ同様の進路が見込まれると予想されるが、安定的にこのような就職先を確保するために、各学類で配置される就職担当教員と、大学のキャリアサポート組織との連携を構築・強化していく。

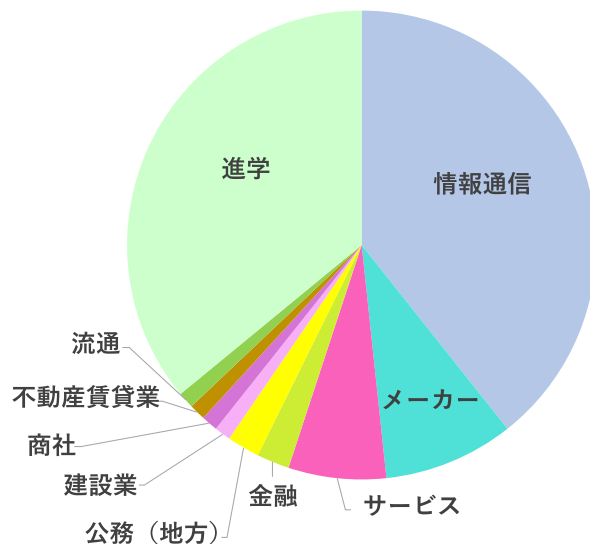


図 2 大阪府立大学現代システム科学域知識情報システム学類就職実績（2018 年度および 2019 年度卒業者）

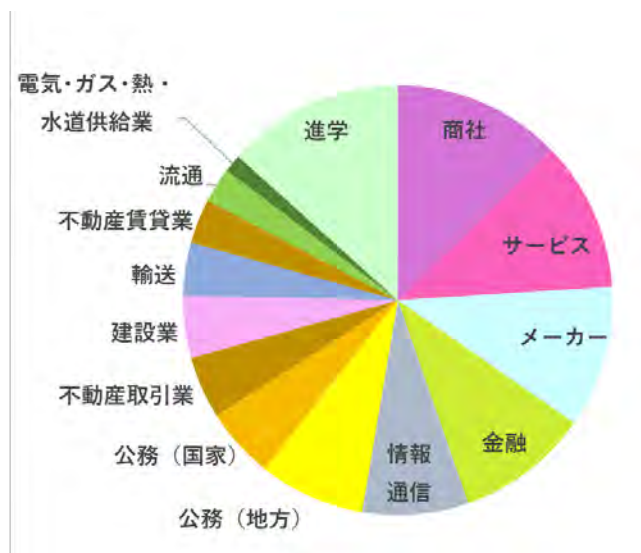


図 3 大阪府立大学現代システム科学域環境システム学類環境共生科学課程および社会共生科学課程（環境社会システム学類の母体）就職実績（2018 年度および 2019 年度卒業者）

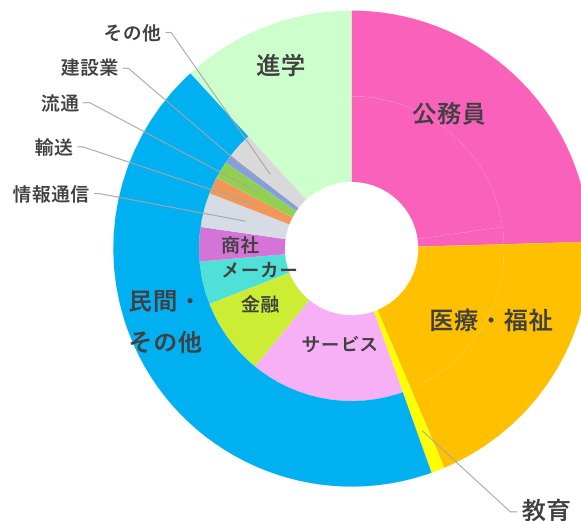


図 4 大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類就職実績(2018 年度および 2019 年度卒業者)

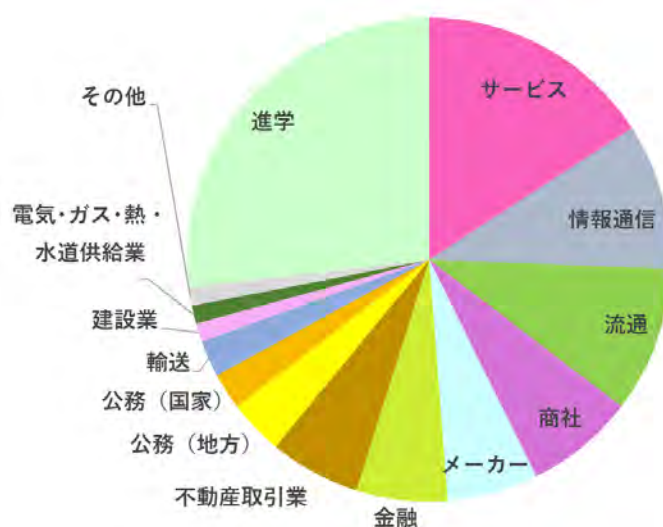


図 5 大阪府立大学現代システム科学域環境システム学類人間環境科学過程（心理学類の母体）就職実績（2018 年度および 2019 年度卒業者）

（新旧対照表）

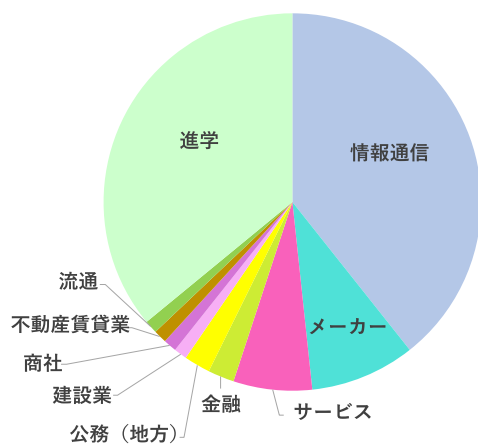
現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>（設置趣旨（本文）-10 ページ）</p> <p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー</p> <p>（1）人材養成の方針</p> <p>新大学における現代システム科学域は、「自然科学、社会科学、人間科学の基本的知識に基づいて現象を多様な要素の相互作用としてとらえるシステムの思考力と、複数の領域の知識を横断的に用いて実社会における問題を特定・分析・解決する領域横断的応用力を備え、卒業後も自律的に考え、学び、成長することができ、高い倫理観をもって持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成します。」を教育目的として掲げる大阪府立大学現代システム科学域の知識情報システム学類と環境システム学類、「生命の尊さと人の尊厳を重んじ、豊かな人間性と深い教養を備え、人と社会に対する包括的視点と福祉・保育・教育分野における高い専門性に根</p> | <p>（4 ページ）</p> <p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー</p> <p>（1）人材養成の方針</p> <p>大阪府立大学の現代システム科学域卒業生はこれまで、約 1 割が大学院へ進学し、残りの約 9 割が民間企業や国あるいは自治体に就職した実績がある。その職種は多様で、情報通信、サービス、メーカー、金融に就職するものがそれぞれ 10～10 数%、商社、流通、不動産、輸送、建築業などがそれぞれ 3～6%程度、国家公務員と地方公務員合わせて約 10%となっていた（2018 度・2019 年度の就職データより）。すなわち、卒業生の 8 割以上は多種多様な民間企業に就職しており、さまざまな社会の現場で活躍している。</p> <p>産業界では、「志と心（人間性、倫理観など）」「行動力（実行力、コミュニケーション能力など）」「知力（基礎学力、論理的な思考</p> |

「ざした実践力を持って人々と協働し、地域社会ならびに国際社会においてヒューマンサービスの向上に貢献する人材を育成する。」を教育目的として掲げる地域保健学域教育福祉学類が母体となって構成される。いずれの教育目的も、新大学における現代システム科学の教育理念に沿った教育目的であり、サステナビリティ教育を受けているといえる。したがって、新大学における卒業生の想定される就職先については、母体となっているこれらの学類の卒業生就職実績が参考となる。

大阪府立大学現代システム科学域知識情報システム学類卒業生の最近の就職実績を見ると、情報通信関連が就職先の半分以上を占めており、情報通信関連企業のニーズが高いことがわかる。その他の企業としては、メーカー、サービス、金融があり、地方公務員への就職も金融と同程度となっている。

【大阪府立大学現代システム科学域知識情報システム学類就職実績（2018 年度および2019 年度卒業生）】



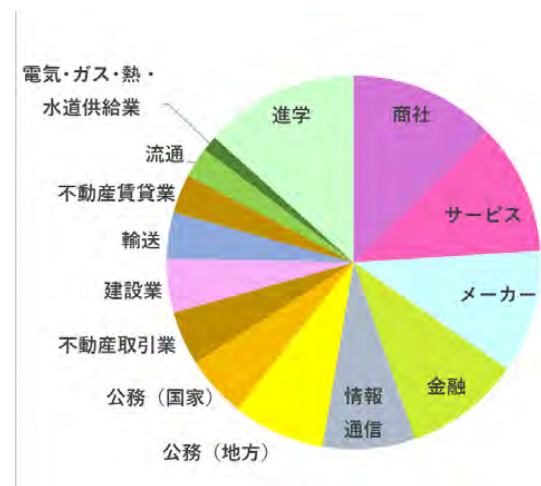
新大学の現代システム科学域環境社会システム学類の母体となっている、大阪府立大学現代システム科学域環境システム学類環境共生科学課程および社会共生科学課程卒業生の就職実績は、図3に示すように、非常

力など)」の養成が大学に求められており、また知識の量よりも、むしろ情報・知識を適切に活用する洞察力、新たな価値を創出する力、他者と協働する力などが重要視されている。このように、産業界においても新しい社会の創造に必要な力が求められている。

本学域では、冒頭に詳述した、持続可能社会の実現に不可欠な素養である領域横断的応用力とシステムの思考力を兼ね備え、異文化理解に裏付けられた豊かな国際感覚とコミュニケーション能力、および情報技術を活用して必要なデータを収集・分析することのできる能力を駆使して、現代社会の諸問題を特定・分析・解決することができる能力を有するとともに、サステナブルな社会を創造するという高い倫理観と使命感を持った人材を養成する。

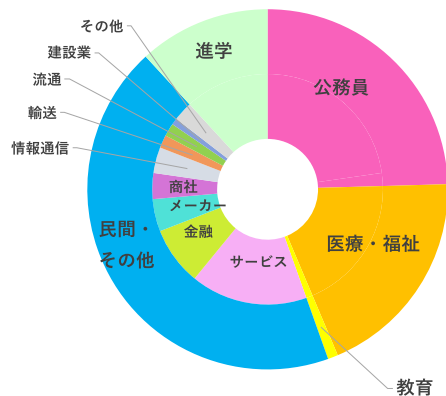
に多岐にわたっており、特化した就職先がなく多様性に富んでいるというのが最大の特徴となっている。国家公務員、地方公務員も一定割合で就職しており、あらゆる分野のニーズがあるといえる。

【大阪府立大学現代システム科学域環境システム学類環境共生科学課程および社会共生科学課程（環境社会システム学類の母体）就職実績（2018 年度および 2019 年度卒業生）】



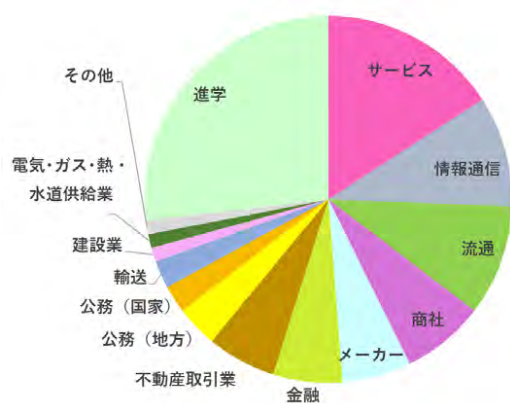
新大学の現代システム科学域教育福祉学類の母体となっている、大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類卒業生の就職実績は、図4に示すように、就職先の半分近くが公務員と医療・福祉関係となっており、社会福祉士や保育士といった資格が求められる職種からのニーズが高いことがわかる。

【大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類就職実績（2018 年度および 2019 年度卒業生）】



新大学の現代システム科学域心理学類の母体となっている、大阪府立大学現代システム科学域環境システム学類人間環境科学課程卒業生の就職実績は、図5に示すように、サービス業の比率がやや高いものの多様な職種の企業に就職していることがわかる。国家公務員、地方公務員も一定割合で就職しており、多岐にわたる分野のニーズがあるといえる。

【大阪府立大学現代システム科学域環境システム学類人間環境科学過程（心理学類の母体）就職実績（2018年度および2019年度卒業生）】



このような就職実績を鑑み、新大学における各学類においては、以下のような人材養成を目指す。



[知識情報システム学類]

初年次の学域共通科目として、サステイナビリティの概念とシステムの思考力を学ぶ4つの「システムとサステイナビリティ」科目を履修したのち、「知識情報システム学概論」において、知識情報システム学類が養成する人材像と、知識情報システム学の教育研究分野が、情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学などから成り立っていることを学ぶ。さらに、学年進行に合わせて、情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学などの知識や能力を身につけ、情報・通信系企業などへの進路を見据え、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を目指す。

[環境社会システム学類]

初年次の学域共通科目として、サステイナビリティの概念とシステムの思考力を学ぶ4つの「システムとサステイナビリティ」科目を履修したのち、「環境社会システム学概論」において、環境社会システム学類が養成する人材像と、環境社会システム学の教育研究分野が、自然環境学、社会環境学、環境共生学（政策科学、環境哲学・倫理学）などから成り立っていることを学ぶ。さらに、学年進行に合わせて自然環境学、社会環境学、環境共生学（政策科学、環境哲学・倫理学）などの知識や能力を身につけ、さまざまな職種の企業、公務員、NPO などへの進路を見据え、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を目指す。

[教育福祉学類]

初年次の学域共通科目として、サステイナビリティの概念とシステムの思考力を学ぶ4つの「システムとサステイナビリティ」科目を履修したのち、「教育福祉学概論」において、教育福祉学類が養成する人材像と、教



育福祉学の教育研究分野が、社会福祉学、保育学、教育学、ジェンダー論などから成り立っていることを学ぶ。さらに、学年進行に合わせて社会福祉学、保育学、教育学、ジェンダー論などの知識や能力を身につけ、社会福祉士および保育士などの資格取得、公務員、医療・福祉関係などへの進路を見据え、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を目指す。

#### [心理学類]

初年次の学域共通科目として、サステナビリティの概念とシステムの思考力を学ぶ4つの「システムとサステナビリティ」科目を履修したのち、「心理学概論」において、心理学類が養成する人材像と、心理学の基礎について学ぶ。さらに、学年進行に合わせて認知科学、社会・環境心理学、臨床心理学などの知識や能力を身につけ、公認心理師の資格取得、公務員、カウンセラーなどへの進路を見据え、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を目指す。

なお「企業担当者向け出口需要調査（アンケート）」では、コロナ禍の中で直接インタビューに答えてくれた多くの企業（対応は企業採用役員及び採用担当責任者）があり、様々な意見交換ができた。大学全体への期待についてのインタビューであったが、その中でも、「現代システム科学域など、広い領域から様々な分野を学べるというのは、現代のニーズに合っており、期待している。」、「1つの専門性だけでは現代のビジネスでは通用しないので、複数の専門性が必要になっているため、多くの幅広い学びを経験してほしい。」、「専門性も重要だが、新しく取り組み、課題に対して、どのようにアプローチをしていくかなど重視している。」、「現代システム科学のように幅広い学びができる分野につ

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>いては今後必要になってくると思う。」、「課題を自分から見出すことができ、能動的に動いていける人が活躍していくと思われる。そこで、多様性に富んだ学生を育てていくカリキュラムを作っていてほしい。」、「今後、専門分野だけでなく、人の暮らしに関わる幅広い事業が増えるため、採用も多様化する予定である。」、「『テクノロジー×社会科学』の融合分野が欲しい。」など、採用人数を未定と示している企業等においても、特に、現代システム科学域の卒業生及び現代システム科学域において実施することとなる教育に対しての期待が高いことを確認しており、これまでの就職実績及び直接的な企業採用役員（担当者）の意見として、確実な採用が見込まれることに疑う余地はないものと考えている。</p> |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|